

後発医薬品の安心使用にかかる意識調査

－報告書－

平成 20 年度



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

I. 文献調査.....	1
1. 後発医薬品の現状.....	1
2. 後発医薬品使用促進意識.....	12
(1) 入院患者に対する後発医薬品の使用状況.....	12
(2) 院外処方における後発医薬品の使用状況.....	14
3. 後発医薬品啓発（広報等）の充実度意識.....	22
4. 医療機関及び一般国民における後発医薬品の認知度、問題点.....	23
(1) 認知度.....	23
(2) 問題点.....	36
5. 医療機関規模別、診療科目別の後発医薬品企業への要望.....	38
II. 一般国民向けアンケート調査結果.....	42
1. アンケート実施概要.....	42
2. 回答者属性.....	43
(1) 性別.....	43
(2) 年齢.....	43
(3) 居住地.....	43
(4) 職業.....	44
(5) 世帯年収.....	45
3. アンケート結果.....	46
(1) ジェネリック医薬品の認知度.....	46
(2) 後発医薬品を知ったきっかけ.....	48
(3) 情報の有効度.....	51
(4) 薬局の処方せん窓口でジェネリック医薬品を勧められた経験.....	55
(5) 処方せんの「変更不可」欄の認知度.....	57
(6) ジェネリック医薬品の使用の有無.....	58
(7) 初めてジェネリック医薬品を使用したきっかけ.....	59
(8) 先発医薬品と比較したジェネリック医薬品の効き目.....	60
(9) 薬局や医療機関の窓口で支払ったお薬代について.....	62
(10) ジェネリック医薬品を使用後先発医薬品に戻した経験の有無.....	63
(11) ジェネリック医薬品の使用をやめた理由.....	65

(12)	ジェネリック医薬品に対するイメージ.....	68
(13)	ジェネリック医薬品の使用意向.....	72
(14)	ジェネリック医薬品の今後の使用意向.....	74
(15)	ジェネリック医薬品を選ぶ際にメーカーに関して重視すること.....	78
(16)	常用薬の有無.....	81
(17)	平成20年4月以降の平均1か月あたりのお薬代.....	82
(18)	どれだけ安くなればジェネリック医薬品を使用するか.....	83
(19)	薬の情報の入手経路.....	85
(20)	ジェネリック医薬品について必要な情報.....	88
(21)	「どこから」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか.....	91
(22)	「どのように」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか.....	94
(23)	薬局を選ぶ際に重視する項目.....	100
(24)	医薬品の取り扱い状況による薬局の選択.....	101
(25)	どのようなツールがあればジェネリック医薬品を依頼しやすいか.....	103
III.	まとめ.....	105

I. 文献調査

1. 後発医薬品の現状

厚生労働省「社会医療診療行為別調査」によると、「投薬」における「後発医薬品明細書出現率」は、2008年6月審査分では、総数で51.9%、入院で80.2%、入院外で50.5%となっている。経年の変化をみると、総数・入院・入院外のいずれも2002年から2008年にかけて増加傾向にある。

次に、病院・診療所別にみると、総数・入院・入院外のいずれの場合も、病院（それぞれ49.5%、80.1%、43.2%）よりも診療所（それぞれ52.8%、81.6%、52.6%）の後発医薬品明細書出現率が高くなっている。また、病院を施設類型別にみると、特定機能病院において総数・入院・入院外のいずれの場合も他の施設類型と比べ後発医薬品明細書出現率が低くなっている。

図表1 後発医薬品明細書出現率（投薬）〔施設種類別〕

		(各年6月審査分)						
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総数	病院	36.9%	39.6%	43.7%	42.7%	43.7%	47.2%	49.5%
	精神病院	54.0%	53.9%	57.0%	59.0%	56.8%	58.7%	64.4%
	結核療養所	30.9%	40.0%	35.2%	—	—	—	—
	特定機能病院	25.0%	26.5%	23.8%	22.4%	23.0%	26.5%	27.9%
	療養病床を有する病院	43.7%	47.8%	53.1%	47.3%	45.5%	55.1%	56.1%
	老人病院	54.5%	—	—	—	—	—	—
	一般病院	33.8%	36.7%	39.7%	39.6%	42.8%	44.2%	46.1%
	診療所	48.9%	51.3%	51.3%	49.4%	52.4%	52.9%	52.8%
	有床診療所	51.4%	53.1%	52.7%	52.0%	52.6%	54.2%	54.5%
	無床診療所	48.1%	50.8%	50.9%	48.7%	52.4%	52.6%	52.4%
	入院	66.6%	70.3%	74.3%	75.2%	75.2%	78.7%	80.2%
	病院	65.7%	69.5%	73.7%	74.7%	74.7%	78.3%	80.1%
	精神病院	71.9%	73.5%	76.9%	77.7%	74.1%	77.6%	84.8%
	結核療養所	33.3%	50.0%	42.4%	—	—	—	—
入院	特定機能病院	51.9%	55.1%	59.7%	55.5%	66.2%	69.7%	66.4%
	療養病床を有する病院	71.6%	77.5%	79.5%	80.4%	80.4%	83.6%	84.0%
	老人病院	86.9%	—	—	—	—	—	—
	一般病院	64.4%	68.2%	71.5%	72.6%	73.1%	76.6%	78.1%
	診療所	78.9%	80.2%	81.2%	80.8%	80.6%	82.4%	81.6%
	有床診療所	78.9%	80.2%	81.2%	80.8%	80.6%	82.4%	81.6%
	無床診療所	—	—	—	—	—	—	—
	入院外	43.6%	46.4%	47.8%	46.0%	48.6%	50.3%	50.5%
	病院	31.9%	34.2%	37.9%	36.8%	38.0%	40.5%	43.2%
	精神病院	47.3%	47.6%	50.6%	52.4%	51.1%	53.5%	58.2%
	結核療養所	29.2%	31.1%	31.0%	—	—	—	—
	特定機能病院	19.1%	20.7%	22.1%	20.9%	20.8%	24.4%	26.2%
	療養病床を有する病院	40.6%	44.0%	48.7%	43.4%	41.4%	49.1%	51.6%
	老人病院	48.9%	—	—	—	—	—	—
	一般病院	28.3%	30.7%	33.1%	32.1%	35.9%	36.9%	38.6%
	診療所	48.7%	51.2%	51.1%	49.2%	52.3%	52.7%	52.6%
	有床診療所	50.8%	52.5%	52.0%	51.2%	51.8%	53.3%	53.6%
	無床診療所	48.1%	50.8%	50.9%	48.7%	52.4%	52.6%	52.4%

注1：診療行為区分「投薬」に「薬剤」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く）を集計対象とし、薬剤名不明は除外している。

注2：後発医薬品明細書出現率＝後発医薬品が出現した明細書件数÷明細書総件数×100

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

診療所診療科別に「投薬」における「後発医薬品明細書出現率」をみると、2008年6月審査分では、総数・入院・入院外のいずれの場合も、「耳鼻咽喉科」（それぞれ70.4%、89.2%、70.4%）、「眼科」（それぞれ63.2%、91.7%、63.0%）で割合が高くなっている。

図表2 後発医薬品明細書出現率（投薬）〔診療所診療科別〕

(各年6月審査分)							
	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総数	48.9%	51.3%	51.3%	49.4%	52.4%	52.9%	52.8%
内科	47.8%	52.2%	51.7%	47.6%	52.0%	53.7%	52.1%
精神科又は神経科	43.7%	48.5%	37.0%	40.4%	40.2%	44.7%	45.6%
小児科	49.9%	47.4%	45.9%	47.0%	49.2%	51.8%	50.0%
外科	50.4%	50.9%	52.2%	55.1%	56.1%	53.4%	54.5%
整形外科	53.2%	53.7%	49.2%	49.8%	50.5%	49.8%	48.6%
皮膚科	41.8%	36.6%	41.5%	44.3%	40.6%	44.5%	46.6%
泌尿器科	42.1%	43.9%	42.7%	42.6%	47.7%	48.5%	46.6%
産婦人科	29.9%	30.9%	33.0%	32.2%	34.0%	33.8%	36.3%
眼科	61.6%	61.6%	65.4%	63.0%	63.3%	60.8%	63.2%
耳鼻咽喉科	57.5%	60.1%	61.4%	62.0%	69.7%	67.3%	70.4%
その他	46.7%	49.6%	47.6%	47.4%	51.1%	52.6%	52.7%
入院	78.9%	80.2%	81.2%	80.8%	80.6%	82.4%	81.6%
内科	83.9%	81.9%	84.5%	85.3%	84.0%	85.1%	85.2%
精神科又は神経科	78.2%	80.5%	75.8%	74.1%	79.4%	82.2%	80.1%
小児科	67.4%	81.8%	82.6%	82.7%	82.9%	83.1%	81.5%
外科	85.7%	86.7%	87.7%	86.0%	88.0%	88.7%	87.1%
整形外科	73.6%	78.7%	77.8%	77.4%	75.6%	76.7%	77.7%
皮膚科	76.8%	82.3%	88.5%	84.6%	77.2%	79.8%	82.6%
泌尿器科	85.5%	84.5%	86.2%	87.1%	87.5%	86.4%	87.7%
産婦人科	66.9%	69.8%	69.7%	66.3%	68.6%	71.9%	72.0%
眼科	88.8%	89.0%	91.6%	92.5%	90.9%	92.7%	91.7%
耳鼻咽喉科	80.2%	84.9%	86.8%	88.2%	87.9%	89.4%	89.2%
その他	79.2%	79.2%	81.7%	82.1%	83.4%	83.0%	84.0%
入院外	48.7%	51.2%	51.1%	49.2%	52.3%	52.7%	52.6%
内科	47.7%	52.1%	51.6%	47.5%	51.9%	53.6%	51.9%
精神科又は神経科	43.6%	48.4%	37.0%	40.3%	40.2%	44.7%	45.6%
小児科	49.8%	47.3%	45.9%	46.9%	49.1%	51.7%	50.0%
外科	49.8%	50.4%	51.8%	54.6%	55.7%	52.8%	54.1%
整形外科	53.0%	53.4%	49.0%	49.6%	50.3%	49.6%	48.4%
皮膚科	41.7%	36.6%	41.5%	44.3%	40.6%	44.5%	46.6%
泌尿器科	41.5%	43.4%	42.2%	42.1%	47.3%	48.0%	46.1%
産婦人科	28.6%	29.5%	31.6%	31.0%	32.8%	32.4%	34.8%
眼科	61.5%	61.5%	65.3%	62.9%	63.1%	60.6%	63.0%
耳鼻咽喉科	57.4%	60.1%	61.4%	62.0%	69.7%	67.3%	70.4%
その他	46.1%	49.0%	46.9%	46.7%	50.5%	52.1%	52.1%

注1：診療行為を区分「投薬」に「薬剤」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く）を集計対象とし、薬剤名不明は除外している。

注2：後発医薬品明細書出現率＝後発医薬品が出現した明細書件数÷明細書総件数×100

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合をみると、2008 年 6 月審査分では、総数で 9.3%、入院で 5.6%、入院外で 9.7%となっている。

次に一般・老人医療別にみると、総数・入院・入院外のいずれにおいても、一般医療と老人医療で大差がみられない。

図表 3 薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合（投薬）〔一般・老人医療別〕

		(各年6月審査分)						
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総数		6.5%	7.6%	7.5%	7.7%	8.6%	9.2%	9.3%
	一般医療	6.2%	7.3%	7.3%	7.5%	8.5%	9.1%	9.3%
	老人医療	6.9%	8.1%	7.7%	8.1%	8.8%	9.5%	9.3%
入院		3.7%	4.1%	4.7%	4.9%	5.1%	5.2%	5.6%
	一般医療	3.7%	4.3%	4.4%	4.7%	4.9%	4.9%	5.5%
	老人医療	3.7%	3.9%	5.0%	5.1%	5.3%	5.7%	5.8%
入院外		6.8%	8.0%	7.8%	8.0%	9.0%	9.7%	9.7%
	一般医療	6.5%	7.6%	7.6%	7.7%	8.8%	9.5%	9.7%
	老人医療	7.3%	8.6%	8.1%	8.5%	9.2%	10.0%	9.8%

注：診療行為区分「投薬」に「薬剤」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く）を集計対象とし、薬剤名不明は除外している。

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

病院・診療所別に薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合をみると、総数・入院・入院外のいずれの場合においても、病院（それぞれ 5.3%、5.4%、5.3%）よりも診療所（それぞれ 12.7%、9.6%、12.7%）の割合が高くなっている。経年の変化をみると、総数・入院・入院外のいずれも 2002 年から 2008 年にかけて、わずかではあるが増加傾向にある。

病院について施設類型別にみると、特に特定機能病院における薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合が低くなっている（それぞれ 2.2%、1.9%、2.3%）が、これは DPC に係る明細書が除外されているためと思われる。

図表 4 薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合（投薬）〔施設種類別〕

（各年6月審査分）

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総数	6.5%	7.6%	7.5%	7.7%	8.6%	9.2%	9.3%
病院	3.6%	4.0%	4.2%	4.4%	4.6%	4.8%	5.3%
精神病院	7.8%	7.6%	7.3%	7.4%	6.9%	7.5%	8.5%
結核療養所	1.5%	1.9%	1.9%	—	—	—	—
特定機能病院	1.6%	1.6%	1.6%	2.0%	1.9%	1.8%	2.2%
療養病床を有する病院	4.8%	5.9%	6.5%	5.7%	5.6%	7.5%	7.3%
老人病院	6.0%	—	—	—	—	—	—
一般病院	3.0%	3.3%	3.3%	3.5%	39.3%	4.0%	4.4%
診療所	9.7%	11.4%	10.2%	10.8%	47.9%	12.4%	12.7%
有床診療所	10.4%	11.8%	11.3%	11.3%	46.8%	13.2%	12.7%
無床診療所	9.4%	11.3%	9.9%	10.6%	37.8%	12.2%	12.7%
入院	3.7%	4.1%	4.7%	4.9%	5.1%	5.2%	5.6%
病院	3.5%	3.8%	4.4%	4.7%	4.9%	4.9%	5.4%
精神病院	7.4%	7.8%	7.4%	7.0%	6.7%	7.2%	8.4%
結核療養所	1.4%	2.2%	2.4%	—	—	—	—
特定機能病院	1.5%	1.8%	1.4%	1.9%	2.1%	2.0%	1.9%
療養病床を有する病院	4.1%	5.5%	5.7%	6.2%	6.7%	6.9%	7.5%
老人病院	6.3%	—	—	—	—	—	—
一般病院	2.7%	2.9%	3.3%	3.7%	4.0%	3.7%	4.1%
診療所	9.3%	10.6%	10.0%	9.7%	9.7%	10.4%	9.6%
有床診療所	9.3%	10.6%	10.0%	9.7%	9.7%	10.4%	9.6%
無床診療所	—	—	—	—	—	—	—
入院外	6.8%	8.0%	7.8%	8.0%	9.0%	9.7%	9.7%
病院	3.6%	4.0%	4.2%	4.3%	4.6%	4.8%	5.3%
精神病院	8.2%	7.4%	7.2%	7.7%	7.0%	7.7%	8.5%
結核療養所	1.5%	1.5%	1.5%	—	—	—	—
特定機能病院	1.6%	1.6%	1.6%	2.0%	1.9%	1.7%	2.3%
療養病床を有する病院	4.9%	6.0%	6.6%	5.6%	5.5%	7.7%	7.3%
老人病院	6.0%	—	—	—	—	—	—
一般病院	3.1%	3.5%	3.3%	3.5%	4.2%	4.1%	4.5%
診療所	9.7%	11.4%	10.2%	10.8%	12.2%	12.4%	12.7%
有床診療所	10.5%	11.9%	11.4%	11.4%	11.3%	13.4%	12.8%
無床診療所	9.4%	11.3%	9.9%	10.6%	12.4%	12.2%	12.7%

注：診療行為を区分「投薬」に「薬剤」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及び DPC に係る明細書は除く）を集計対象とし、薬剤名不明は除外している。

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

診療所診療科別に薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合をみると、2008年6月審査分では、総数・入院・入院外のいずれの場合も、「耳鼻咽喉科」（それぞれ21.9%、11.8%、21.9%）で割合が最も高くなっている。

図表5 薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合（投薬）〔診療所診療科別〕

(各年6月審査分)							
	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総数	9.7%	11.4%	10.2%	10.8%	12.2%	12.4%	12.7%
内科	8.8%	11.0%	9.5%	9.6%	11.6%	11.8%	11.7%
精神科又は神経科	9.0%	9.4%	7.3%	7.6%	7.5%	8.1%	8.2%
小児科	8.4%	7.7%	8.0%	8.5%	10.3%	9.7%	9.1%
外科	10.2%	11.1%	12.3%	14.2%	13.2%	13.5%	12.3%
整形外科	13.4%	12.8%	11.3%	10.7%	11.5%	10.8%	12.1%
皮膚科	12.8%	13.0%	12.8%	16.7%	16.5%	17.8%	20.0%
泌尿器科	9.5%	11.8%	10.3%	10.3%	15.6%	17.0%	13.5%
産婦人科	7.8%	7.8%	7.5%	8.4%	8.5%	10.0%	10.4%
眼科	16.8%	19.4%	19.2%	18.9%	20.2%	20.3%	20.4%
耳鼻咽喉科	12.1%	16.1%	14.7%	18.8%	15.3%	19.3%	21.9%
その他	6.3%	6.9%	6.1%	6.3%	7.4%	8.1%	8.0%
入院	9.3%	10.6%	10.0%	9.7%	9.7%	10.4%	9.6%
内科	10.3%	10.8%	10.1%	10.1%	9.7%	10.6%	9.3%
精神科又は神経科	10.1%	8.7%	7.8%	8.0%	7.2%	7.8%	9.0%
小児科	6.2%	6.8%	5.4%	22.4%	7.3%	11.0%	9.0%
外科	9.1%	10.9%	11.5%	9.5%	10.7%	10.2%	10.8%
整形外科	8.9%	11.7%	10.9%	9.6%	10.1%	10.2%	9.3%
皮膚科	10.9%	12.9%	12.7%	7.2%	8.9%	12.2%	10.1%
泌尿器科	8.5%	11.7%	8.8%	9.2%	9.6%	11.1%	10.1%
産婦人科	8.5%	7.7%	7.8%	8.2%	8.0%	11.1%	10.3%
眼科	5.1%	10.7%	8.0%	8.1%	8.1%	8.7%	7.1%
耳鼻咽喉科	11.3%	15.0%	15.7%	16.7%	17.1%	23.5%	11.8%
その他	6.6%	6.7%	6.9%	6.6%	7.5%	8.7%	8.4%
入院外	9.7%	11.4%	10.2%	10.8%	12.2%	12.4%	12.7%
内科	8.8%	11.0%	9.5%	9.6%	11.6%	11.8%	11.7%
精神科又は神経科	9.0%	9.4%	7.3%	7.6%	7.5%	8.1%	8.2%
小児科	8.4%	7.7%	8.1%	8.5%	10.3%	9.7%	9.1%
外科	10.2%	11.1%	12.4%	14.3%	13.3%	13.6%	12.3%
整形外科	13.5%	12.8%	11.3%	10.7%	11.5%	10.8%	12.1%
皮膚科	12.8%	13.0%	12.8%	16.7%	16.5%	17.8%	20.0%
泌尿器科	9.5%	11.8%	10.4%	10.3%	15.8%	17.1%	13.6%
産婦人科	7.8%	7.8%	7.5%	8.4%	8.5%	10.0%	10.4%
眼科	16.9%	19.5%	19.3%	19.0%	20.4%	20.5%	20.5%
耳鼻咽喉科	12.1%	16.1%	14.7%	18.8%	15.3%	19.3%	21.9%
その他	6.3%	6.9%	6.1%	6.3%	7.4%	8.1%	8.0%

注：診療行為区分「投薬」に「薬剤」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く）を集計対象とし、薬剤名不明は除外している。

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

1件当たり後発医薬品の種類数をみると、2008年6月審査分では、総数で0.91品目、入院で1.18品目、入院外で0.9品目となっている。経年の変化をみると、総数・入院・入院外のいずれも2002年から2008年にかけて増加傾向にある。

次に、一般・老人医療別に1件当たり後発医薬品の種類数をみると、総数・入院・入院外のいずれにおいても、一般医療と比べて老人医療の方が、種類数が多くなっている。

図表6 1件当たり後発医薬品の種類数（投薬）〔一般・老人医療別〕

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総数	0.71	0.77	0.81	0.77	0.85	0.89	0.91
一般医療	0.63	0.69	0.72	0.69	0.77	0.81	0.82
老人医療	0.88	0.95	1.00	0.98	1.08	1.13	1.16
入院	0.74	0.81	0.96	0.98	0.97	1.14	1.18
一般医療	0.66	0.74	0.87	0.90	0.86	1.08	1.10
老人医療	0.83	0.90	1.08	1.09	1.13	1.21	1.26
入院外	0.71	0.77	0.80	0.76	0.85	0.88	0.90
一般医療	0.63	0.69	0.71	0.68	0.77	0.80	0.81
老人医療	0.89	0.96	0.99	0.97	1.07	1.12	1.15

注1：診療行為区分「投薬」に「薬剤」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く）を集計対象とし、薬剤名不明は除外している。

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合をみると、2008年6月審査分では、総数で24.4%、入院で17.4%、入院外で25.2%となっている。経年の変化をみると、総数・入院・入院外のいずれも2002年から2008年にかけて増加傾向にある。

図表7 1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合（投薬）〔一般・老人医療別〕

(各年6月審査分)							
	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総数	19.0%	20.6%	21.7%	21.2%	23.0%	24.0%	24.4%
一般医療	18.6%	20.2%	21.1%	20.9%	22.7%	23.7%	24.2%
老人医療	19.4%	21.5%	22.3%	22.0%	23.9%	24.6%	24.7%
入院	11.2%	12.4%	14.5%	15.1%	15.0%	17.2%	17.4%
一般医療	10.9%	12.3%	14.3%	15.0%	14.5%	17.3%	17.1%
老人医療	11.3%	12.5%	14.8%	15.4%	15.7%	17.1%	17.4%
入院外	19.9%	21.6%	22.3%	21.8%	23.9%	24.6%	25.2%
一般医療	19.3%	21.0%	21.6%	21.3%	23.5%	24.1%	24.7%
老人医療	20.7%	22.9%	23.2%	22.8%	24.9%	25.6%	25.8%

注1：診療行為区分「投薬」に「薬剤」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く）を集計対象とし、薬剤名不明は除外している。

注2：「後発医薬品」は、1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数である。

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

施設種類別に1件当たり後発医薬品の種類数をみると、2007年6月審査分では、総数・入院・入院外のいずれの場合も、病院（それぞれ0.7、1.11、0.62）に比べ診療所（それぞれ0.94、1.42、0.94）の種類数が多くなっている。

図表8 1件当たり後発医薬品の種類数（投薬）〔施設種類別〕

（各年6月審査分）

	2002	2003	2004	2005	2006	2007
総数	0.71	0.77	0.81	0.77	0.85	0.89
病院	0.47	0.52	0.60	0.59	0.62	0.70
精神病院	1.13	1.11	1.22	1.29	1.22	1.36
結核療養所	0.33	0.51	0.49	—	—	—
特定機能病院	0.23	0.25	0.24	0.23	0.24	0.29
療養病床を有する病院	0.66	0.77	0.82	0.76	0.70	0.99
老人病院	0.83	—	—	—	—	—
一般病院	0.36	0.41	0.47	0.45	0.53	0.55
診療所	0.83	0.89	0.89	0.85	0.95	0.94
有床診療所	0.86	0.91	0.92	0.90	0.91	0.94
無床診療所	0.82	0.88	0.88	0.83	0.96	0.94
入院	0.74	0.81	0.96	0.98	0.97	1.14
病院	0.69	0.76	0.92	0.96	0.94	1.11
精神病院	1.72	1.81	1.99	1.95	1.90	2.28
結核療養所	0.30	0.65	0.64	—	—	—
特定機能病院	0.38	0.45	0.58	0.52	0.75	0.72
療養病床を有する病院	0.87	1.03	1.08	1.24	1.11	1.40
老人病院	1.35	—	—	—	—	—
一般病院	0.53	0.59	0.73	0.72	0.75	0.85
診療所	1.32	1.43	1.37	1.30	1.36	1.42
有床診療所	1.32	1.43	1.37	1.30	1.36	1.42
無床診療所						
入院外	0.71	0.77	0.80	0.76	0.85	0.88
病院	0.43	0.48	0.53	0.53	0.56	0.62
精神病院	0.91	0.89	0.97	1.05	1.00	1.10
結核療養所	0.35	0.38	0.41	—	—	—
特定機能病院	0.20	0.21	0.22	0.22	0.21	0.26
療養病床を有する病院	0.64	0.73	0.78	0.70	0.65	0.90
老人病院	0.75	—	—	—	—	—
一般病院	0.33	0.38	0.41	0.38	0.48	0.48
診療所	0.83	0.89	0.88	0.84	0.95	0.94
有床診療所	0.85	0.90	0.91	0.88	0.89	0.93
無床診療所	0.82	0.88	0.88	0.83	0.96	0.94

注1：入院は「投薬」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く）を集計の対象としている。
出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

施設種類別に 1 件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合をみると、2007 年 6 月審査分では、総数・入院・入院外のいずれの場合も、病院（それぞれ 16.1%、16.6%、16.1%）に比べ診療所（それぞれ 26.7%、23.4%、26.8%）の種類数が多くなっている。

図表 9 1 件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合（投薬）
[施設種類別]

(各年 6 月審査分)						
	2002	2003	2004	2005	2006	2007
総数	19.0%	20.6%	21.7%	21.2%	23.0%	24.0%
病院	11.2%	12.2%	14.1%	14.0%	14.8%	16.1%
精神病院	18.4%	18.5%	20.0%	21.1%	20.2%	23.1%
結核療養所	5.4%	7.7%	9.6%	—	—	—
特定機能病院	5.4%	6.0%	6.3%	6.1%	6.4%	7.4%
療養病床を有する病院	15.2%	17.4%	18.1%	17.5%	17.2%	21.5%
老人病院	18.0%	—	—	—	—	—
一般病院	9.0%	10.0%	11.7%	11.4%	13.0%	13.4%
診療所	23.9%	25.6%	25.3%	25.1%	27.1%	26.7%
有床診療所	24.7%	26.1%	26.4%	26.2%	25.9%	27.3%
無床診療所	23.6%	25.3%	24.9%	24.6%	27.5%	26.6%
入院	11.2%	12.4%	14.5%	15.1%	15.0%	17.2%
病院	10.4%	11.6%	13.8%	14.7%	14.5%	16.6%
精神病院	18.3%	19.5%	20.5%	21.0%	19.5%	23.1%
結核療養所	3.5%	6.9%	9.0%	—	—	—
特定機能病院	5.5%	6.4%	6.9%	6.2%	9.1%	8.2%
療養病床を有する病院	13.2%	16.0%	16.3%	18.4%	17.6%	20.8%
老人病院	20.9%	—	—	—	—	—
一般病院	8.5%	9.5%	11.7%	12.0%	12.4%	13.8%
診療所	21.3%	22.6%	22.3%	21.2%	22.4%	23.4%
有床診療所	21.3%	22.6%	22.3%	21.2%	22.4%	23.4%
無床診療所	—	—	—	—	—	—
入院外	19.9%	21.6%	22.3%	21.8%	23.9%	24.6%
病院	11.3%	12.5%	13.9%	14.0%	14.9%	16.1%
精神病院	18.5%	18.0%	19.7%	21.1%	20.7%	22.9%
結核療養所	8.1%	9.3%	10.3%	—	—	—
特定機能病院	5.4%	5.9%	6.2%	6.1%	5.9%	7.0%
療養病床を有する病院	15.6%	17.5%	18.7%	17.2%	17.0%	21.6%
老人病院	17.4%	—	—	—	—	—
一般病院	9.1%	10.3%	11.5%	10.9%	13.3%	13.2%
診療所	24.0%	25.7%	25.1%	24.9%	27.3%	26.8%
有床診療所	24.9%	26.4%	26.6%	26.1%	25.8%	27.7%
無床診療所	23.6%	25.3%	24.9%	24.6%	27.5%	26.6%

注 1：入院は「投薬」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及び DPC に係る明細書は除く）を集計の対象としている。

注 2：1 件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合＝1 件当たり後発医薬品の種類数×100
÷ 1 件当たり薬剤種類数

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

診療所診療科別に1件当たり後発医薬品の種類数をみると、2007年6月審査分では、総数では「耳鼻咽喉科」（1.09品目）、入院では「整形外科」（2.99品目）、入院外では「耳鼻咽喉科」（1.09品目）が最も多くなっている。

図表 10 1件当たり後発医薬品の種類数（投薬）〔診療所診療科別〕

	2002	2003	2004	2005	2006	2007
総数	0.83	0.89	0.89	0.85	0.95	0.94
内科	0.90	1.03	0.99	0.90	1.05	1.06
精神科又は神経科	0.92	0.94	0.72	0.80	0.83	0.89
小児科	0.84	0.73	0.77	0.78	0.87	0.90
外科	0.90	0.89	1.01	1.05	1.11	1.02
整形外科	0.81	0.74	0.74	0.72	0.78	0.67
皮膚科	0.70	0.54	0.65	0.71	0.68	0.75
泌尿器科	0.63	0.70	0.69	0.68	0.79	0.81
産婦人科	0.37	0.35	0.40	0.41	0.39	0.40
眼科	0.73	0.74	0.80	0.76	0.83	0.77
耳鼻咽喉科	0.81	0.82	0.76	1.00	1.11	1.09
その他	0.78	0.90	0.82	0.83	0.91	0.97
入院	1.32	1.43	1.37	1.30	1.36	1.42
内科	1.93	1.96	1.84	1.71	1.81	1.89
精神科又は神経科	2.41	2.27	1.91	1.83	1.67	2.04
小児科	0.73	0.92	0.90	1.27	0.99	0.97
外科	1.51	1.79	1.76	1.59	1.81	1.72
整形外科	1.18	1.32	1.29	1.31	1.37	1.34
皮膚科	2.77	2.82	3.08	2.57	2.20	2.99
泌尿器科	1.35	1.46	1.45	1.42	1.51	1.53
産婦人科	0.53	0.54	0.56	0.53	0.55	0.70
眼科	0.88	0.99	0.94	0.94	0.98	1.10
耳鼻咽喉科	1.22	1.47	1.52	1.49	1.55	1.69
その他	1.46	1.57	1.61	1.59	1.67	1.76
入院外	0.83	0.89	0.88	0.84	0.95	0.94
内科	0.89	1.03	0.98	0.90	1.05	1.06
精神科又は神経科	0.92	0.94	0.72	0.80	0.82	0.89
小児科	0.84	0.73	0.77	0.78	0.87	0.90
外科	0.89	0.88	1.00	1.04	1.10	1.01
整形外科	0.81	0.73	0.74	0.72	0.77	0.66
皮膚科	0.70	0.54	0.65	0.71	0.68	0.75
泌尿器科	0.62	0.69	0.68	0.67	0.78	0.80
産婦人科	0.36	0.34	0.39	0.40	0.39	0.39
眼科	0.73	0.74	0.80	0.76	0.83	0.76
耳鼻咽喉科	0.81	0.82	0.76	1.00	1.11	1.09
その他	0.77	0.88	0.80	0.81	0.90	0.95

注1：入院は「投薬」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く）を集計の対象としている。
出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

診療所診療科別に1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合をみると、総数と入院外では「眼科」(それぞれ40.7%、40.6%)、「耳鼻咽喉科」(それぞれ35.0%)、入院では「皮膚科」(32.4%)、「耳鼻咽喉科」(29.1%)で割合が高くなっている。

図表 11 1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合(投薬)
[診療所診療科別]

(各年6月審査分)						
	2002	2003	2004	2005	2006	2007
総数	23.9%	25.6%	25.3%	25.1%	27.1%	26.7%
内科	22.8%	26.1%	24.6%	23.5%	26.5%	26.4%
精神科又は神経科	24.0%	24.0%	19.1%	21.0%	21.9%	23.4%
小児科	19.9%	18.9%	20.0%	20.6%	22.7%	22.1%
外科	24.4%	24.6%	27.8%	28.8%	29.1%	27.9%
整形外科	27.9%	26.3%	25.7%	24.6%	27.3%	22.9%
皮膚科	25.5%	20.4%	24.2%	26.1%	24.5%	27.3%
泌尿器科	21.6%	24.2%	25.2%	24.0%	28.0%	28.6%
産婦人科	16.0%	15.2%	17.0%	17.2%	16.0%	17.2%
眼科	36.3%	37.6%	40.4%	39.6%	41.9%	40.7%
耳鼻咽喉科	26.9%	27.2%	26.7%	33.9%	32.2%	35.0%
その他	16.4%	19.5%	17.0%	17.5%	18.6%	20.0%
入院	21.3%	22.6%	22.3%	21.2%	22.4%	23.4%
内科	24.7%	25.1%	24.8%	23.3%	24.3%	25.1%
精神科又は神経科	24.6%	23.8%	21.0%	21.5%	19.5%	23.2%
小児科	16.6%	17.9%	16.3%	18.4%	17.7%	19.4%
外科	21.5%	24.9%	24.9%	22.9%	25.4%	24.4%
整形外科	21.5%	23.5%	23.2%	22.5%	23.4%	23.2%
皮膚科	35.2%	35.0%	35.4%	28.9%	27.8%	32.4%
泌尿器科	21.1%	22.7%	22.8%	22.7%	23.5%	24.5%
産婦人科	15.7%	15.3%	16.4%	15.7%	16.8%	21.3%
眼科	12.7%	15.0%	14.4%	14.8%	15.9%	18.0%
耳鼻咽喉科	21.3%	25.7%	26.0%	25.3%	27.7%	29.1%
その他	16.2%	17.3%	17.2%	18.1%	19.3%	20.7%
入院外	24.0%	25.7%	25.1%	24.9%	27.3%	26.8%
内科	22.7%	26.1%	24.4%	23.6%	26.6%	26.5%
精神科又は神経科	24.0%	24.1%	19.2%	21.0%	21.7%	23.4%
小児科	19.9%	18.9%	20.1%	20.6%	22.7%	22.1%
外科	24.5%	24.6%	27.9%	28.9%	29.3%	28.1%
整形外科	28.1%	26.3%	25.9%	24.8%	27.1%	22.8%
皮膚科	25.5%	20.4%	24.2%	26.1%	24.5%	27.3%
泌尿器科	21.5%	24.3%	25.2%	24.0%	28.1%	28.7%
産婦人科	15.9%	15.0%	16.9%	17.0%	16.2%	17.0%
眼科	36.9%	38.1%	40.8%	40.0%	42.3%	40.6%
耳鼻咽喉科	26.9%	27.2%	26.7%	33.9%	32.2%	35.0%
その他	16.5%	19.4%	16.9%	17.3%	18.7%	19.8%

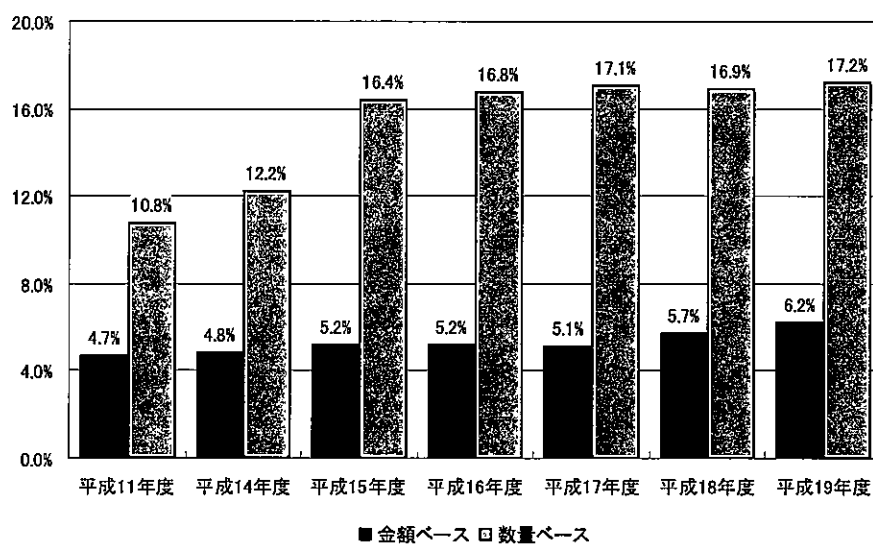
注1：入院は「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く。)を集計の対象としている。

注2：1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合＝1件当たり後発医薬品の種類数×100÷1件当たり薬剤種類数

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

日本ジェネリック製薬協会の調査結果によると、医療用医薬品における後発医薬品のシェアは、平成19年度は金額（薬価ベース）で6.2%、数量ベースで17.2%となっている。

図12 医療用医薬品における後発医薬品のシェア



出所：日本ジェネリック製薬協会 平成21年3月23日

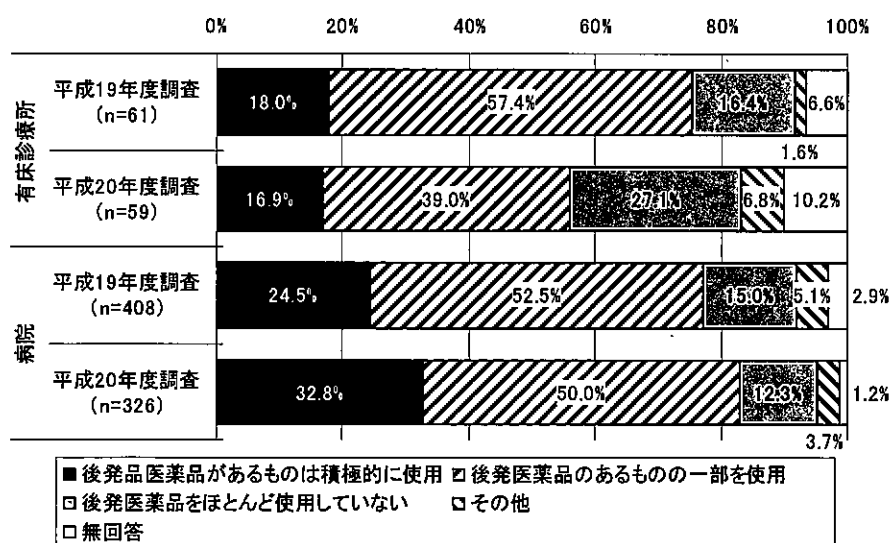
2. 後発医薬品使用促進意識

(1) 入院患者に対する後発医薬品の使用状況

厚生労働省の「後発医薬品の使用状況調査」で入院患者に対する後発医薬品の使用状況についてみると、平成19年度調査では、有床診療所、病院ともに「後発医薬品のあるものの一部を使用」（それぞれ57.4%、52.5%）が最も多く、次いで、「後発医薬品があるものは積極的に使用」（それぞれ18.0%、24.5%）、「後発医薬品はほとんど使用していない」（それぞれ16.4%、15.0%）となっている。

平成20年度調査をみると、有床診療所、病院ともに「後発医薬品のあるものの一部を使用」（有床診療所39.0%、病院50.0%）が最も多い点で共通しているが、続く順位は、有床診療所では「後発医薬品をほとんど使用していない」（27.1%）、「後発医薬品があるものは積極的に使用」（16.9%）という順であったが、病院では「後発医薬品があるものは積極的に使用」（32.8%）、「後発医薬品をほとんど使用していない」（12.3%）という順であった。

図13 入院患者に対する後発医薬品の使用状況

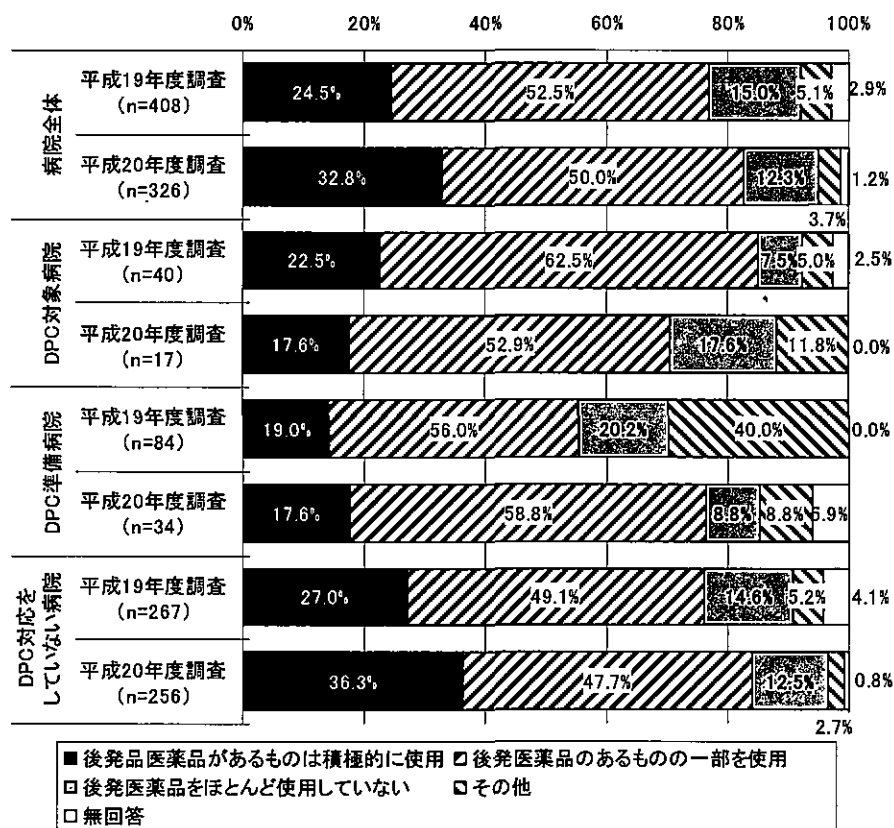


注：平成20年度調査の有床診療所については、平成20年12月1か月間の平均在院患者数が「0」であった施設を除いて集計した。

出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査」

また、DPC 対応状況別にみた病院における入院患者に対する後発医薬品の使用状況についてみると、DPC 対象病院では、平成 19 年度調査、平成 20 年度調査ともに「後発医薬品のあるものの一部を使用」（それぞれ 62.5%、52.9%）が最も多く、「後発医薬品があるものは積極的に使用」（それぞれ 22.5%、17.6%）を合わせるとそれぞれ 85.0%、70.5%となっている。「後発医薬品をほとんど使用していない」はそれぞれ 7.5%、17.6%であった。DPC 準備病院と DPC 対応をしていない病院において、「後発医薬品をほとんど使用していない」割合は、平成 19 年度調査では 20.2%、14.6%、平成 20 年度調査ではそれぞれ 8.8%、12.5%で、DPC 対象病院と比較して高くなっている。

図表 14 病院における入院患者に対する後発医薬品の使用状況（DPC 対応状況別）



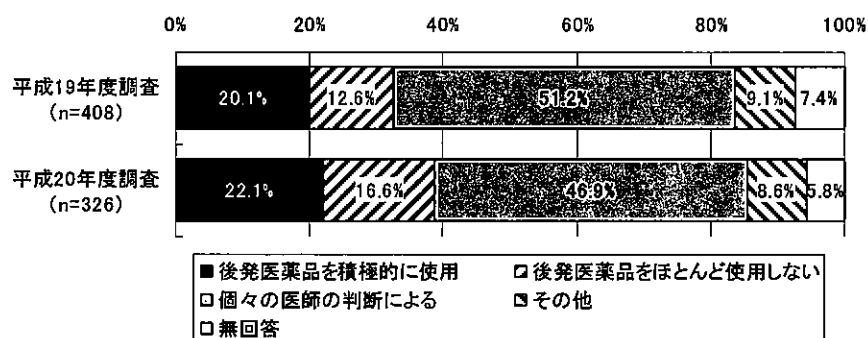
注：「全体」には、「DPC対応状況」について無回答であった施設（平成 19 年度調査 17 施設、平成 20 年度調査 19 施設）が含まれる。

出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査」

(2) 院外処方における後発医薬品の使用状況

病院における外来処方に際しての後発医薬品使用に関する施設としての対応方針についてみると、「個々の医師の判断による」が平成19年度調査、平成20年度調査ともに最も多かった（それぞれ51.2%、46.9%）。次いで、「後発医薬品を積極的に使用」（それぞれ20.1%、22.1%）、「後発医薬品をほとんど使用しない」（それぞれ12.6%、16.6%）の順となった。

図表 15 病院における外来処方に際しての後発医薬品使用についての施設としての対応

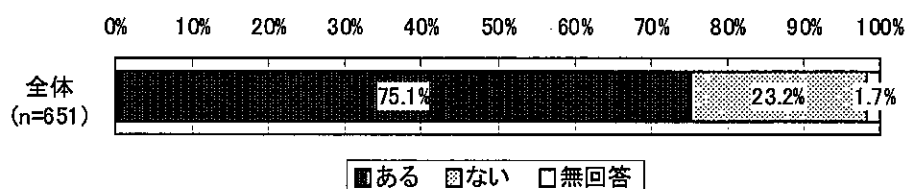


注：平成19年度調査の「その他」の内容として、「採用品であれば後発医薬品を使用」「療養病棟については積極的に使用」「段階的に後発医薬品を導入」等の回答があげられた。

出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査」

病院外来診療担当医における、後発医薬品の銘柄指定をした院外処方せん発行経験の有無についてみると、「ある」と回答した医師が75.1%であった。

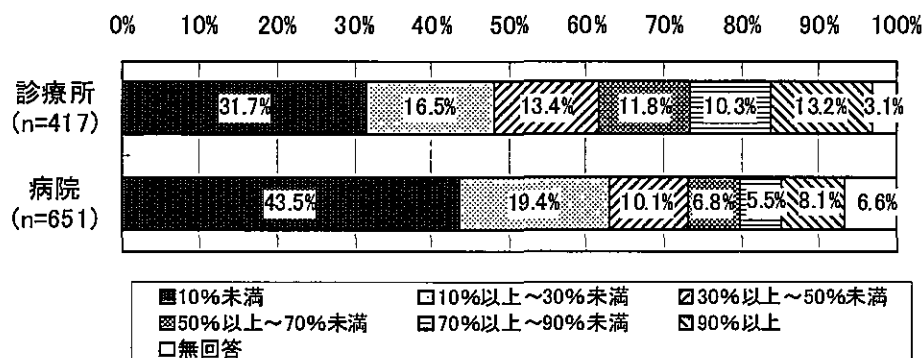
図表 16 病院外来診療担当医における、後発医薬品の銘柄指定をした院外処方せん発行経験の有無（医師ベース）



出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成19年度調査）」

院外処方せんを発行した患者のうち、後発医薬品を処方した患者の割合（「後発医薬品への変更可」に署名の場合も含む）を医師にたずねたところ、診療所、病院ともに「10%未満」（それぞれ31.7%、43.5%）とする医師が最も多く、次いで「10%以上～30%未満」（それぞれ16.5%、19.4%）、「30%以上～50%未満」（それぞれ13.4%、10.1%）であった。一方で、「90%以上」と回答した医師は、診療所では13.2%、病院では8.1%であった。

図表 17 院外処方せんを発行した患者のうち、後発医薬品を処方した患者の割合
（「後発医薬品への変更可」に署名の場合も含む）（医師ベース）



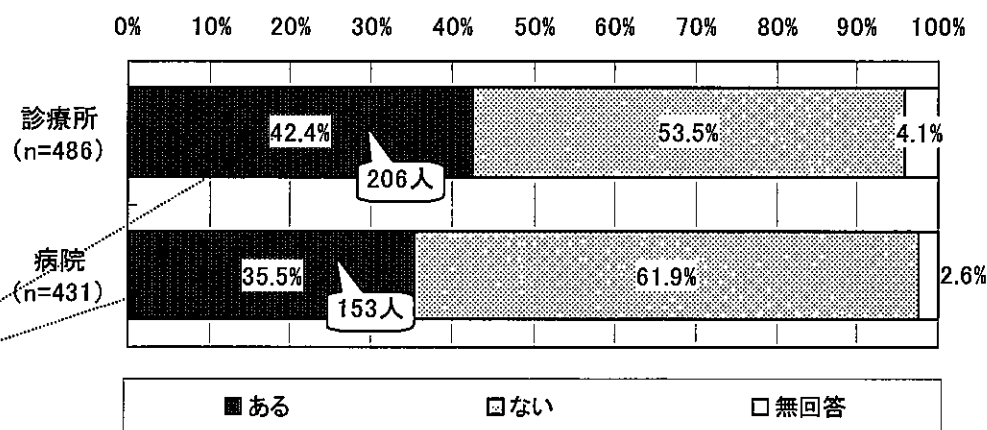
出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成 19 年度調査）」

平成 20 年 4 月の診療報酬改定では、後発医薬品の更なる使用促進のために、処方せん様式が変更となり、処方医が後発医薬品に変更することに差し支えがあると判断した場合に、その意思表示として、所定の「後発医薬品への変更不可」のチェック欄に署名又は記名・押印することとなった。当該欄に処方医の署名等がない場合は、処方せんを受け付けた薬局において、患者の選択に基づき、後発医薬品への変更が可能となった。

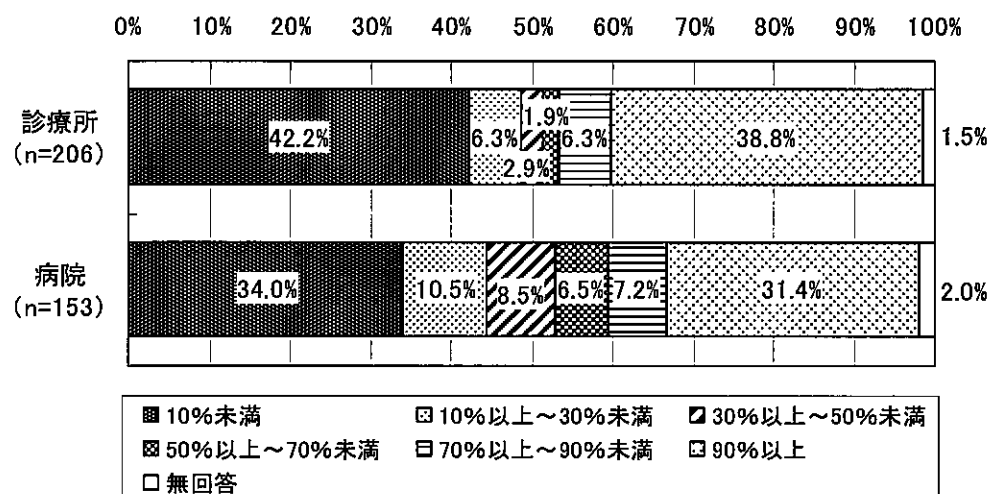
この処方せん様式の変更を受け「後発医薬品への変更不可」欄に署名した処方せんの発行経験の有無について診療所および病院の医師にたずねたところ、「ある」と回答した医師は、診療所が 42.4%（206 人）、病院が 35.5%（153 人）であった。

また、「後発医薬品への変更不可」欄に署名した処方せんが、院外処方せん枚数全体に占める割合についてみると、診療所・病院ともに「10%未満」（それぞれ 42.2%、34.0%）と「90%以上」（それぞれ 38.8%、31.4%）が、ほぼ同じ割合となっている。

図表 18 「後発医薬品への変更不可」欄に署名した処方せんの発行経験の有無
(医師ベース)



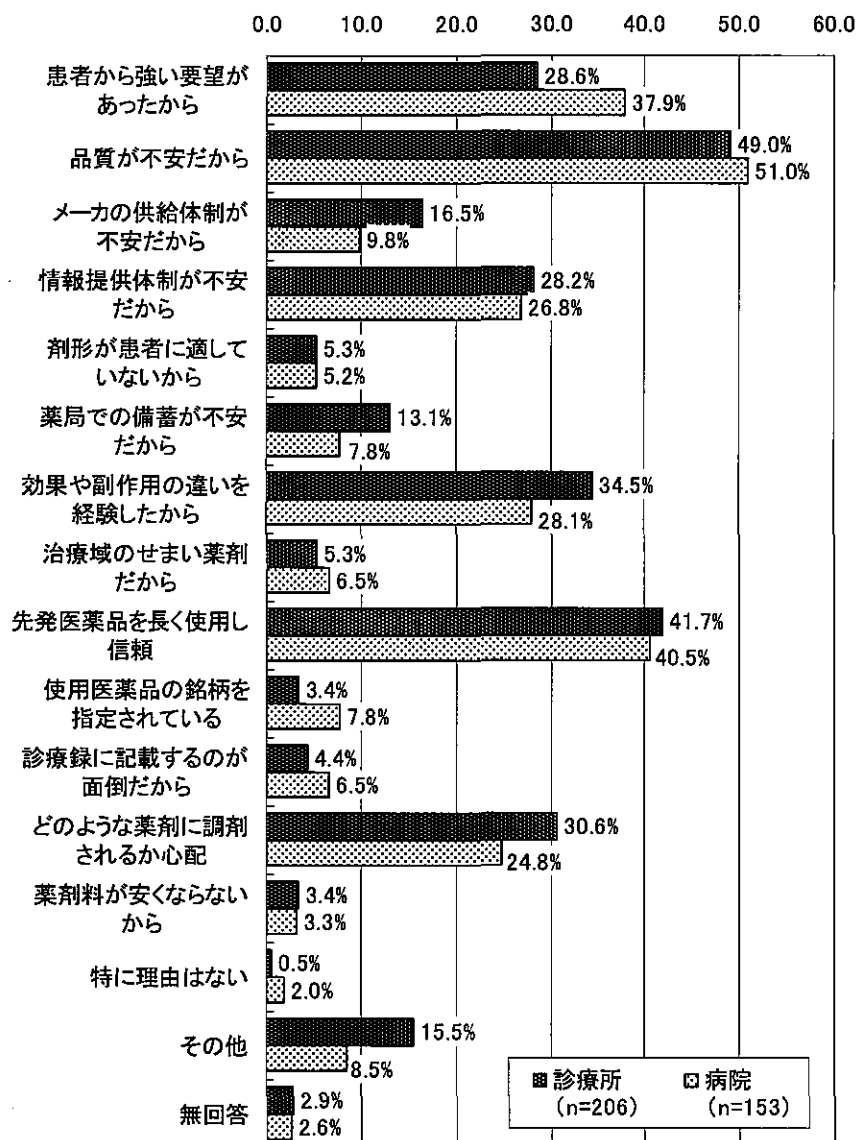
図表 19 院外処方せん枚数全体に占める、「変更不可」欄に署名した処方せんの割合 (医師ベース)



出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成20年度調査）」

「後発医薬品への変更不可」欄に署名した理由について診療所および病院の医師にたずねたところ、診療所・病院ともに「品質が不安だから」（診療所 49.0%、病院 51.0%）が最も多かった。次いで、診療所では「先発医薬品を長く使用し信頼しているから」（41.7%）、「効果や副作用の違いを経験したから」（34.5%）、病院では「先発医薬品を長く使用し信頼しているから」（40.5%）、「患者から強い要望があったから」（37.9%）の順となった。

図表 20 「後発医薬品への変更不可」欄に署名した理由（医師ベース、複数回答）

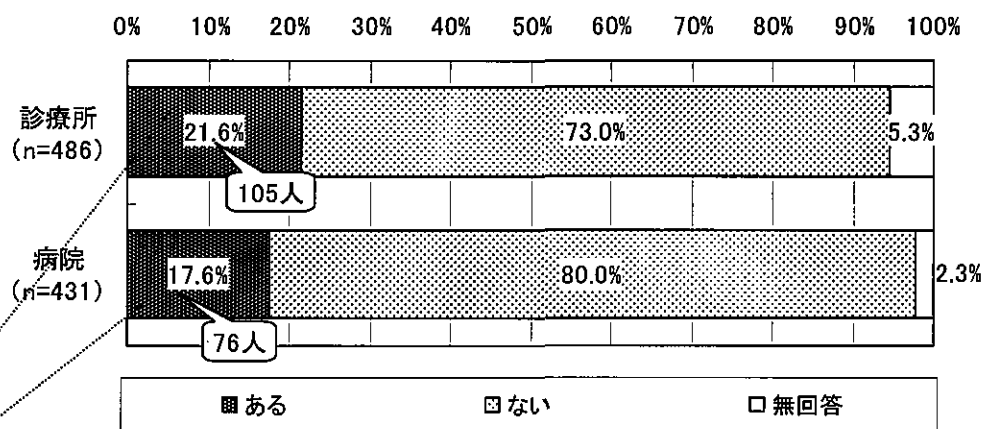


出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成 20 年度調査）」

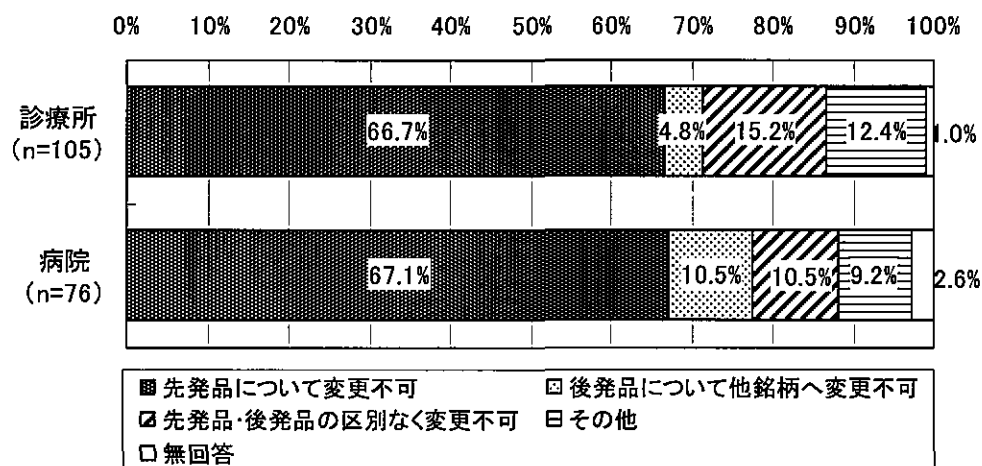
一部の医薬品についてのみ、後発医薬品への「変更不可」と記載した処方せんの発行経験の有無について診療所および病院の医師にたずねたところ、「ある」と回答した医師は、診療所が21.6%（105人）、病院が17.6%（76人）であった。

さらに、一部の医薬品について後発医薬品への「変更不可」とするケースで最も多いものについてみると、診療所・病院ともに「先発品について変更不可」という回答が7割弱となった。

図表 21 一部の医薬品についてのみ後発医薬品への「変更不可」と記載した処方せんの発行の有無（医師ベース）



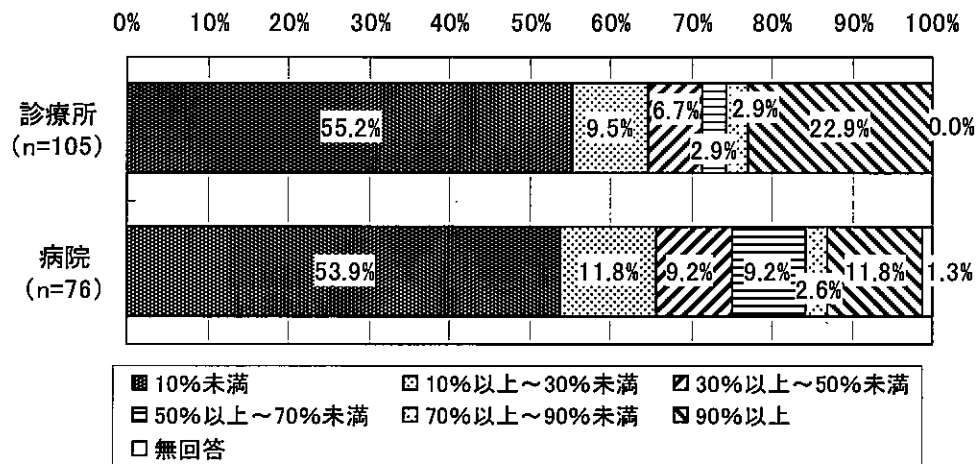
図表 22 一部の医薬品について後発医薬品への「変更不可」とするケースで最も多いもの（医師ベース）



出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成20年度調査）」

一部の医薬品について「変更不可」と記載した処方せん枚数の割合について診療所および病院の医師にたずねたところ、診療所・病院ともに「10%未満」（それぞれ55.2%、53.9%）が最も多かった。一方、「90%以上」（それぞれ22.9%、11.8%）も比較的高い割合となった。

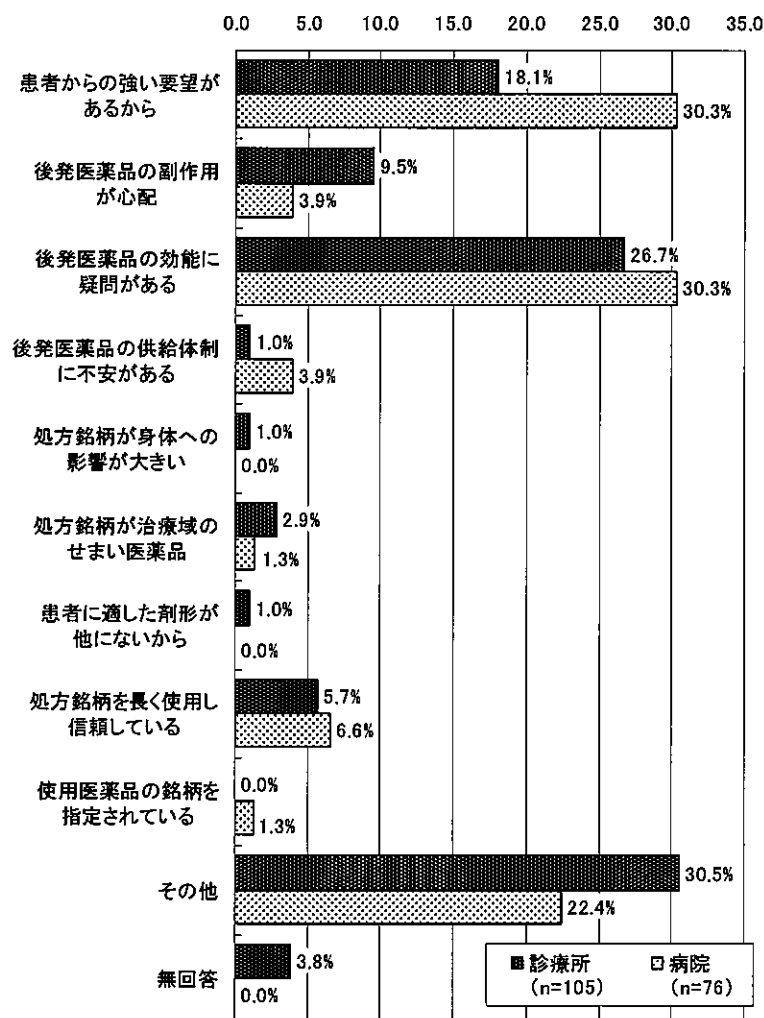
図表 23 一部の医薬品について「変更不可」と記載した処方せん枚数の割合（医師ベース）



出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成20年度調査）」

一部の医薬品について「変更不可」とする理由を診療所及び病院の医師にたずねたところ、診療所・病院ともに「後発医薬品の効能に疑問がある」（それぞれ26.7%、30.3%）、「患者からの強い要望があるから」（それぞれ18.1%、30.3%）が多かった。

図表 24 一部の医薬品について「変更不可」とする理由（医師ベース、単数回答）



注：「その他」には、複数の選択肢に○がついている回答が含まれる。その内訳は、以下のとおりである。

その他の記載内容の内訳

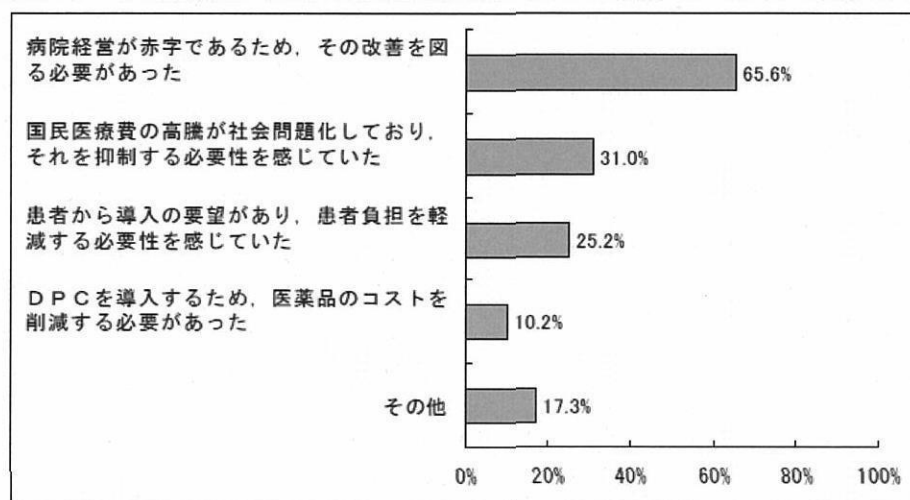
	診療所	病院
「その他」を選択した回答数	32 件	17 件
患者からの強い要望があるから	7 件	4 件
後発医薬品の副作用が心配	8 件	3 件
後発医薬品の効能に疑問がある	10 件	8 件
後発医薬品の供給体制に不安がある	4 件	3 件
処方銘柄が身体への影響が大きい	1 件	2 件
処方銘柄が治療域のせまい医薬品	1 件	1 件
患者に適した剤形が他にないから	1 件	2 件
処方銘柄を長く使用し信頼している	5 件	9 件
使用医薬品の銘柄を指定されている	0 件	2 件
その他	5 件	5 件
未記入	5 件	2 件

出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成 20 年度調査）」

公正取引委員会の「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成 18 年）」によると、医療機関における後発医薬品の使用の契機としては、「病院経営が赤字であるため、その改善を図る必要があった」（65.6%）が最も多くなっている。

また、DPC が導入された医療機関へのヒアリングからは、「後発医薬品の導入を始めたきっかけは DPC の導入である。医療コストそのものを下げる必要があり、後発医薬品を導入することにした」、「DPC が導入されると、医師に、経営上安価な医薬品を使用しなければならないというインセンティブが働くので後発医薬品は増える」との結果が得られている。

図表 25 医療機関における後発医薬品の使用の契機（n= 294、複数回答）



注 1：「病院経営が赤字であるため、その改善を図る必要があった」と回答した医療機関に対し、後発医薬品の使用がどのように赤字改善に寄与するのかたずねたところ、「後発医薬品は薬価差益が小さいので、薬価差益による利益は少ないが、患者の医薬品の選択肢を増やすことにより、より多くの患者に来院してもらえるようにするため」、「保険償還が定額制の療養病床があるため」等の理由が挙げられた。

注 2：その他には、「患者からの要望は特にないが患者負担を軽減するため」、「服用しやすいなどの製剤的特徴があるため」、「製品名による誤用を防ぐため」等の積極的な採用理由のほか、「偶然に購入していた医薬品が後発医薬品であった」、「行政機関からの指導を受けて購入することとした」等の消極的な採用理由が含まれる。

出所：公正取引委員会「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成 18 年）」

3. 後発医薬品啓発（広報等）の充実度意識

厚生労働省の「後発医薬品の使用状況調査（平成 19 年度調査）」によると、以下の意見がみられた。

○後発医薬品使用に関する広報のあり方

【診療所】

- ・患者が後発品の意味を理解せず、「CM で言っているの」「保険組合より言われた」など言ってくる。
- ・CM では全てが半額になるような口調でおこなわれている。患者が勘違いをするので注意してもらいたい。
- ・患者に対する情報として「同等」という語が使用されているが、実際には吸収の上で薬剤等が異なるので、同等とは言えないのは医薬業界では広く知られている。それにもかかわらず、患者へは知らされていないのは、バイアスのかけすぎである。
- ・厚生労働省が PR して、患者の方から後発品を希望するように仕向けるのが使用を増やすのに一番効果的だ。

【病院】

- ・後発医薬品に係る情報をもっとコマーシャルすることが必要。
- ・患者さんによっては、先発品でなくては嫌だと言う人もいる。今後、後発品の薬価を下げ、先発品に対する個人負担が増えるようであれば、その旨を国民に伝えられるように何か方策を練る必要がある。
- ・後発医薬品メーカーのテレビでの CM が先行して、ただ価格的に安いということだけを認識している。後発医薬品のデータ内容等、その他の情報をもっと発信すべきである。

【医師】

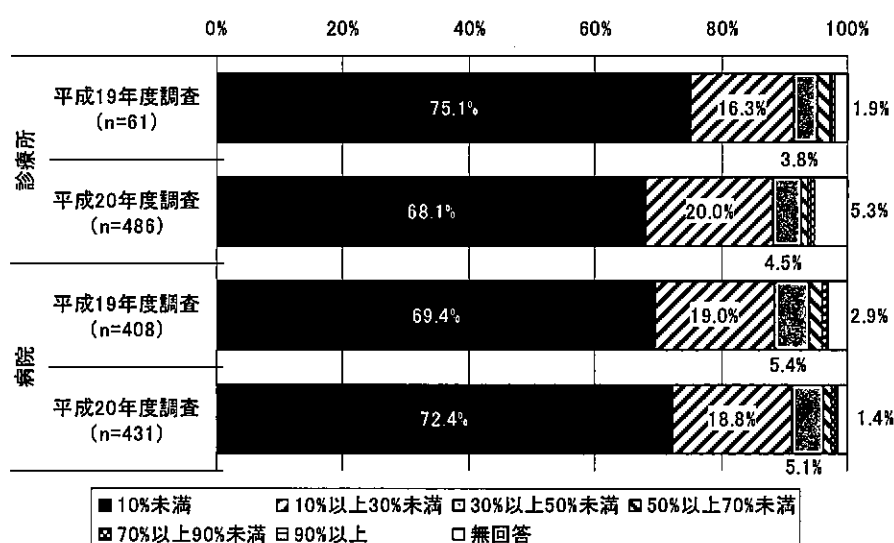
- ・後発医薬品についてはテレビ CM 等で「同じ効果で安い」という面ばかり宣伝され、付加物等による新たな副作用の可能性についてはほとんど知られていないのが現状と思われる。
- ・多くの後発薬品メーカーは、疾患の知識普及などの啓発活動をせずに、価格宣伝ばかりを行っている。
- ・プロモーションをすると手もかかってしまうが、特に安全性等について、もっと周知すれば後発医薬品の使用も増えるのではないかな。

4. 医療機関及び一般国民における後発医薬品の認知度、問題点

(1) 認知度

厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査」の平成19年度調査、平成20年度調査で、外来患者のうち、後発医薬品について関心がある（医師に質問する、使用を希望する）患者の割合を医師にたずねたところ、診療所、病院ともに、「10%未満」（平成19年度調査ではそれぞれ75.1%、69.4%、平成20年度ではそれぞれ68.1%、72.4%）とする医師が最も多く、次いで「10%以上～30%未満」（平成19年度調査ではそれぞれ16.3%、19.0%、平成20年度調査では20.0%、18.8%）であった。

図表 26 外来患者のうち、後発医薬品について関心がある
（医師に質問する、使用を希望する）患者の割合（医師ベース）

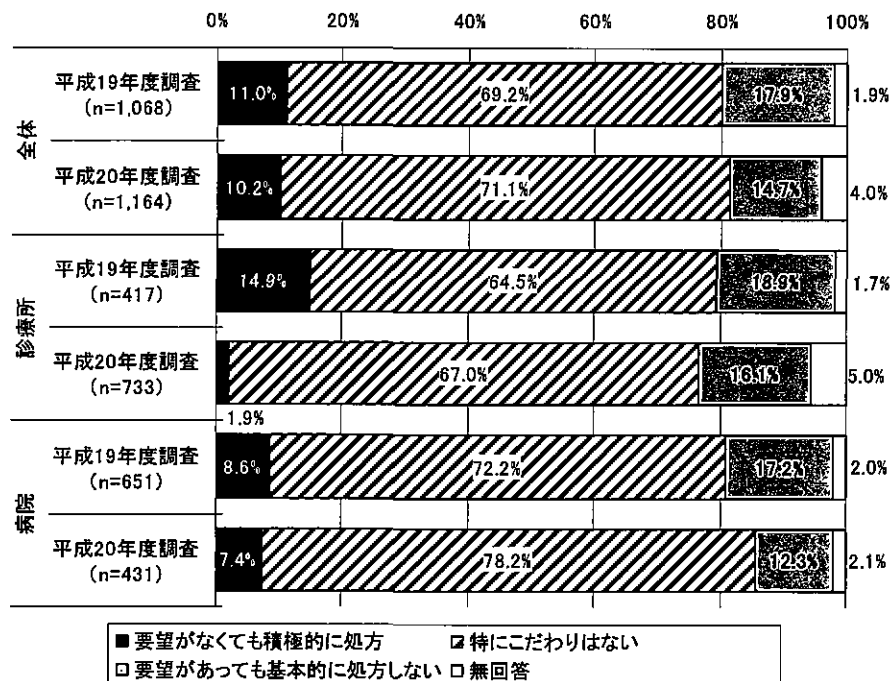


出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査」

診療所と病院の医師における、後発医薬品の処方に関する考えについてみると、医師全体（平成19年度調査1,068人、平成20年度調査1,164人）では、「特にこだわりはない」という医師が最も多かった（それぞれ69.2%、71.1%）。また、「患者からの要望があっても後発医薬品は基本的に処方しない」（それぞれ17.9%、14.7%）、「患者からの要望がなくても後発医薬品を積極的に処方」（それぞれ11.0%、10.2%）であった。「患者からの要望があっても後発医薬品は基本的に処方しない」と考えている医師は診療所、病院ともに少なくなっている。

「患者からの要望があっても後発医薬品は基本的には処方しない」と回答した医師（診療所79人、病院112人）における、後発医薬品を基本的には処方しない理由についてみると、医師全体（191人）では「品質への疑問」（「後発医薬品は基本的には処方しない」という医師の85.3%）が最も多く、次いで「効果への疑問」（同70.7%）、「情報提供の不備」（同64.4%）となった。診療所の医師では、「効果への疑問」（同79.7%）が全体と比較して相対的にやや高かった。

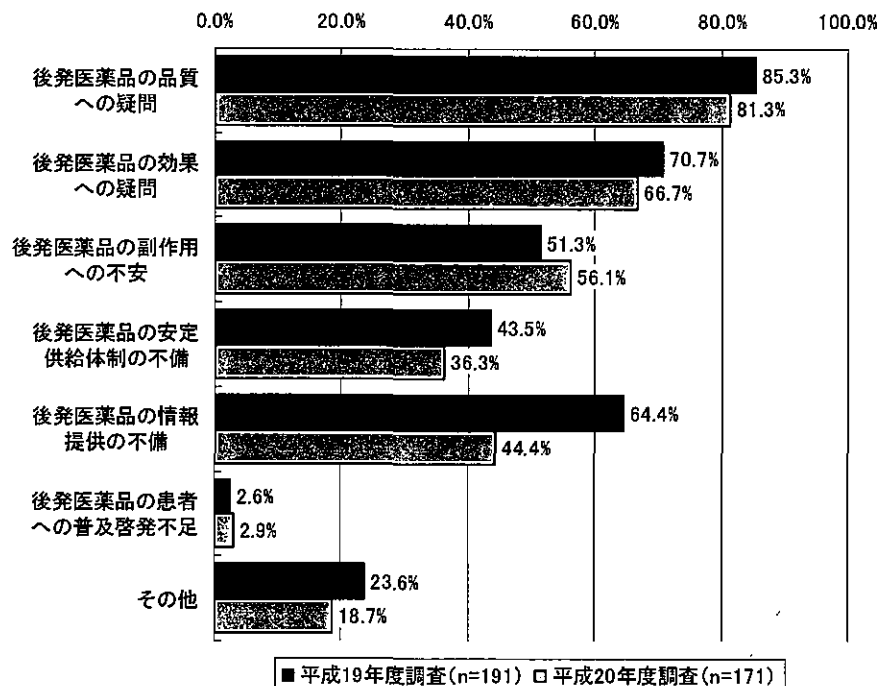
図表 27 後発医薬品の処方に関する考え（医師ベース）



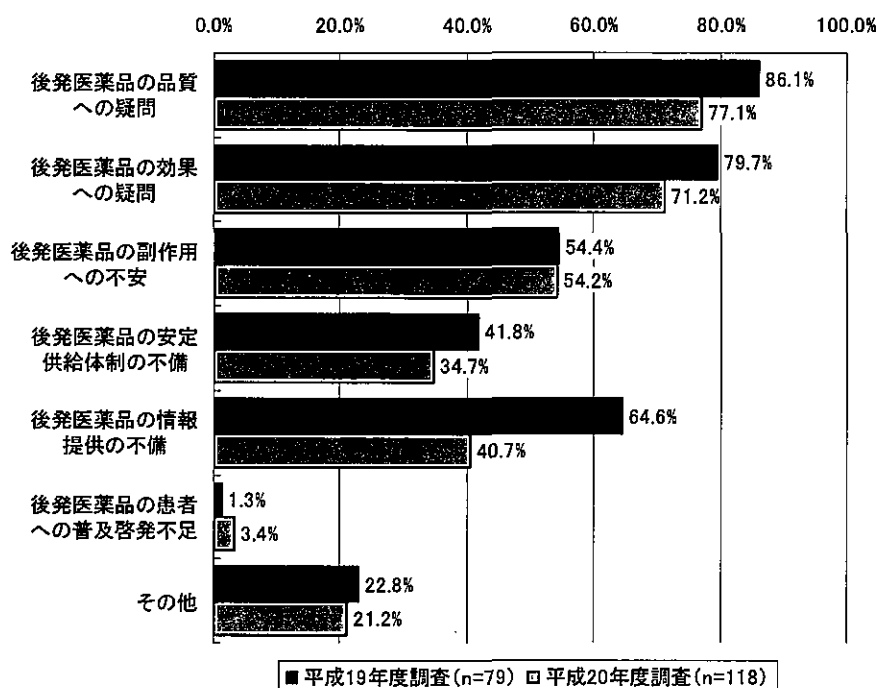
出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査」

図表 28 「患者からの要望があっても後発医薬品は基本的には処方しない」と回答した医師における、後発医薬品を基本的には処方しない理由（複数回答）

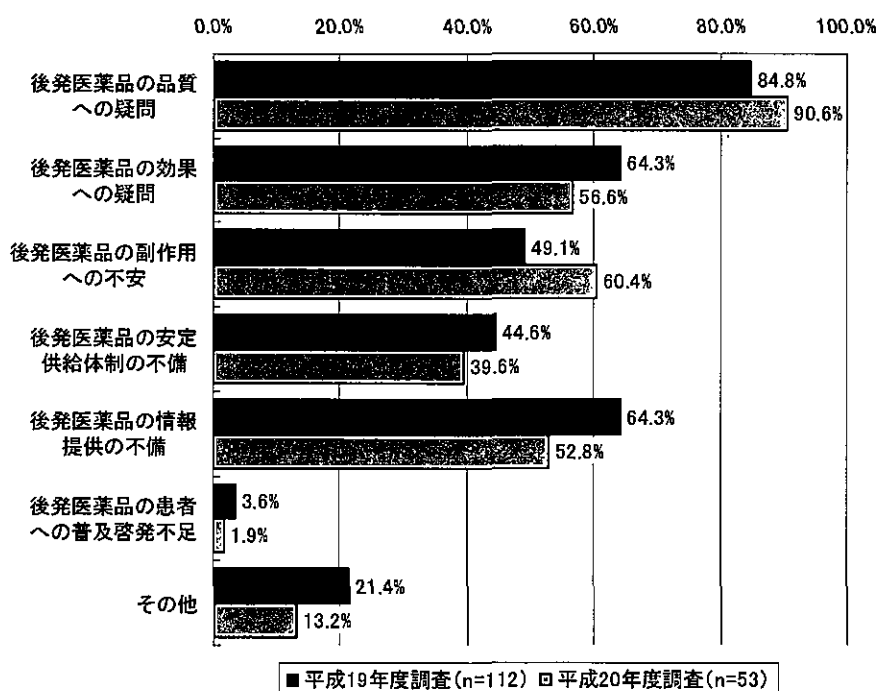
【全体】



【診療所】



【病院】

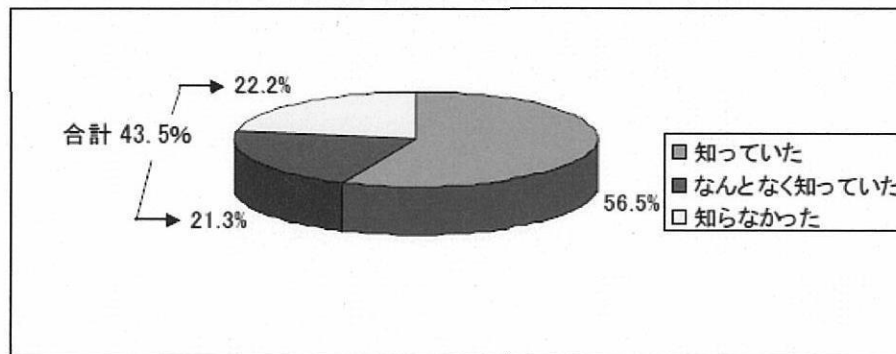


注：平成19年度調査の「その他」の内容として、「副作用、薬害など起こったときのメーカーの対応が不安」「後発品における添加物の差があるが、その内容の情報が見つかりにくい。」「名前が多種に渡り、事故の原因にもなりやすい」「継続的情報提供が行われていない」等があげられた。

出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査」

公正取引委員会の「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成 18 年）」によると、消費者における後発医薬品の認知状況は、「知っていた」との回答が 56.5%となっている。

図表 29 後発医薬品の認知状況（n=1054）

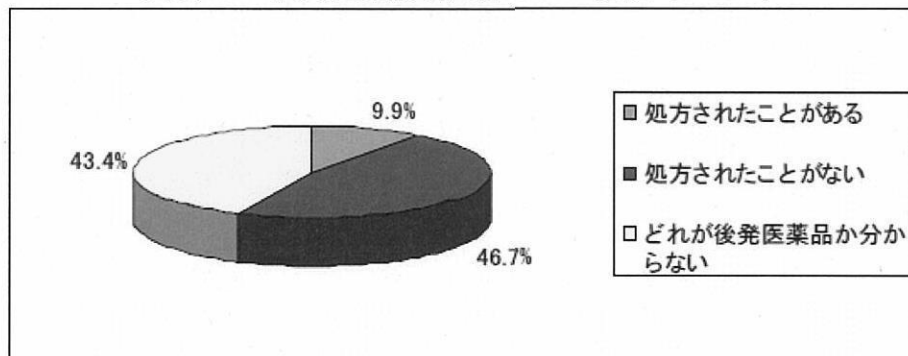


出所：公正取引委員会「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成 18 年）」

後発医薬品について「知っていた」もしくは「なんとなく知っていた」と回答した人に後発医薬品を処方された経験を尋ねたところ、「処方されたことがない」（46.7%）が最も多い結果となった。「処方されたことがある」と回答した人は1割弱の9.9%にとどまった。

また、「どれが後発医薬品か分からない」と回答した人も43.4%あり、後発医薬品を処方していないか、または後発医薬品について十分な説明を行っていないのではないかとと思われる。

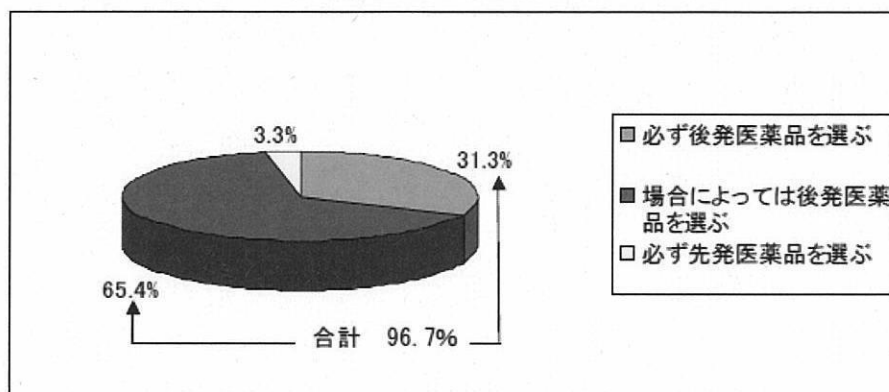
図表 30 後発医薬品を処方された経験（n=820）



出所：公正取引委員会「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成 18 年）」

消費者に「後発医薬品」か「先発医薬品」の選択状況について尋ねたところ、「必ず後発医薬品を選ぶ」、「場合によっては後発医薬品を選ぶ」の合計が96.7%となっており、消費者が自ら選択できる場合は後発医薬品の処方を希望している結果となっている。

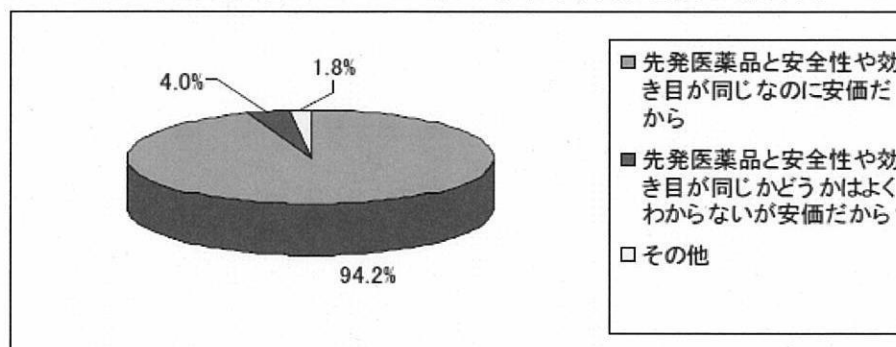
図表 31 後発医薬品の選択状況 (n= 1052)



出所：公正取引委員会「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成 18 年）」

「必ず後発医薬品を選ぶ」と回答した人に、その理由を尋ねたところ、「先発医薬品と安全性や効き目が同じなのに安価だから」（94.2%）が最も多い回答となっている。

図表 32 後発医薬品を選択する理由（必ず後発医薬品を選ぶ消費者）（n=328）

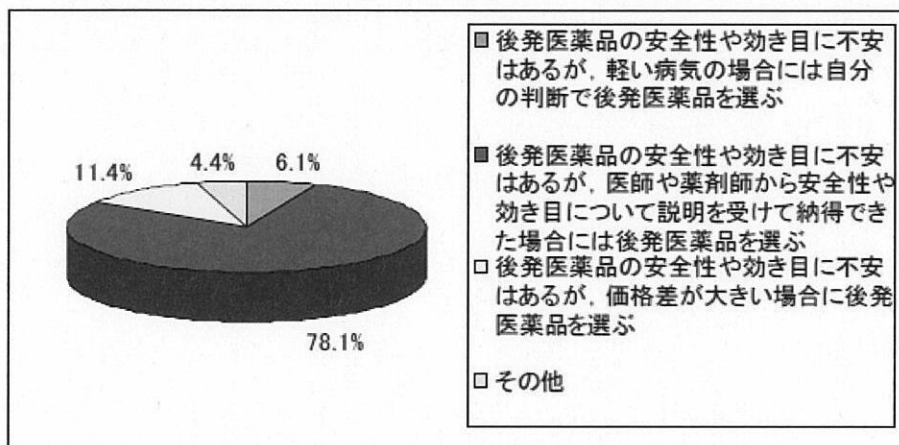


出所：公正取引委員会「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成 18 年）」

「場合によっては後発医薬品を選ぶ」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「後発医薬品の安全性や効き目に不安はあるが、医師や薬剤師から安全性や効き目について説明を受けて納得できた場合には後発医薬品を選ぶ」（78.1%）との回答が最も多くなっている。

また、「後発医薬品の安全性や効き目に不安はあるが、価格差が大きい場合に後発医薬品を選ぶ」との回答が約1割あり、消費者にとって価格差が後発医薬品を選ぶ指標となっていることがうかがえる。

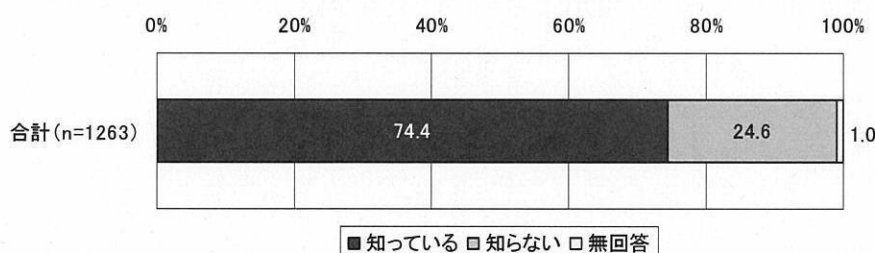
図表 33 後発医薬品を選択する場合（場合によっては後発医薬品を選ぶ消費者）
(n=686)



出所：公正取引委員会「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成18年）」

健康保険組合連合会が実施した「医療に関する国民意識調査（2007年）」によると、後発医薬品の認知度において、「知っている」と回答した人は74.4%であった。

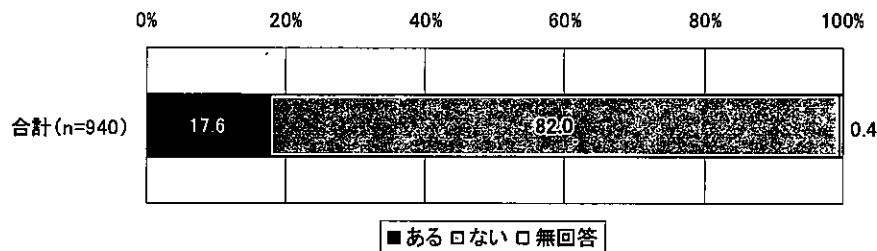
図表 34 後発医薬品の認知度



出所：健康保険組合連合会「医療に関する国民意識調査（2007年）」

後発医薬品を知っている人に服用経験の有無を尋ねたところ、「(服用経験が) ある」と回答した人は17.6%となった。

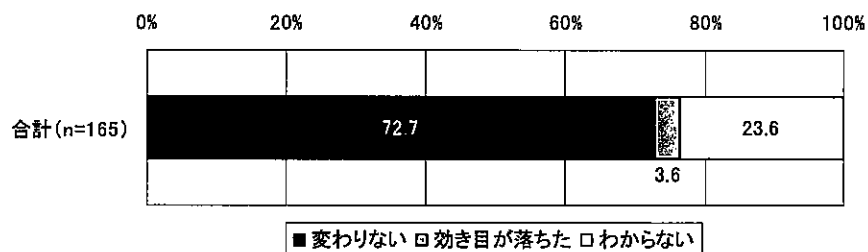
図表 35 後発医薬品の服用経験の有無



出所：健康保険組合連合会「医療に関する国民意識調査（2007年）」

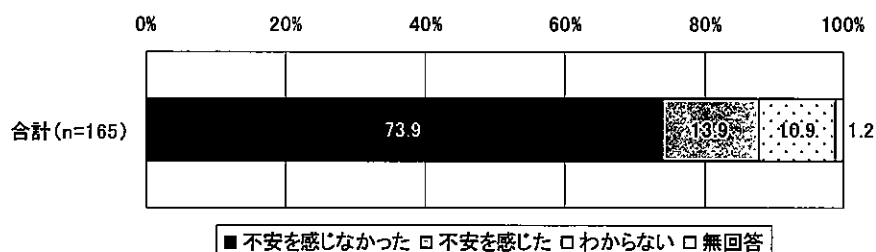
後発医薬品を服用したことがある人にその感想を尋ねたところ、薬の効き目、薬の安全性については、それぞれ「変わらない」（72.7%）、「不安を感じなかった」（73.9%）となった。窓口での負担感については約半数の人が「かなり安くなった」（46.7%）と回答している。

図表 36 服用した感想～薬の効き目～



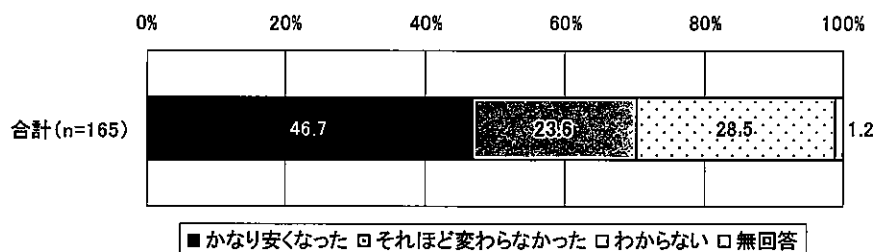
出所：健康保険組合連合会「医療に関する国民意識調査（2007年）」

図表 37 服用した感想～薬の安全性～



出所：健康保険組合連合会「医療に関する国民意識調査（2007年）」

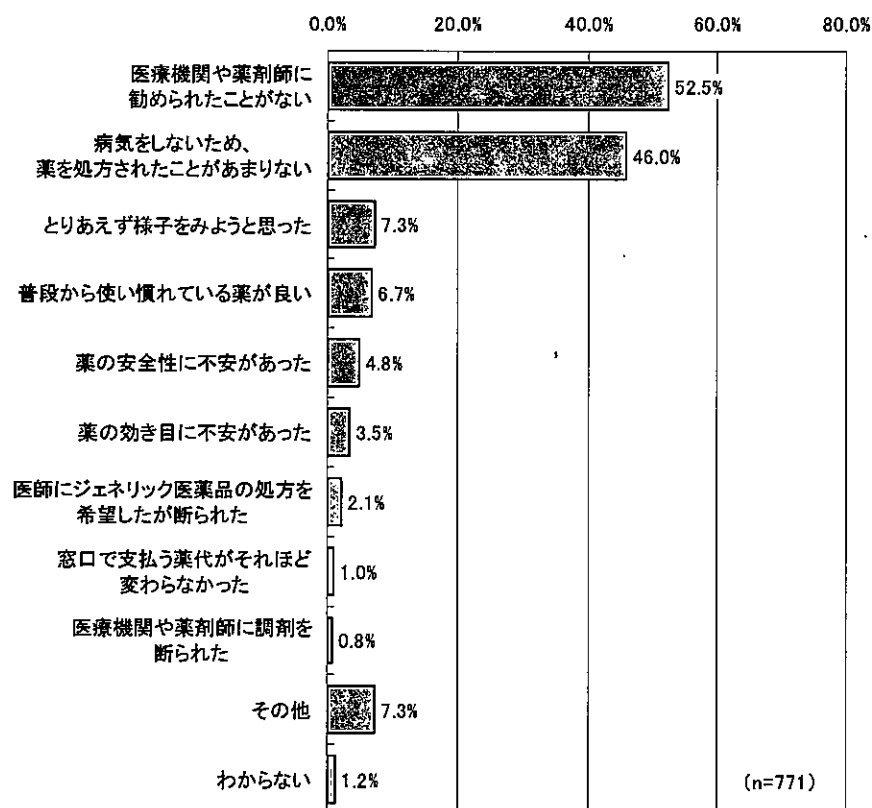
図表 38 服用した感想～窓口での負担～



出所：健康保険組合連合会「医療に関する国民意識調査（2007 年）」

後発医薬品を知っていて服用しなかった人にその理由を尋ねたところ、「医療機関や薬局の薬剤師に後発医薬品を勧められたことがない」（52.5%）、「病気をしないため、薬を処方されたことがない」（46.0%）の順となった。

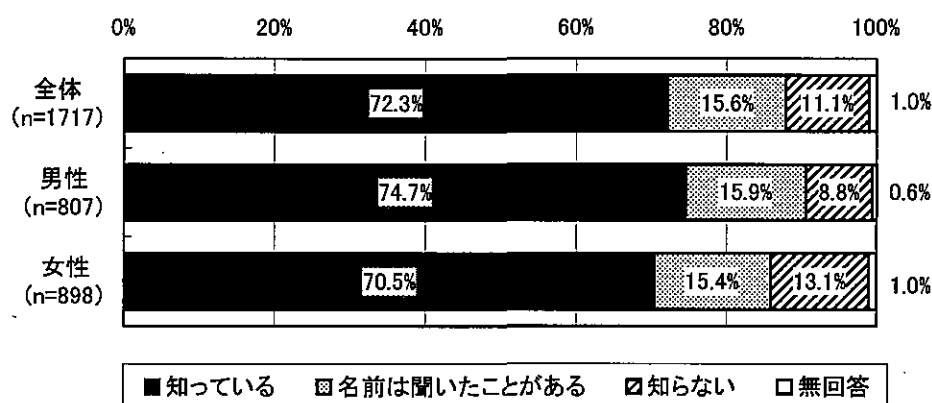
図表 39 服用しなかった理由（複数回答）



出所：健康保険組合連合会「医療に関する国民意識調査（2007 年）」

厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成 20 年度調査）」によると、後発医薬品の認知状況についてみると、全体では、「知っている」が 72.3%、「名前は聞いたことがある」が 15.6%、「知らない」が 11.1%であった。後発医薬品の認知状況について男女別にみると、後発医薬品を「知っている」という回答は、男性では 74.7%、女性では 70.5%となり、男性の方が女性よりも 4.2 ポイント高い結果となった。

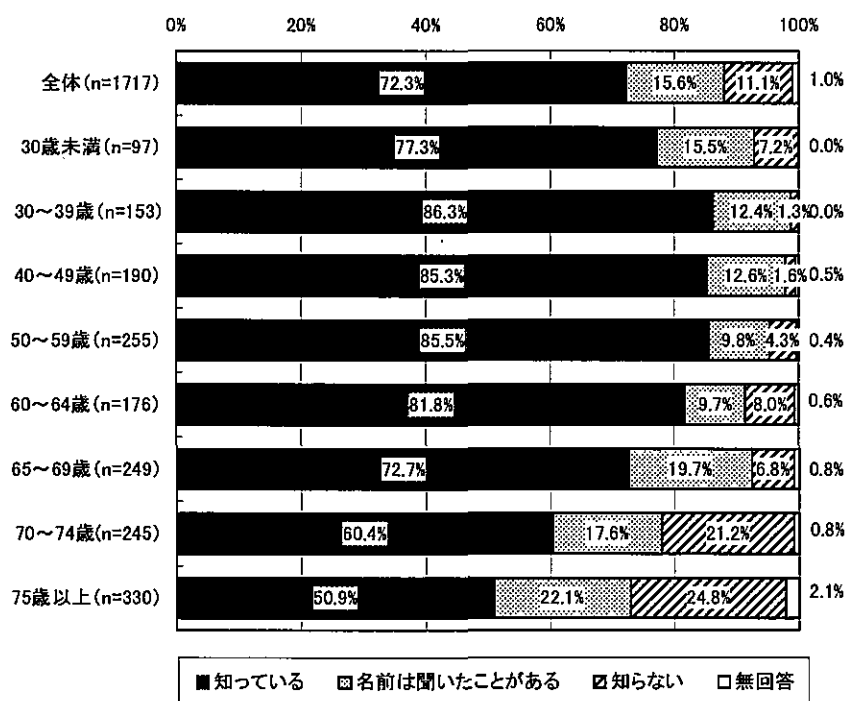
図表 40 後発医薬品の認知状況（男女別）



出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成 20 年度調査）」

後発医薬品の認知状況について年齢階層別にみると、年齢が高くなるにしたがって認知度が低くなる傾向がみられた。75 歳以上では、後発医薬品を「知らない」という回答が 24.8%と、4 人に 1 人が後発医薬品を「知らない」という結果となった。

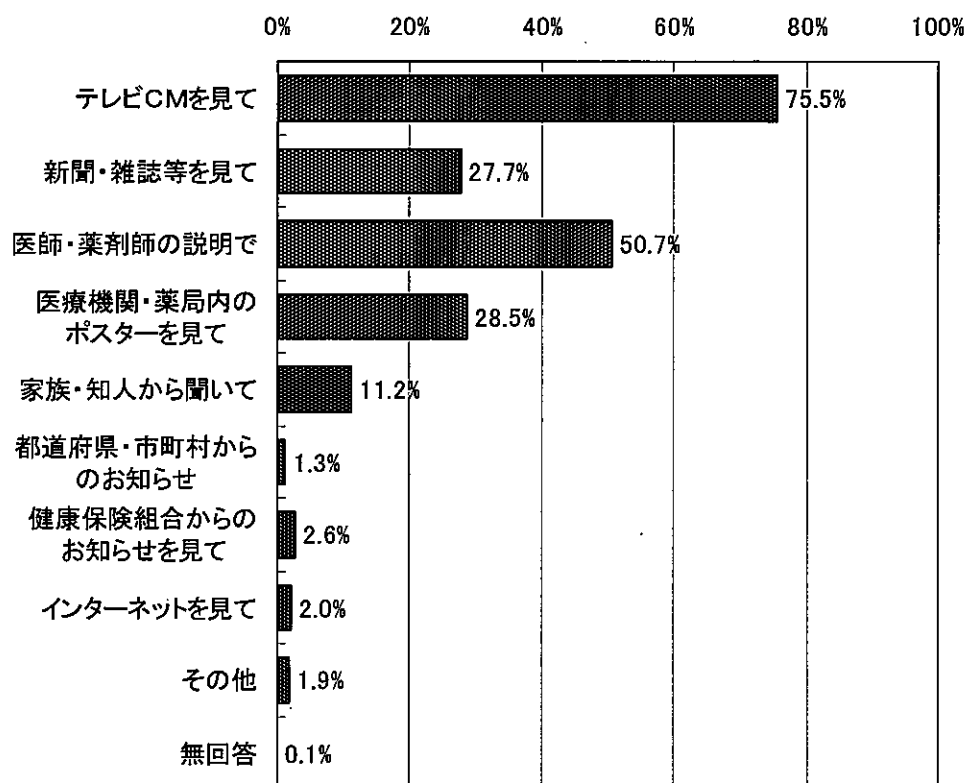
図表 41 後発医薬品の認知状況（年齢階層別）



出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成 20 年度調査）」

後発医薬品の認知方法について、後発医薬品を知っている人にたずねたところ、「テレビCMを見て」(75.5%)が最も多く、次いで「医師・薬剤師の説明で」(50.7%)、「医療機関・薬局内のポスターを見て」(28.5%)、「新聞・雑誌等を見て」(27.7%)の順となった。

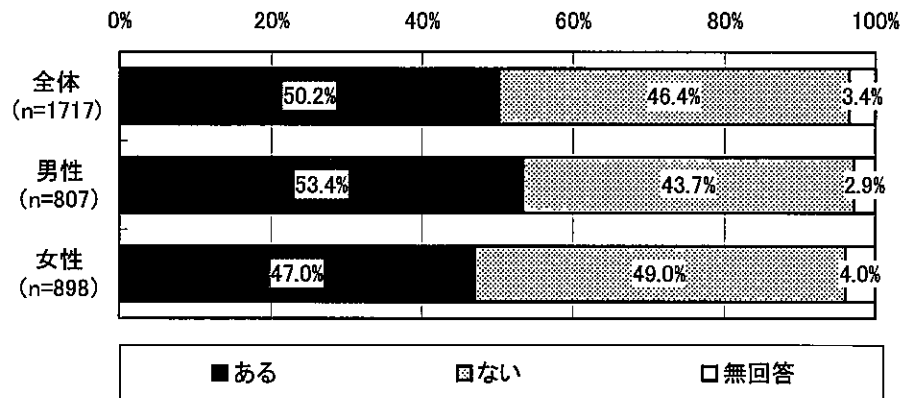
図表 42 後発医薬品の認知方法（後発医薬品を知っている人、n=1510）



出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成20年度調査）」

後発医薬品の使用経験の有無についてみると、全体では、後発医薬品の使用経験が「ある」が50.2%、「ない」が46.4%であった。男女別にみると、男性は女性と比較して「ある」という回答が6.4ポイント高い結果となった。

図表 43 後発医薬品の使用経験の有無（男女別）

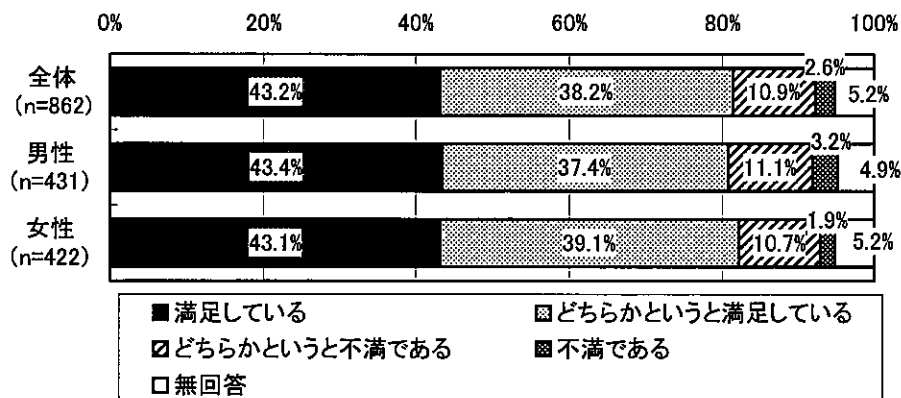


出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成20年度調査）」

後発医薬品を使用した満足度についてみると、全体では、「満足している」が43.2%、「どちらかという満足している」が38.2%、「どちらかという不満である」が10.9%、「不満である」が2.6%であった。

男女別にみると、満足とする回答（「満足している」と「どちらかという満足している」を合計した割合）は男女ともに8割を超え、不満とする回答（「どちらかという不満である」と「不満である」を合計した割合）は1割程度となった。

図表 44 後発医薬品の使用の満足度（使用経験ある人、男女別）

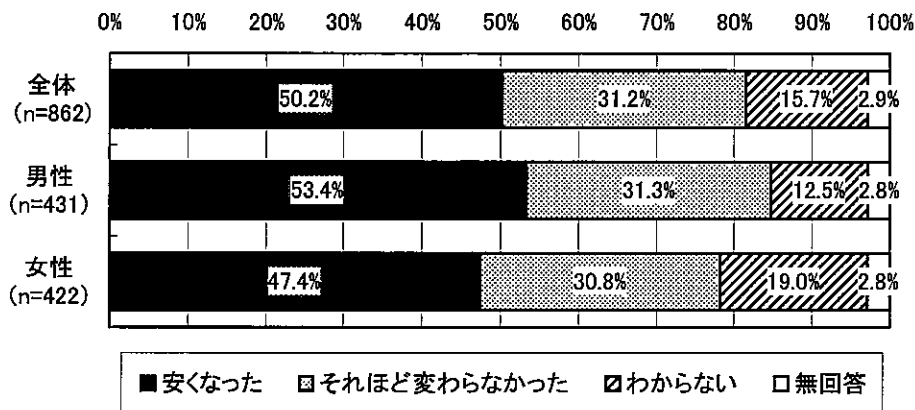


出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成20年度調査）」

窓口での薬代の負担感について、後発医薬品の使用経験のある人にたずねたところ、「全体」では「安くなった」が50.2%、「それほど変わらなかった」が31.2%、「わからない」が15.7%であった。

男女別にみると、男性では「安くなった」が53.4%となり、女性（47.4%）と比較して「安くなった」という回答が6ポイント高い結果となった。

図表 45 窓口での薬代の負担感（使用経験のある人、男女別）

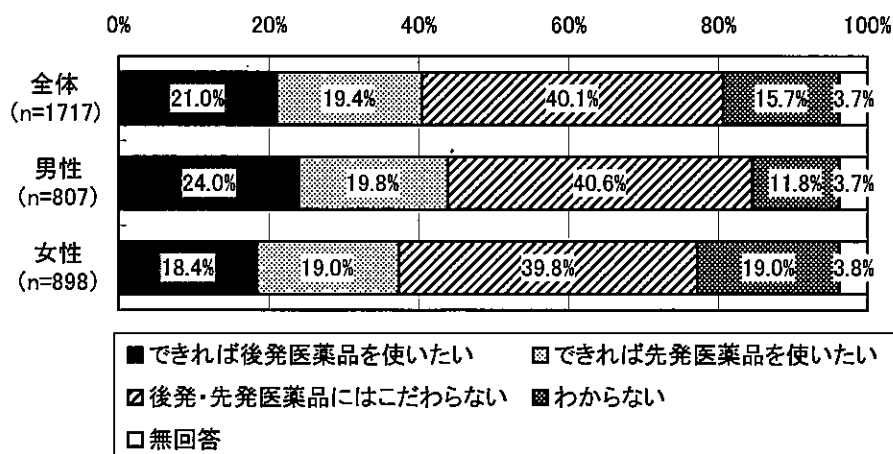


出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成20年度調査）」

今後の後発医薬品使用に対する考え方についてみると、全体では、「後発・先発医薬品にはこだわらない」が40.1%で最も多く、次いで「できれば後発医薬品を使いたい」が21.0%、「できれば先発医薬品を使いたい」が19.4%、「わからない」が15.7%であった。

男女別にみると、男性では「できれば後発医薬品を使いたい」が24.0%となっており、女性（18.4%）と比較して、5.6ポイント高い結果となった。

図表 46 後発医薬品使用に対する考え方（男女別）

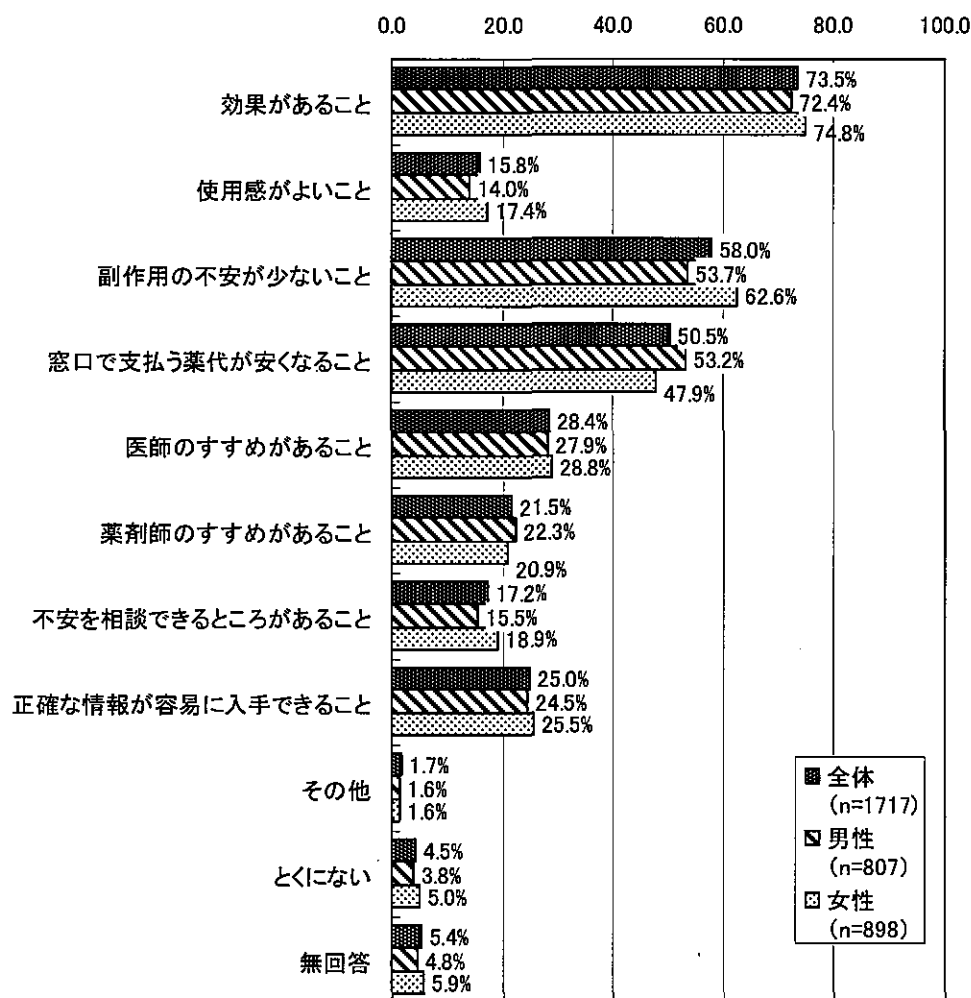


出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成20年度調査）」

後発医薬品を使用するにあたって必要なことについてみると、「全体」では、「効果があること」(73.5%)が最も高く、次いで「副作用の不安が少ないこと」(58.0%)、「窓口で支払う薬代が安くなること」(50.5%)となった。

男女別にみると、男女ともに「効果があること」(男性 72.4%、女性 74.8%)が最も高く、次いで「副作用の不安が少ないこと」(男性 53.7%、女性 62.6%)、「窓口で支払う薬代が安くなること」(男性 53.2%、女性 47.9%)の順となった。女性では男性と比較して「副作用の不安が少ないこと」の回答割合が 8.9 ポイント高い結果となった。一方、男性では女性と比較して「窓口で支払う薬代が安くなること」の回答割合が 5.3 ポイント高い結果となった。

図表 47 後発医薬品を使用するにあたって必要なこと（複数回答、男女別）



注：「全体」には性別について無回答だった 12 人が含まれている。

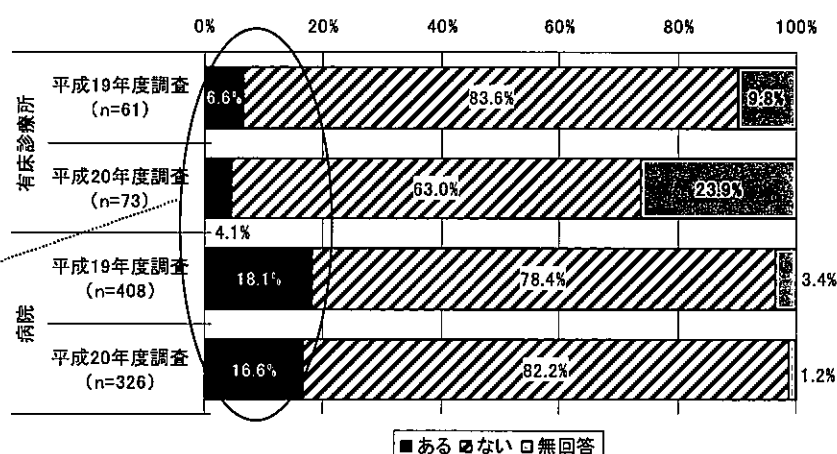
出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成 20 年度調査）」

(2) 問題点

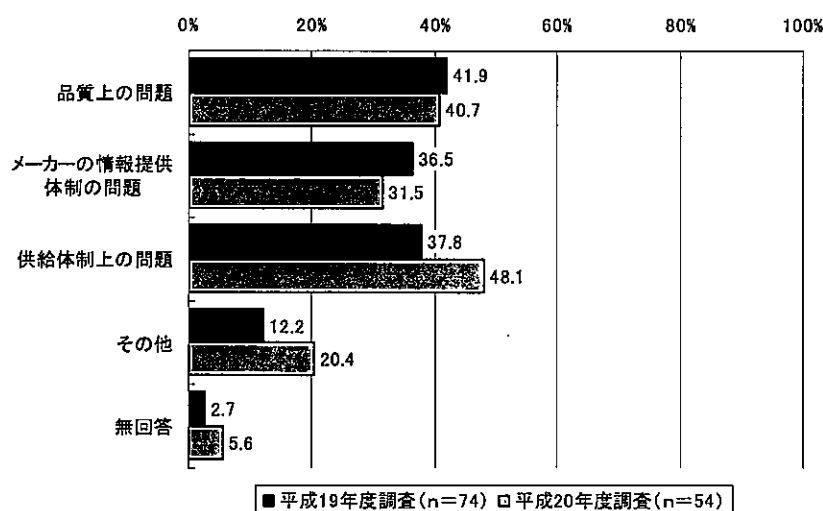
厚生労働省の「後発医薬品の使用状況調査（平成 19 年度調査）」によると、入院患者に対して後発医薬品を使用して問題が生じた経験の有無について尋ねたところ、有床診療所、病院ともに「ない」（それぞれ 83.6%、78.4%）という回答が大半を占める結果となった。一方で、「ある」とした有床診療所は 6.6%（4 施設）、病院は 18.1%（74 施設）であった。

「（問題が生じた経験が）ある」と回答した病院に、後発医薬品を使用した際に生じた問題の内容について尋ねたところ、「品質上の問題」（「問題が生じた経験が」あると回答した病院の 41.9%）が最も多く、次いで「供給体制上の問題」（同 37.8%）、「メーカーの情報提供体制上の問題」（同 36.5%）となっている。

図表 48 入院患者に対して後発医薬品を使用して問題が生じた経験の有無



図表 49 「入院患者に対して後発医薬品を使用して問題が生じた経験がある」と回答した施設における、後発医薬品使用で生じた問題（複数回答）



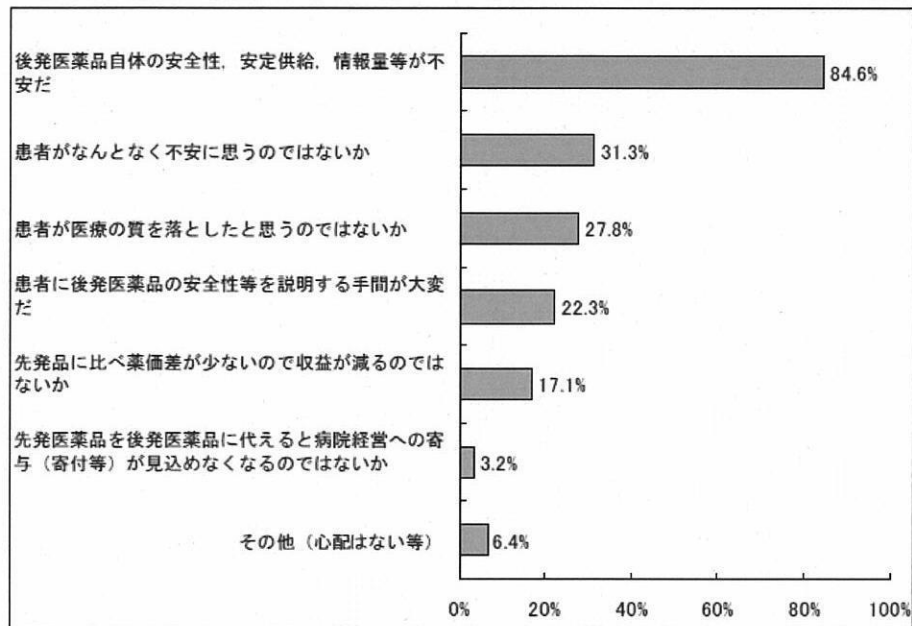
注：平成 19 年度調査の有床診療所 4 件の回答内訳は、「品質上の問題」が 1 件、「メーカーの情報提供体制上の問題」が 2 件、「供給体制上の問題」が 3 件、「その他」が 2 件であった。
平成 20 年度調査の有床診療所 3 件の回答内訳は、「品質上の問題」が 1 件、「供給体制上の問題」が 2 件であった。

出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査」

公正取引委員会の「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成 18 年）」によると、医療機関が後発医薬品を使用するに当たって心配であったことは、「後発医薬品自体の安全性、安定供給、情報量等が不安だ」（84.6%）が最も多くなっている。

また、「患者がなんとなく不安に思うのではないか」（31.3%）、「患者が医療の質を落としたと思うのではないか」（27.8%）も約 3 割程度あり、患者からどのようにみられるかを病院側が意識している実態がうかがえる。

図表 50 後発医薬品を使用するに当たって心配であったこと（n= 345、複数回答）



出所：公正取引委員会「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成 18 年）」

5. 医療機関規模別、診療科目別の後発医薬品企業への要望

厚生労働省の「後発医薬品の使用状況調査（平成 19 年度調査）」によると後発医薬品企業への要望は以下の通りとなっている。

【診療所】

○後発医薬品の情報提供

- ・有効性、安全性などのデータの調査やその開示が必要だ。
- ・後発医薬品メーカーの情報提供が、熱心でないことを非常に強く感じる。
- ・有効成分だけでなく有効血中濃度が 24 時間確かに保たれているかどうかといったことを第三者機関を設置して検証する必要がある。

○メーカー側と後発医薬品を処方した医師側の責任所在

- ・有害事象の情報が周知されないままであれば、気づく術のないまま処方を受け、処方した医師の責任が問われた時の司法の判断も、メーカーの体制より医師個人の責任へと転嫁されるようだ。
- ・後発医薬品メーカーはどこまで責任を取るのか、はっきりしていないので心配である。
- ・副作用が出た場合、誰が責任を持つのか。副作用や事故のときに責任の所在が明らかでない。

【病院】

○後発医薬品メーカー等の供給体制

- ・問屋に在庫がないことも多く、急配を依頼しても 3、4 日待たされると言われ先発品に戻ったものもある。後発医薬品は気がつくまで製造中止になっていることもあり、供給に不安がある。
- ・薬価本に名前は載っているが、流通していない後発医薬品もあるのではないか。安定供給に不安を感じる。

○品質保証

- ・個々の後発品に関する、有効性・安全性を確保するための、公的機関による再評価制度が必要と考える。
- ・安心して使用できるように、発売後に効果・副作用の調査を行うことを義務づけ、そのデータを公開してほしい。
- ・臨床上的先発品と後発品の臨床評価を第三者機関が行って公表していただきたい。

○後発医薬品メーカーによる情報提供

- ・後発医薬品の情報が先発品に比べて著しく少ない。
- ・後発品で生じた問題も製薬メーカーに問うことができない状態では、リスクを負うのは処方する医師やそれを投薬される患者である。
- ・特に抗がん剤や造影剤、抗生物質製剤などについては「臨床的同等性」を保証する資料が必要と考える。また、後発メーカーの情報提供（安全性情報、添付文書の改訂等）についても更なる改善が望まれる。

○MR の質

- ・後発医薬品メーカーの MR の数が少なく対応が遅く、また、薬品が採用されたら MR は訪問しなくなるなど信用性に欠ける。

- ・薬品の説明については先発メーカーのMRの方が、後発メーカーのMRよりも薬品の説明の勉強をよくしているらしく上手なので、先発の方が好まれる傾向にある。

【医師】

○後発医薬品メーカーの質

- ・後発医薬品メーカーが多すぎて、薬品の質とともに企業の質も安心できるレベルに揃えて欲しい。
- ・後発医薬品メーカー間の品質のばらつきを評価し、効果の低いメーカーは排除してほしい。
- ・後発医薬品のみで発生したトラブルについても、厚生労働省及びメーカーはきちんと対応してくれるのか心配だ。

○後発医薬品の品質

- ・先発医薬品と比べると適応症の違い、剤型の違い（OD錠など）がある。
- ・後発品を院内採用するにあたって、血中濃度データなどのデータを少し調べたが、ばらつきがあったり、製剤の安定性に問題があるものがあった。
- ・どこまで先発品と効用が同じであれば許容範囲なのかが明確でない。
- ・後発品を使用して先発品では起こらなかった発疹等の副作用を経験したことがある。後発医薬品は、主成分は先発薬品と同じだが、薬の製造過程での混入や品質管理等は製薬会社により異なるため、同等の効果があるか、副作用は起きないか、といった問題がある。
- ・米国のように、薬効や副作用等についての公的な評価をする機関が必要だ。

○後発医薬品の情報提供

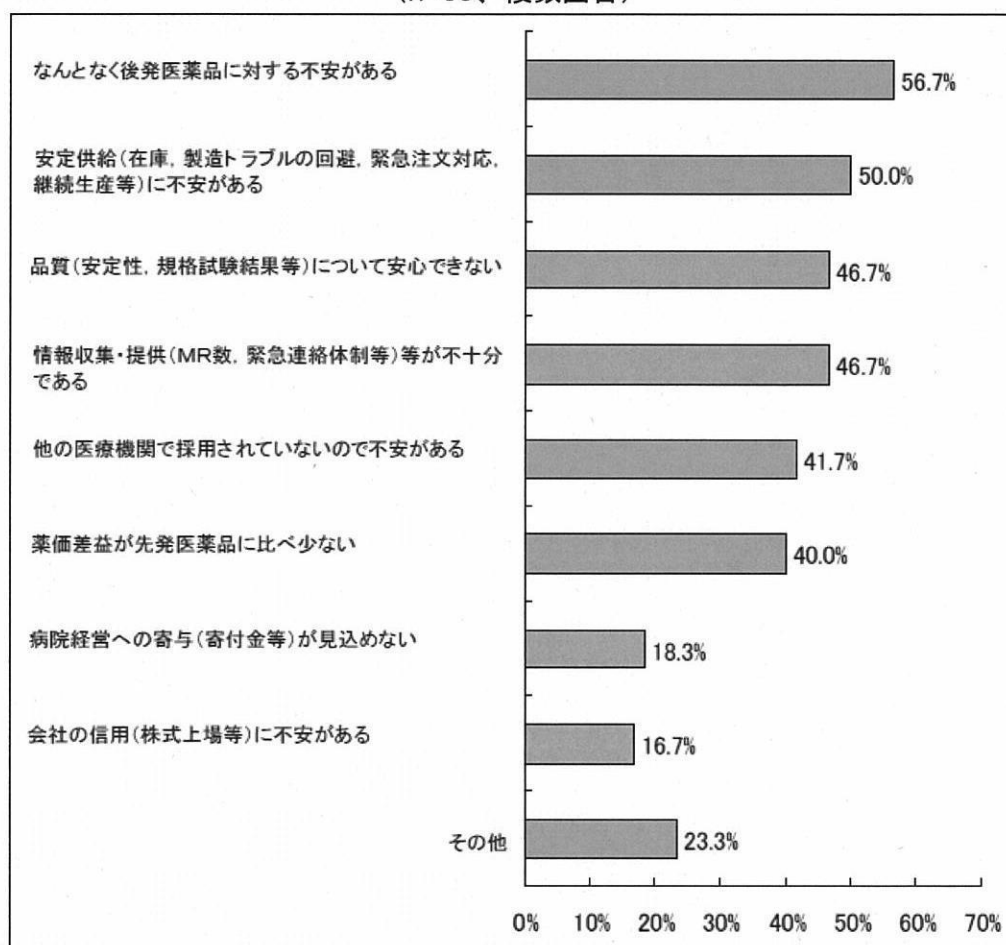
- ・供給量の確保や薬剤の安全情報について、後発医薬品のMR(医薬情報担当者)活動が不足していると考えられる。
- ・後発医薬品の情報が不足している。効能、効果、副作用、価格差等の先発医薬品との比較が一度に出来るようになる必要がある。
- ・後発医薬品に関する説明は厚生労働省が責任を持ってやって欲しい。また、後発医薬品の主要以外の成分、吸収動態等のデータを発表し、患者が直接知ることができるようにする必要がある。

○後発医薬品に変更した場合の責任所在

- ・薬局にて勝手に先発・後発医薬品の選択がなされる点も問題がある。
- ・主成分は同一であっても混合物が異なるから、混合物や製法などによる副作用については薬局が責任を取るべき。患者にも主成分以外の副作用が心配なら、ジェネリックは希望しないことを指導している。ジェネリックの副作用については、国、薬局が責任を負うべき。
- ・副作用発生時の対応について、責任の所在を明確化するべきである。

公正取引委員会の「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成 18 年）」によると、後発医薬品メーカーが医療機関から後発医薬品の取引の申出を断られる場合の理由をたずねている。それをみると、「なんとなく後発医薬品に対する不安がある」（56.7%）が最も多く、次いで、「安定供給（在庫、製造トラブルの回避、緊急注文対応、継続生産等）に不安がある」（50.0%）、「品質（安定性、規格試験結果等）について安心できない」（46.7%）、「情報収集・提供（MR 数、緊急連絡体制等）等が不十分である」（46.7%）となっている。

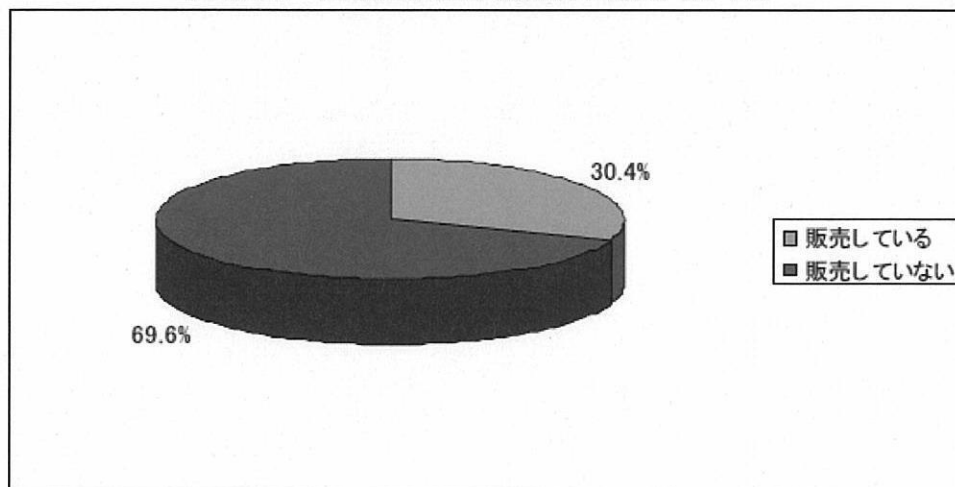
図表 51 医療機関から後発医薬品の取引の申出を断られる場合の理由
(n=60、複数回答)



出所：公正取引委員会「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成 18 年）」

同報告書では、卸売業者に対して、医療機関に対する後発医薬品の販売の実態について調査を行っている。そこで、卸売業者に対するアンケート調査において、後発医薬品を積極的に販売しているかを尋ねたところ、「(積極的に) 販売している」との回答は約 3 割にとどまっており、約 7 割が「(積極的に) 販売していない」と回答している結果となっている。

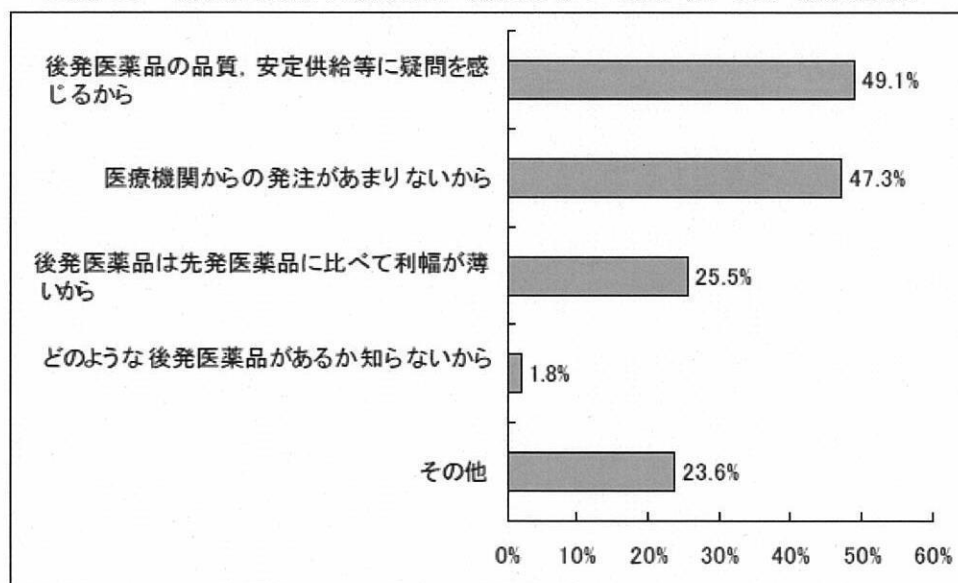
図表 52 後発医薬品の積極的な販売 (n=79)



出所：公正取引委員会「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成 18 年）」

積極的に販売していない卸売業者の理由についてみると、「後発医薬品の品質、安定供給等に疑問を感じるから」（49.1%）が最も多く、次いで「医療機関からの発注があまりないから」（47.3%）の順となっている。

図表 53 後発医薬品を積極的に販売しない理由 (n=55、複数回答)



出所：公正取引委員会「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成 18 年）」

II. 一般国民向けアンケート調査結果

1. アンケート実施概要

- ・対象

インターネットアンケート会社登録モニター

- ・調査予定数

5,000 サンプル

- ・サンプリング方法

地域別・性別・年齢階級別にサンプル数を設定した。

詳細は下表の通り

	北海道・東北		関東		北陸・中部		近畿		中国・四国		九州		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
20代	49	47	141	128	58	55	61	63	31	31	41	42	747
30代	54	55	170	157	73	69	73	76	36	37	44	46	890
40代	54	55	134	125	61	59	59	61	33	34	43	46	764
50代	67	68	152	150	72	73	72	76	44	45	53	55	927
60代以上	108	145	232	278	118	148	119	150	74	100	83	117	1,672
合計	332	370	829	838	382	404	384	426	218	247	264	306	5,000

- ・調査時期

平成 21 年 3 月 25 日～平成 21 年 3 月 27 日

- ・調査実施方法

アンケート用 WEB ページを作成し、WEB ページ上で回答

- ・回収数

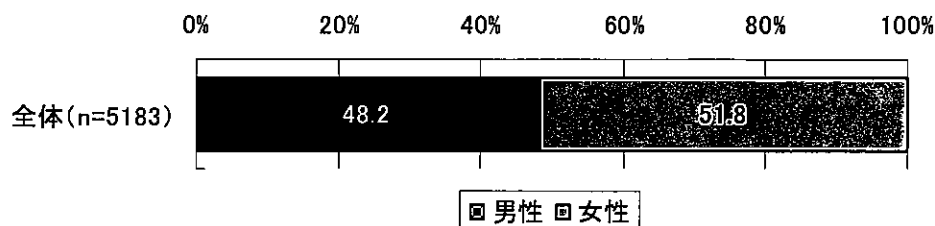
5,183 サンプル

2. 回答者属性

(1) 性別

回答者の性別をみると、「男性」が48.2%、「女性」が51.8%となった。

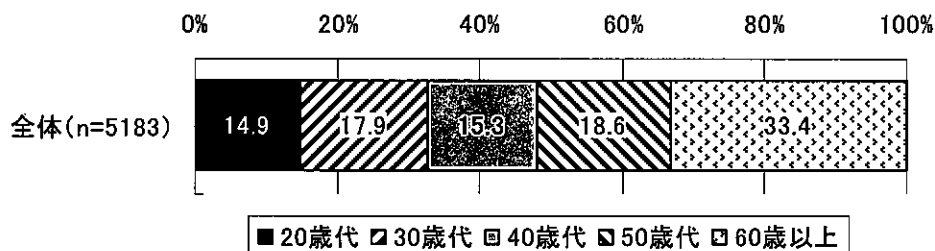
図表 2-1 性別



(2) 年齢

回答者の年齢をみると、「60歳以上」が約3割を占める結果となった。

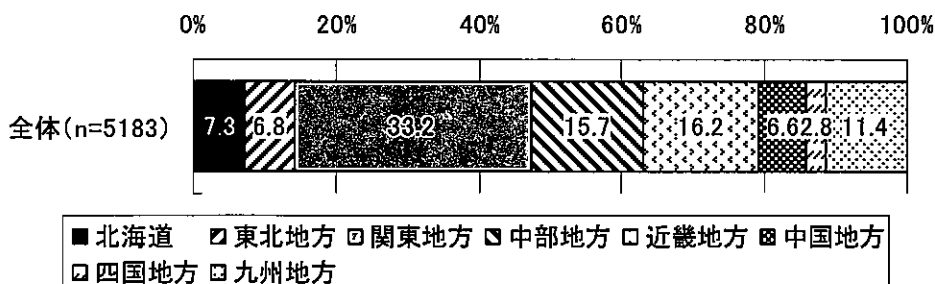
図表 2-2 年齢



(3) 居住地

回答者の居住地をみると「関東地方」が約3割となった。

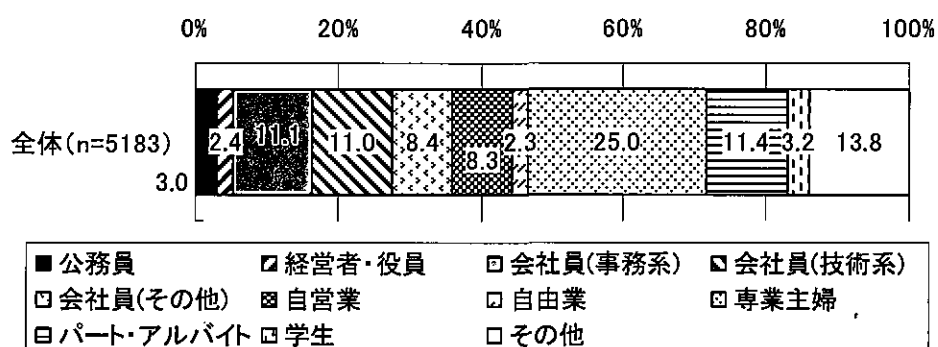
図表 2-3 居住地



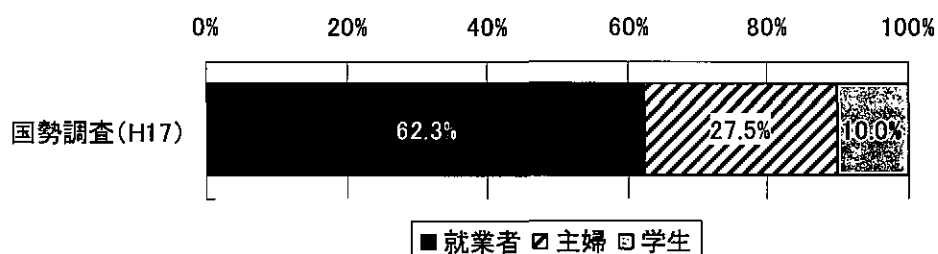
(4) 職業

回答者の職業をみると、「専業主婦」(25.0%)が最も多く、次いで「パート・アルバイト」(11.4%)、「会社員(事務系)」(11.1%)、「会社員(技術系)」(11.0%)の順となった。

図表 2-4 職業

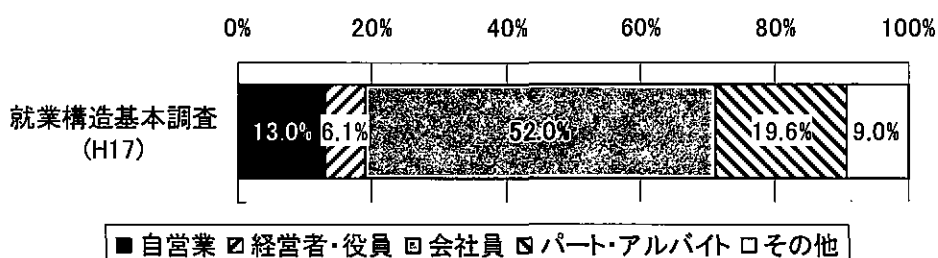


図表 2-5 (参考) 国勢調査(平成17年度)



注) 20歳以上で集計

図表 2-6 (参考) 就業構造基本調査(平成17年度)

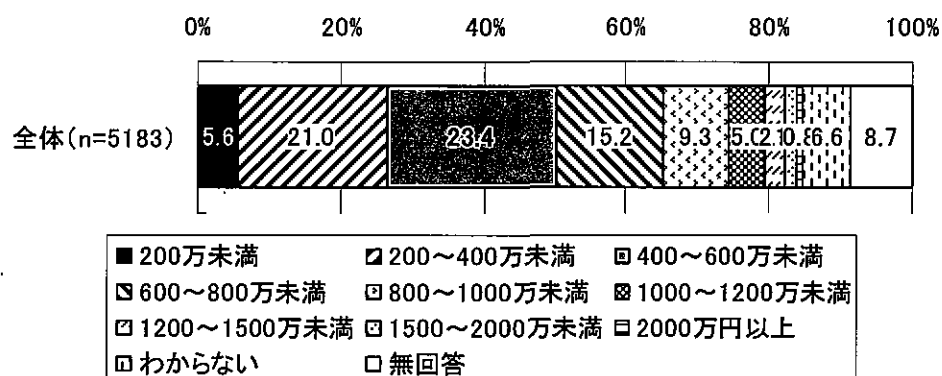


(5) 世帯年収

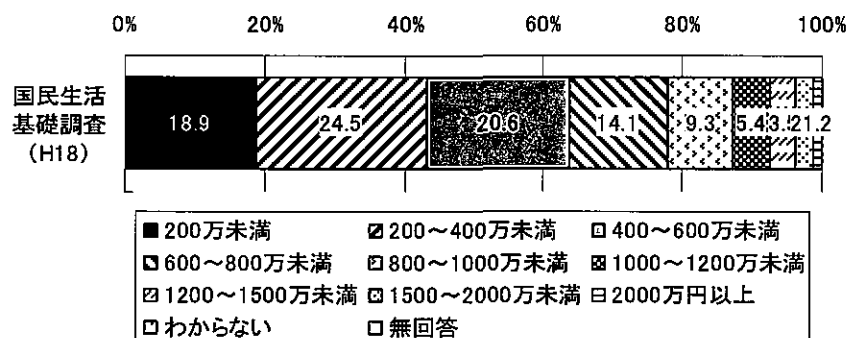
回答者の世帯年収をみると、「400～600 万未満」が 23.4%と最も多く、次いで「200～400 万未満」(21.0%)、「600～800 万未満」(15.2%) の順となった。

国民生活基礎調査（平成 18 年）と比較すると、今回の回答者の世帯年収は高くなっている。

図表 2－7 世帯年収



図表 2－8 （参考）国民生活基礎調査（平成 18 年）

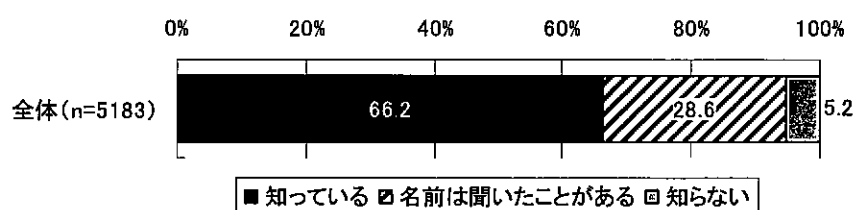


3. アンケート結果

(1) ジェネリック医薬品の認知度

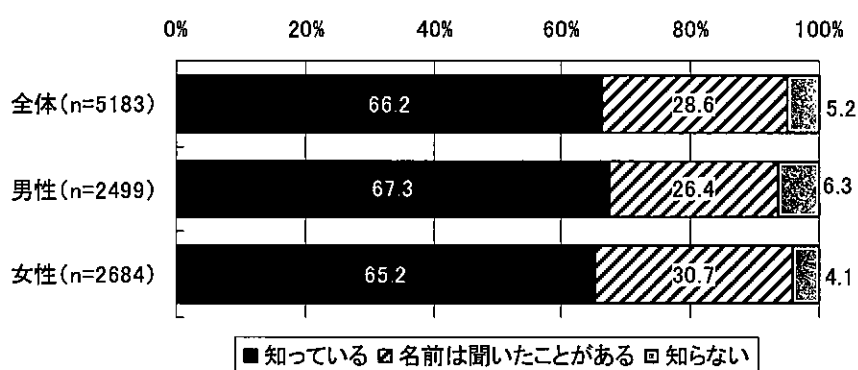
ジェネリック医薬品の認知度についてみると、「知っている」との回答が 66.2%、「名前は聞いたことがある」が 28.6%、「知らない」が 5.2%となった。

図表 3-1 後発医薬品の認知度

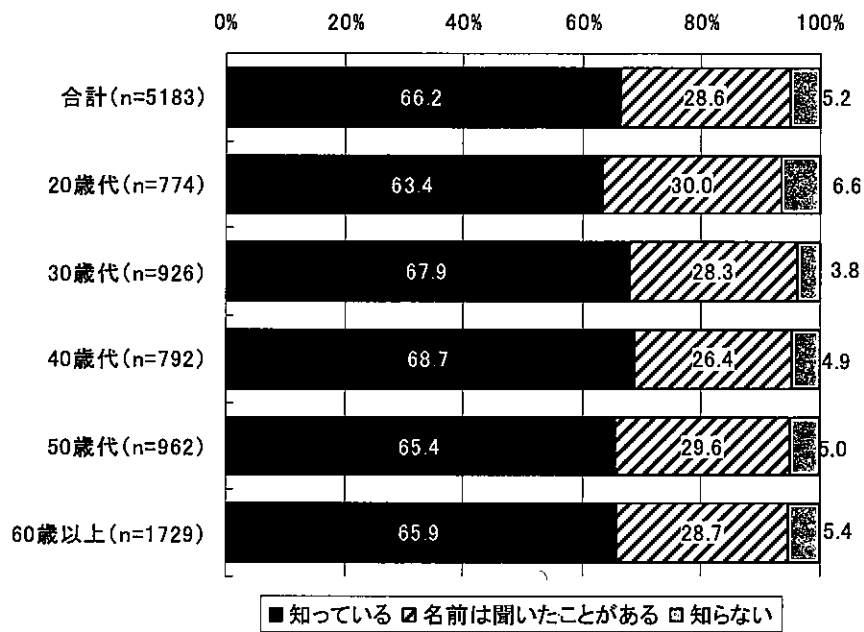


性別、年齢別でみても大きな差はない結果となった。

図表 3-2 後発医薬品の認知度（性別）



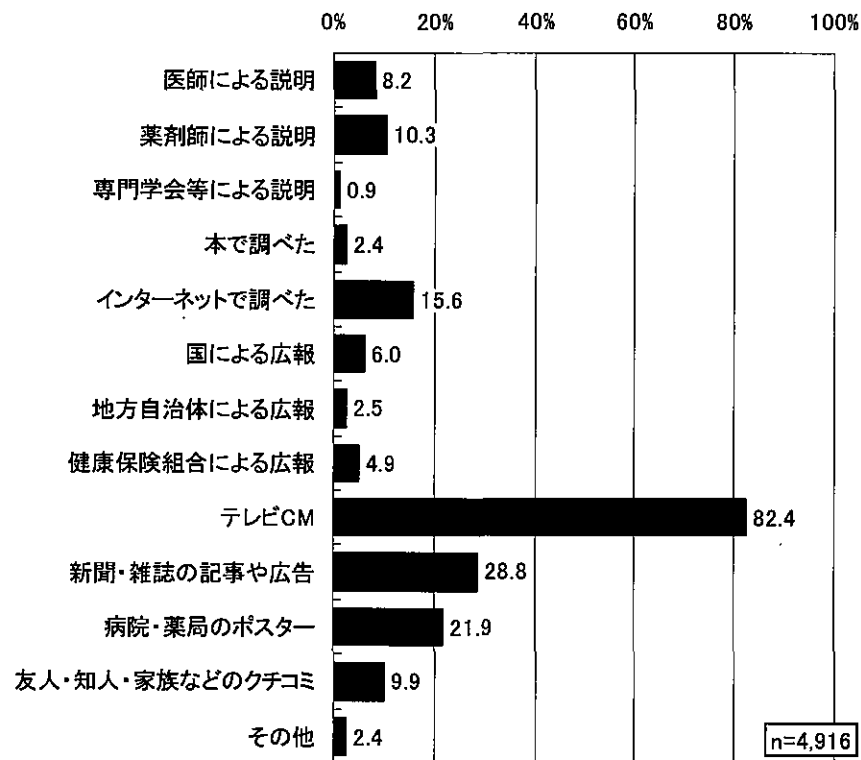
図表 3－3 後発医薬品の認知度（年齢別）



(2) 後発医薬品を知ったきっかけ

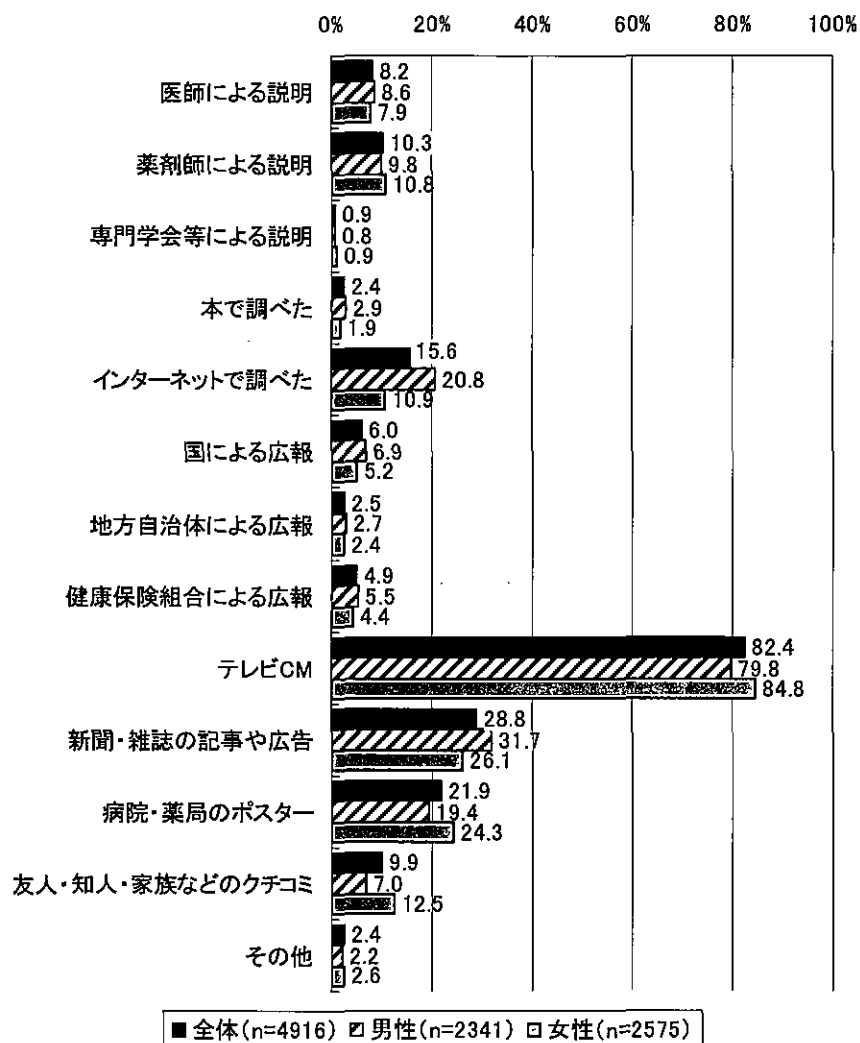
ジェネリック医薬品を「知っている」「名前は聞いたことがある」と回答した人に対して、知るきっかけを尋ねたところ、「テレビCM」が82.4%と最も多くなった。

図表 3-4 後発医薬品を知ったきっかけ（複数回答）



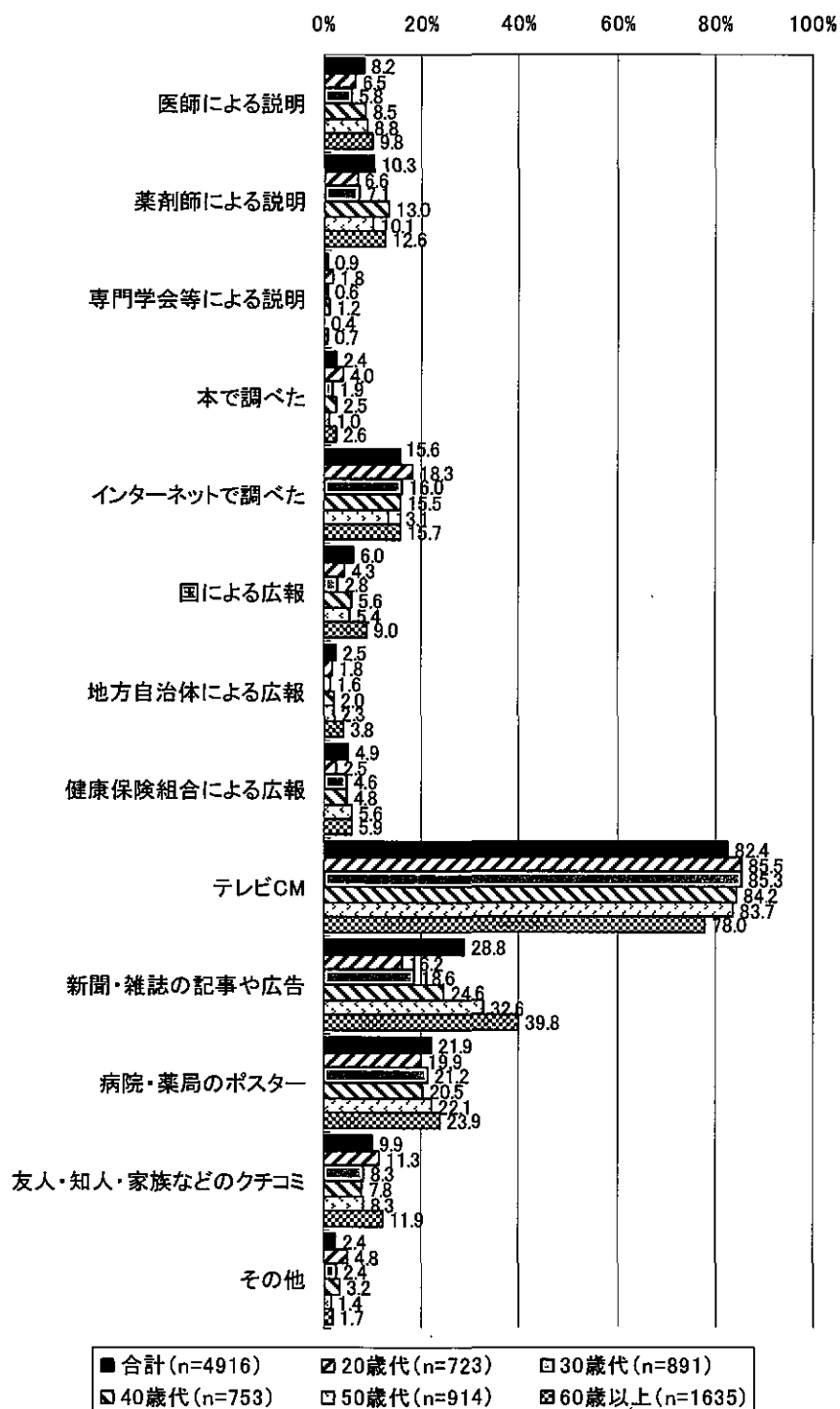
性別でみると、女性に比べ男性で「インターネットで調べた」と回答した割合が高い結果となった。

図表 3-5 後発医薬品を知ったきっかけ（性別）



年齢別にみると、「テレビCM」は年齢が上がるにつれ回答割合が低くなり、「新聞・雑誌の記事や広告」は年齢が上がるにつれ回答割合が高くなっている。

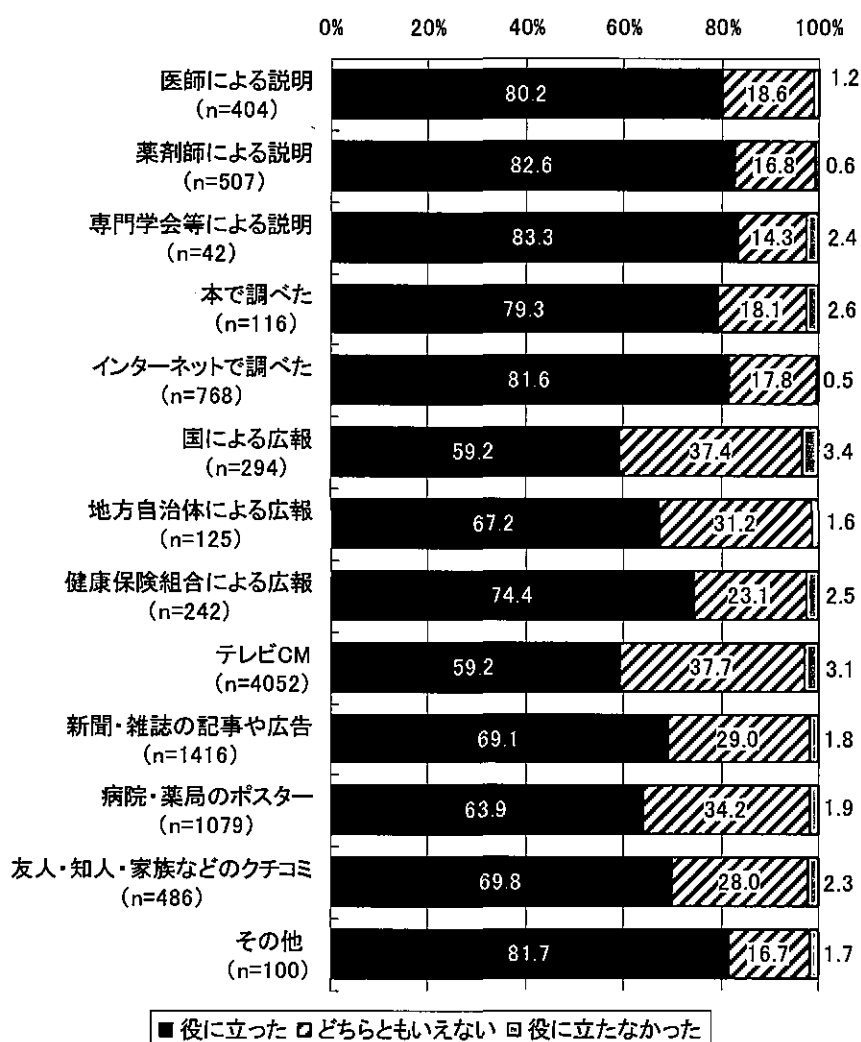
図表 3-6 後発医薬品を知ったきっかけ（年齢別、複数回答）



(3) 情報の有効度

ジェネリック医薬品を「知っている」「名前は聞いたことがある」と回答した人に対して、ジェネリック医薬品を知るきっかけとなったものが自身にとって有効なものであったかについて尋ねたところ、いずれの情報源も約6割以上が「役に立った」との回答であった。特に、「医師による説明」「薬剤師による説明」「専門学会等による説明」、「インターネットで調べた」では「役に立った」との回答が8割以上という結果となった。

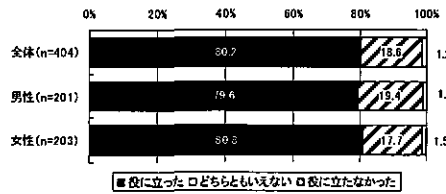
図表 3-7 情報の有効度



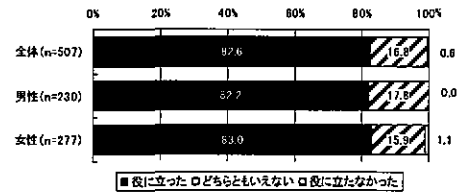
性別でみると、男性に比べ女性の方が、「国による広報」、「友人・知人・家族などのクチコミ」と回答している割合が高い結果となった。

図表 3-8 情報の有効度（性別）

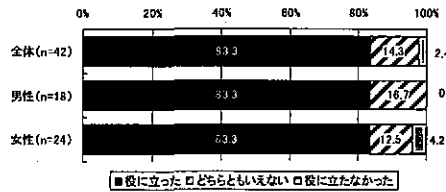
【医師による説明】



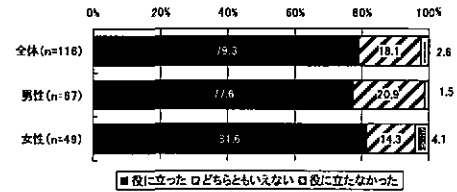
【薬剤師による説明】



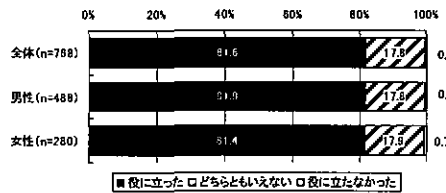
【専門学会等による説明】



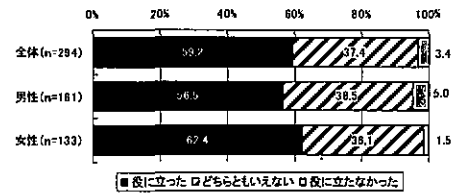
【本で調べた】



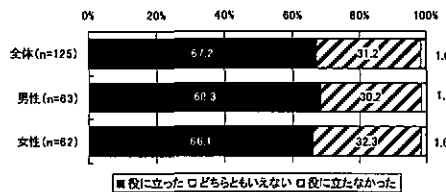
【インターネットで調べた】



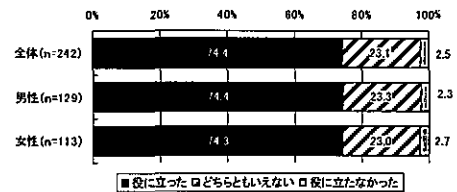
【国による広報】



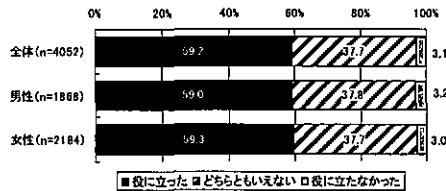
【地方自治体による広報】



【健康保険組合による広報】



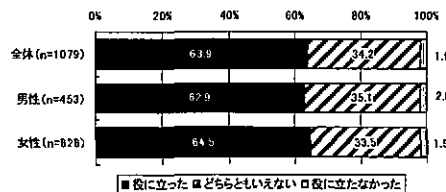
【テレビCM】



【新聞・雑誌の記事や広告】



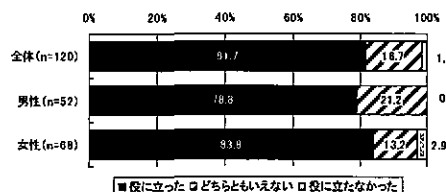
【病院・薬局のポスター】



【友人・知人・家族などのクチコミ】



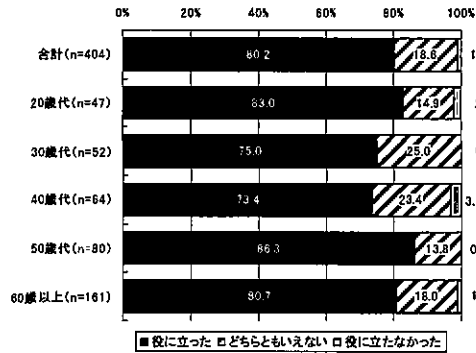
【その他】



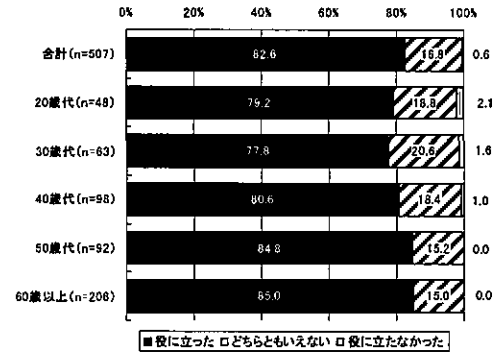
年齢別にみると「地方自治体による広報」は、30歳代以降年齢が上がるにつれ「役に立った」と回答している割合が高い結果となった。

図表 3-9 情報の有効度（年齢別）

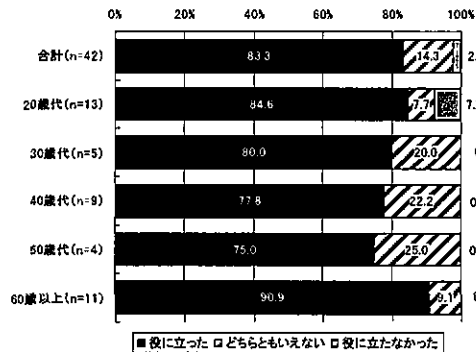
【医師による説明】



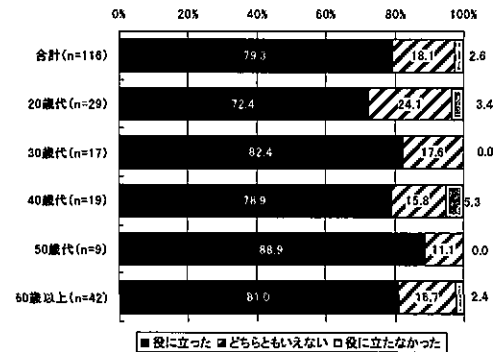
【薬剤師による説明】



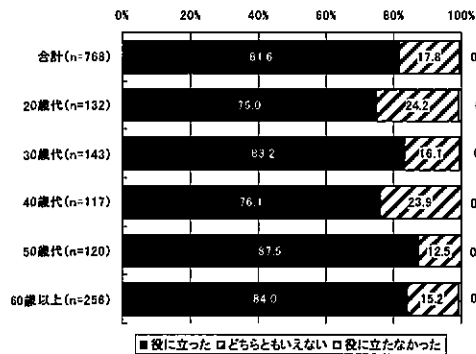
【専門学会等による説明】



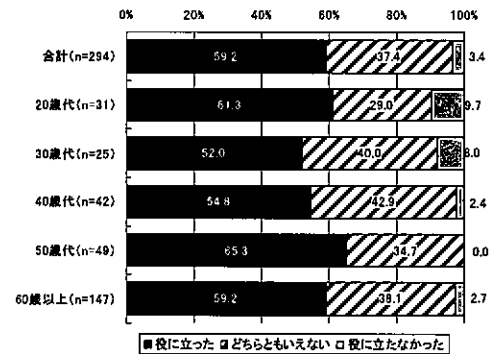
【本で調べた】



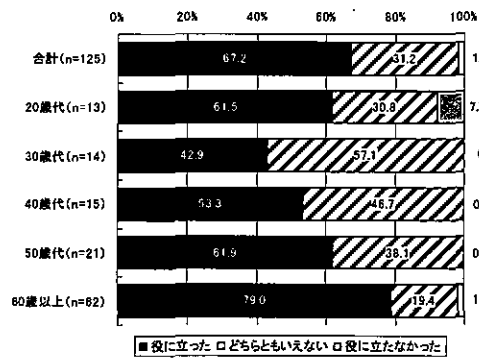
【インターネットで調べた】



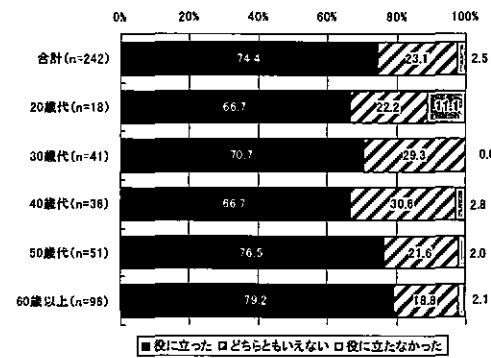
【国による広報】



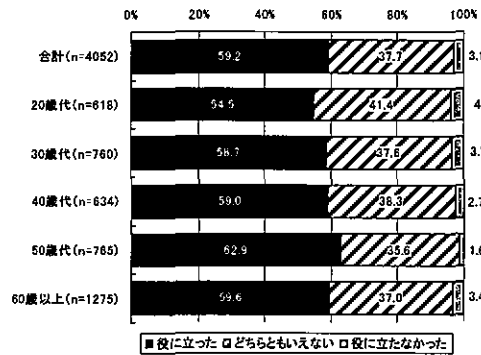
【地方自治体による広報】



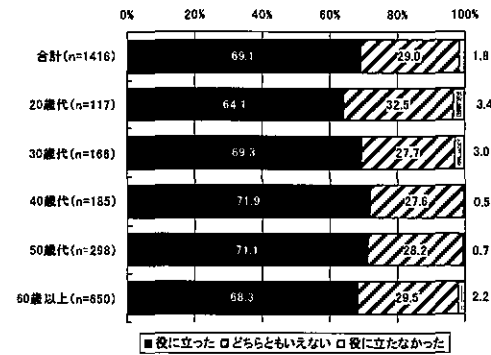
【健康保険組合による広報】



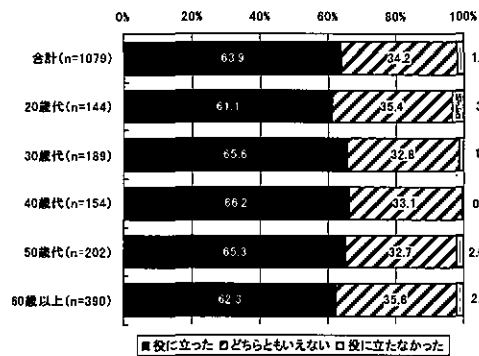
【テレビCM】



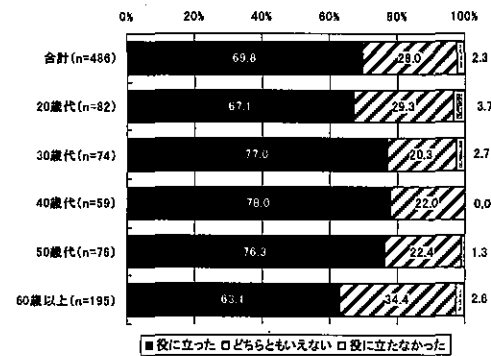
【新聞・雑誌の記事や広告】



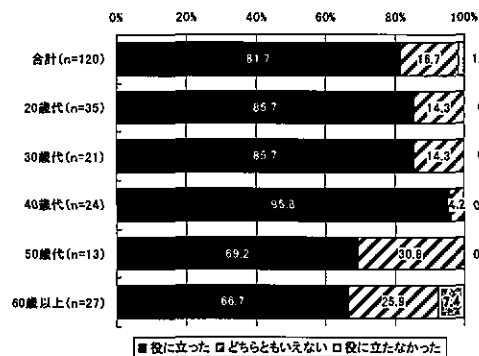
【病院・薬局のポスター】



【友人・知人・家族などのクチコミ】



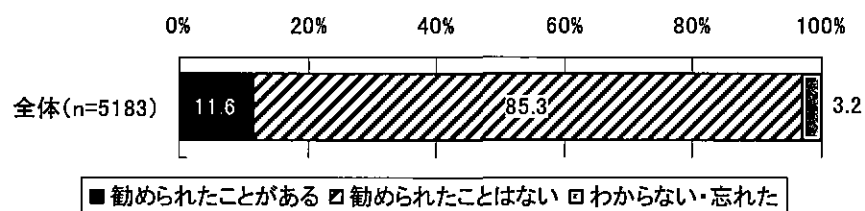
【その他】



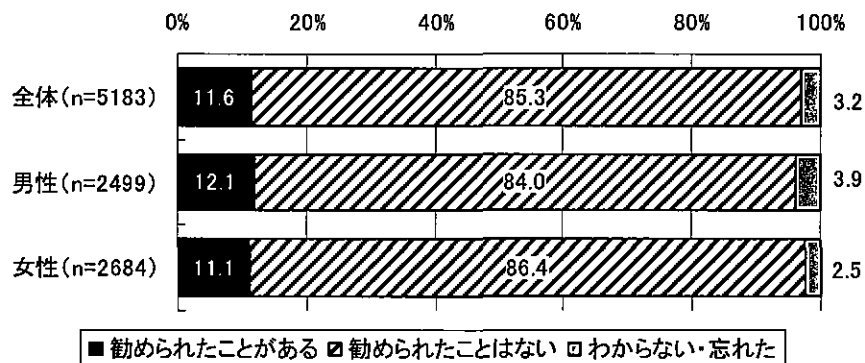
(4) 薬局の処方せん窓口でジェネリック医薬品を勧められた経験

薬局の処方せん窓口でジェネリック医薬品を勧められたかについて尋ねてみると、「勧められたことはない」が85.3%となった。「勧められたことがある」は1割程度にとどまった。

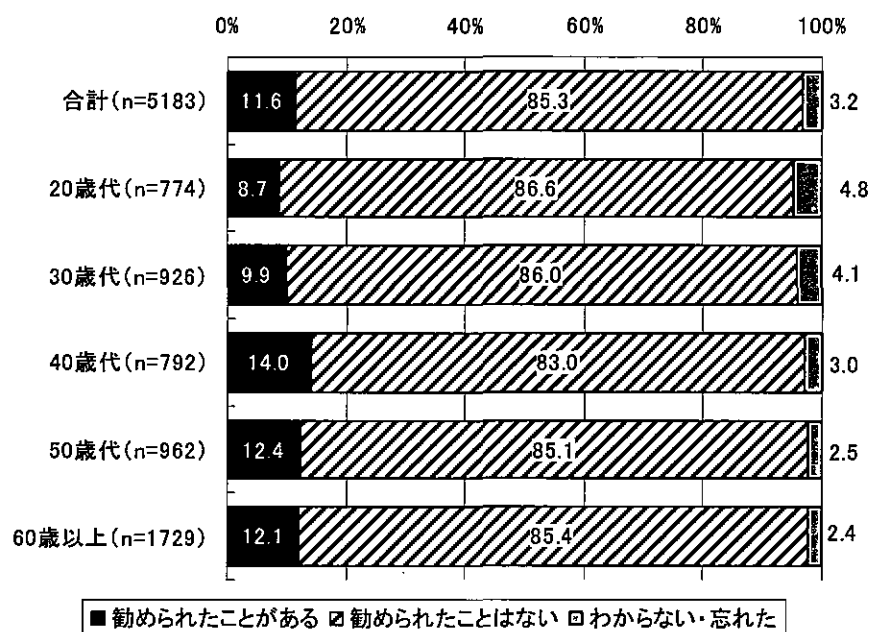
図表 3-10 薬局の処方せん窓口でジェネリック医薬品を勧められた経験



図表 3-11 薬局の処方せん窓口でジェネリック医薬品を勧められた経験 (性別)



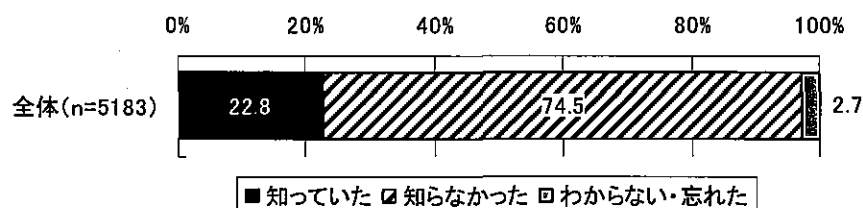
図表 3-12 薬局の処方せん窓口でジェネリック医薬品を勧められた経験（年齢別）



(5) 処方せんの「変更不可」欄の認知度

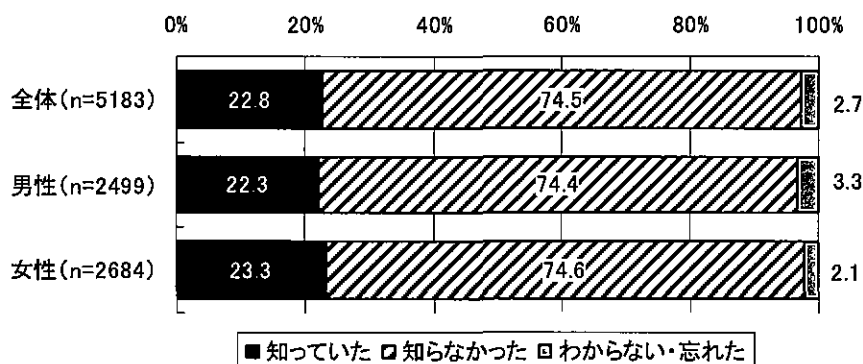
処方せんの「変更不可」欄の認知度についてみると、「知っていた」との回答が約 2 割あり、「知らなかった」が 74.5% となった。

図表 3-13 処方せんの「変更不可」欄の認知度

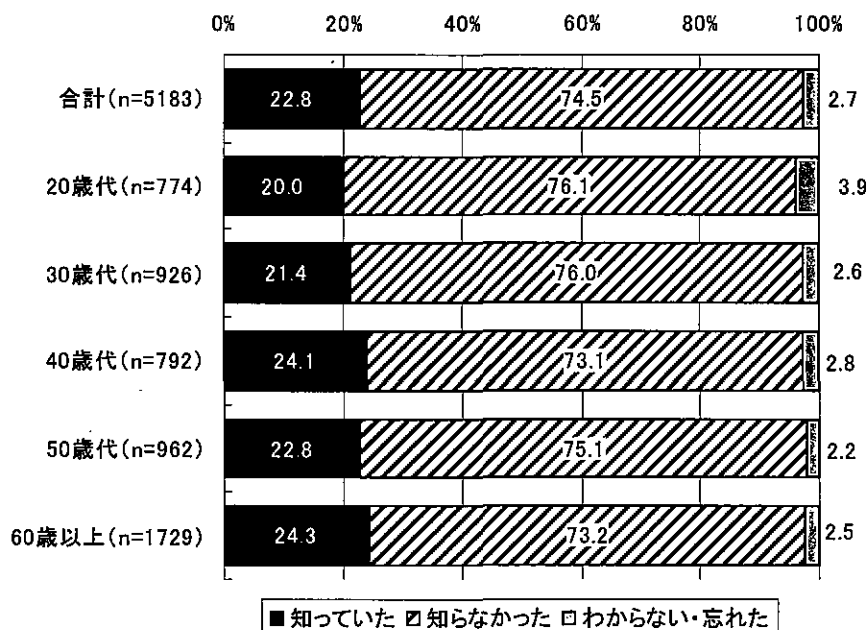


性別、年齢別でみても大きな差はない結果となった。

図表 3-14 処方せんの「変更不可」欄の認知度（性別）



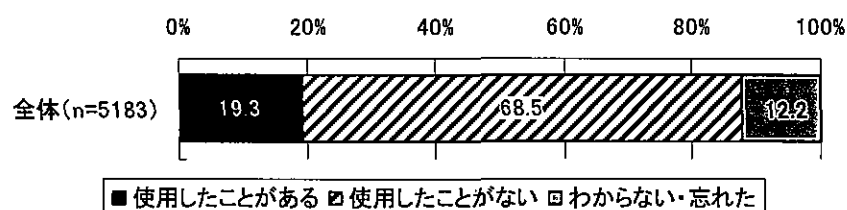
図表 3-15 処方せんの「変更不可」欄の認知度（年齢別）



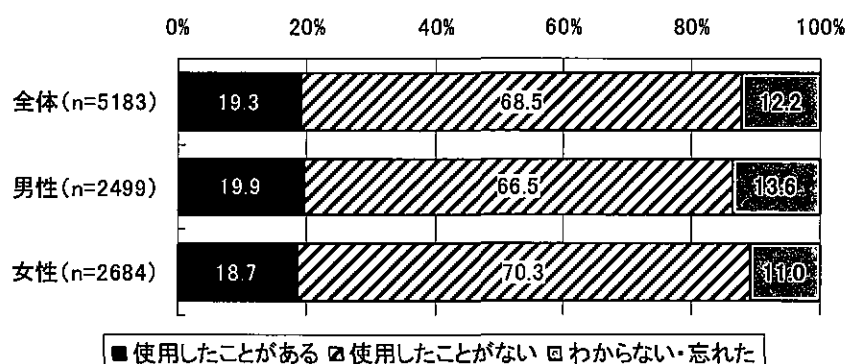
(6) ジェネリック医薬品の使用の有無

ジェネリック医薬品の使用の有無についてみると、「使用したことがある」が19.3%、「使用したことがない」が68.5%となった。

図表 3-16 ジェネリック医薬品の使用の有無

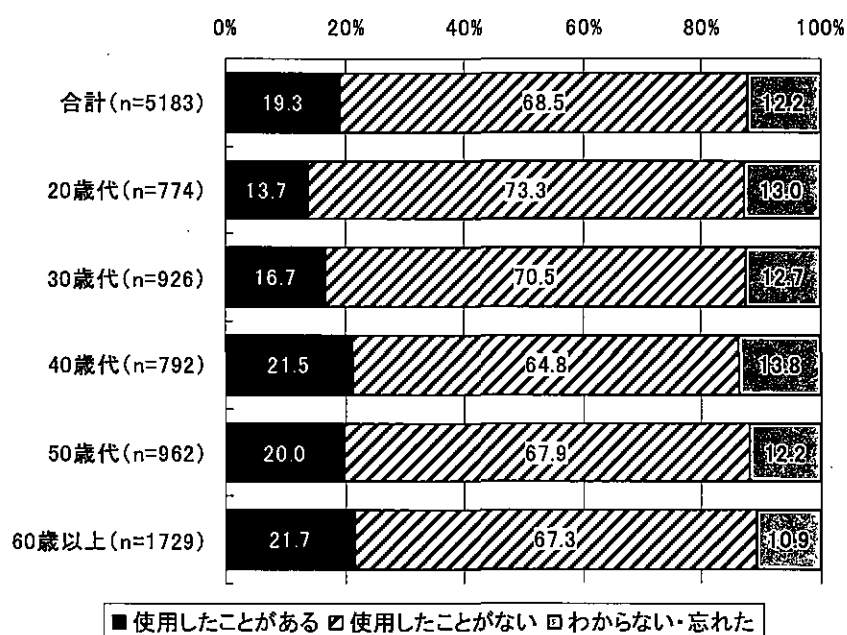


図表 3-17 ジェネリック医薬品の使用の有無（性別）



年齢別にみると年齢が上がるにつれ、ジェネリック医薬品を「使用したことがある」と回答している割合が高くなっている。

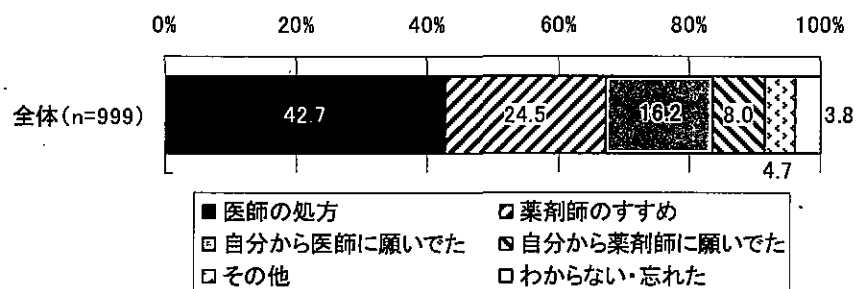
図表 3-18 ジェネリック医薬品の使用の有無（年齢別）



(7) 初めてジェネリック医薬品を使用したきっかけ

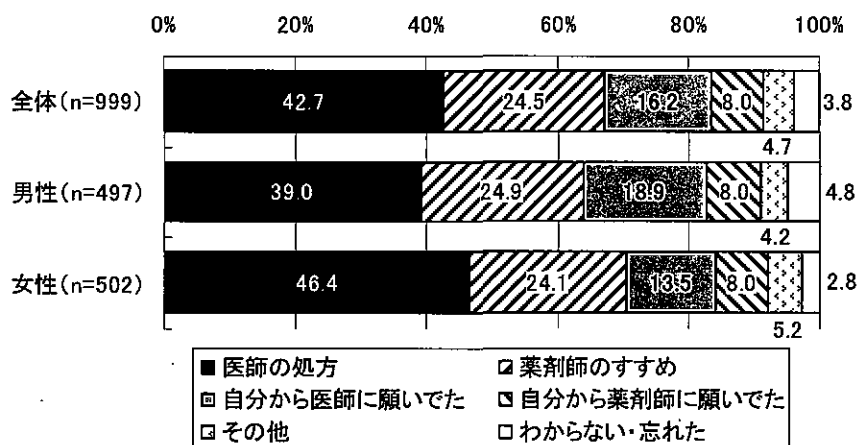
初めてジェネリック医薬品を使用したきっかけについてみると、「医師の処方」(42.7%) が最も多く、次いで「薬剤師のすすめ」(24.5%)、「自分から医師に願いでた」(16.2%) の順となった。

図表 3-19 初めてジェネリック医薬品を使用したきっかけ



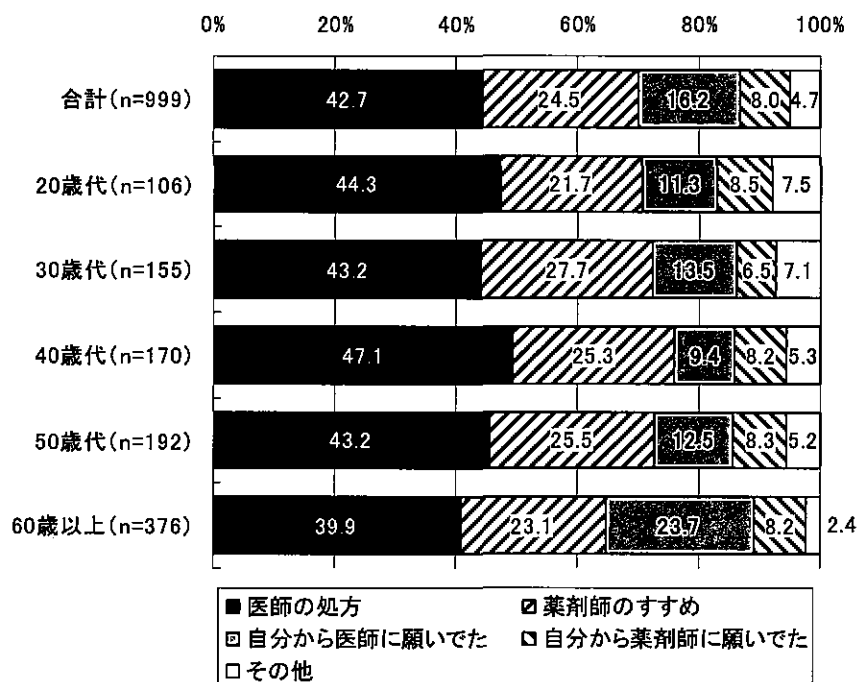
性別でみると、男性は女性にくらべ「自分から医師に願いでた」割合が高く、女性は男性に比べ、「医師の処方」が高くなっている。

図表 3-20 初めてジェネリック医薬品を使用したきっかけ (性別)



年齢別にみると、60 歳以上で「自分から医師に願いでた」が他の年代に比べ高くなっている。

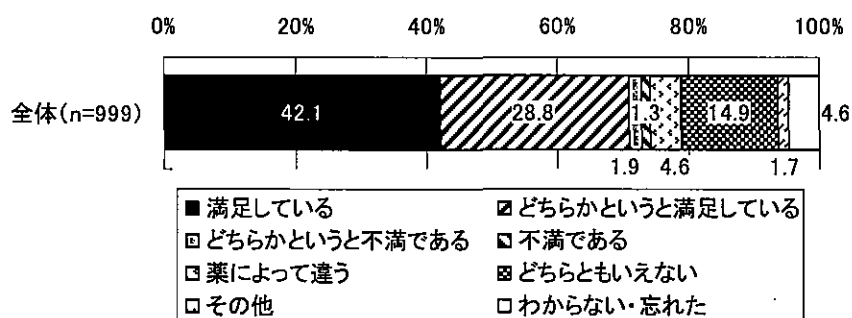
図表 3-21 初めてジェネリック医薬品を使用したきっかけ（年齢別）



(8) 先発医薬品と比較したジェネリック医薬品の効き目

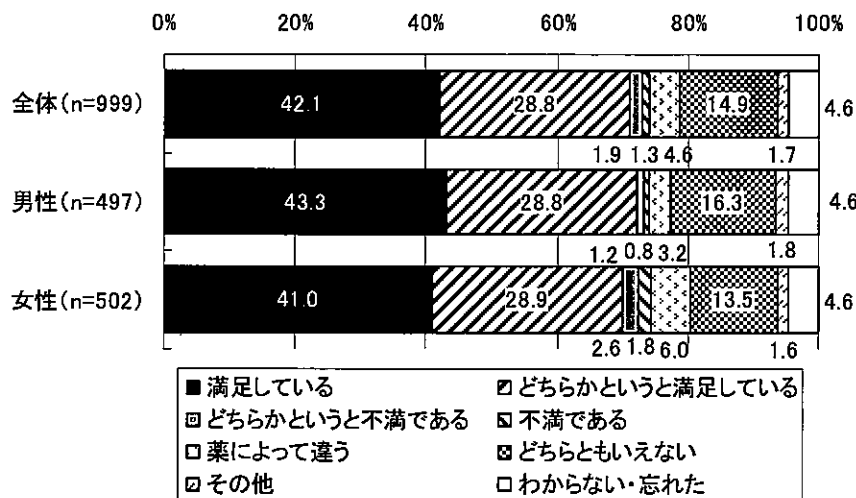
これまでに使用した先発医薬品と比較したジェネリック医薬品の効き目についてみると、「満足している」(42.1%) が最も多く、次いで、「どちらかという満足している」(28.8%)、「どちらともいえない」(14.9%) の順となった。「満足(満足している)と「どちらかという満足している」の合計)」との回答が約 7 割を占める結果となった。

図表 3-22 先発医薬品と比較したジェネリック医薬品の効き目



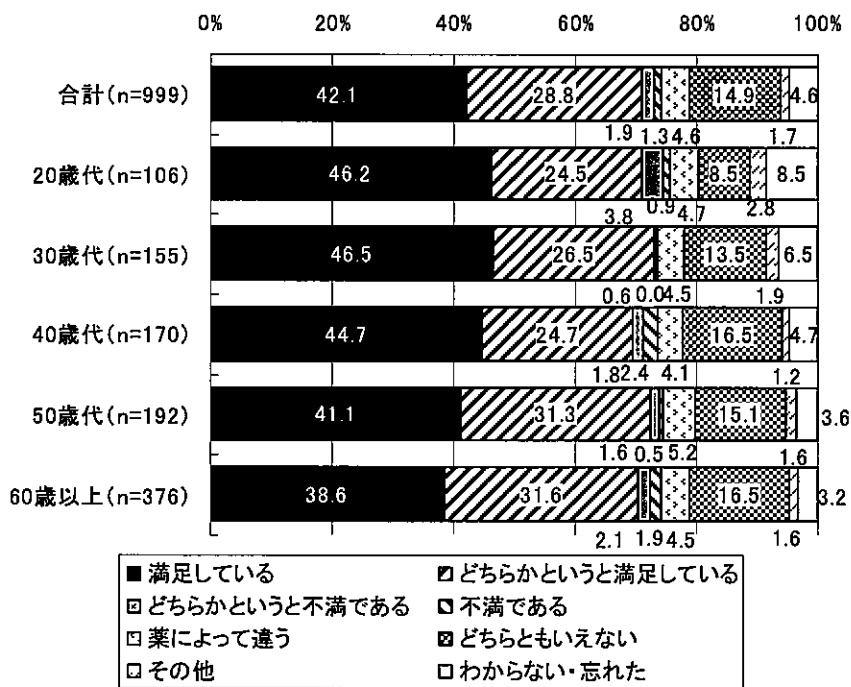
性別でみると、男性に比べ女性の方が、「薬によって違う」、「不満である」と回答した割合が高くなっている。

図表 3-23 先発医薬品と比較したジェネリック医薬品の効き目（性別）



年齢別でみると、年齢が上がるにつれ「不満である」と回答した割合が高くなっている。

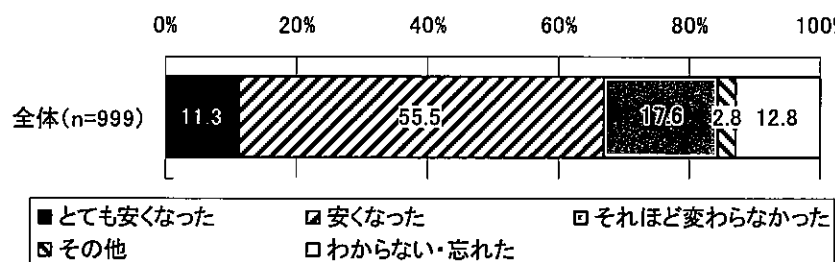
図表 3-24 先発医薬品と比較したジェネリック医薬品の効き目（年齢別）



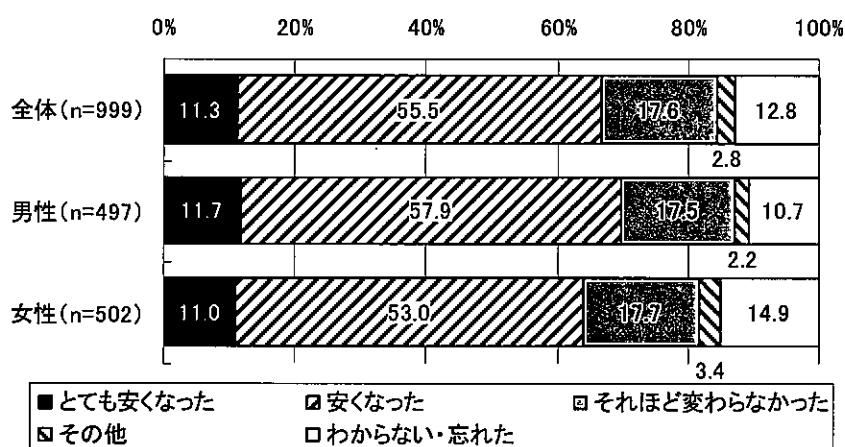
(9) 薬局や医療機関の窓口で支払ったお薬代について

薬局や医療機関の窓口で支払ったお薬代についてみると、「安くなった」(55.5%)が最も多く、次いで「それほど変わらなかった」(17.6%)の順となった。

図表 3-25 薬局や医療機関の窓口で支払ったお薬代について

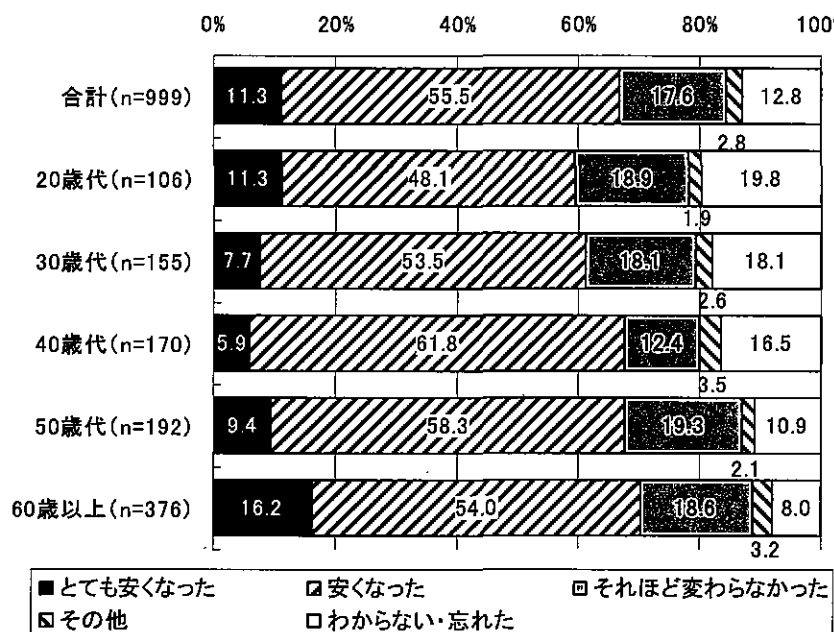


図表 3-26 薬局や医療機関の窓口で支払ったお薬代について (性別)



年齢別にみると、年齢が上がるにつれ安くなったと回答した割合が高くなっている。特に、60歳以上で「とても安くなった」の回答が多くなっている。

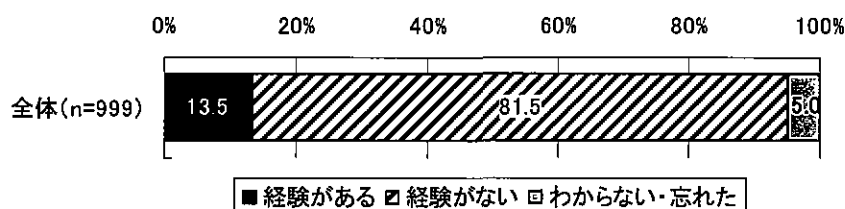
図表 3-27 薬局や医療機関の窓口で支払ったお薬代について（年齢別）



(10) ジェネリック医薬品を使用後先発医薬品に戻した経験の有無

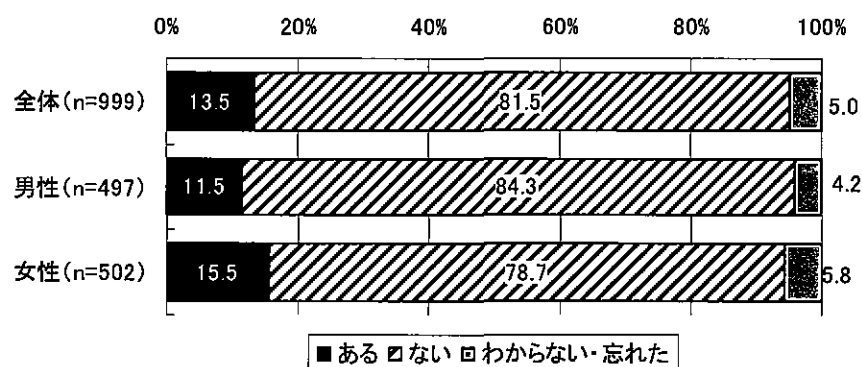
ジェネリック医薬品を使用後、先発医薬品に戻した経験の有無についてみると、「経験がない」の回答が約8割を占める結果となった。

図表 3-28 ジェネリック医薬品を使用後先発医薬品に戻した経験の有無



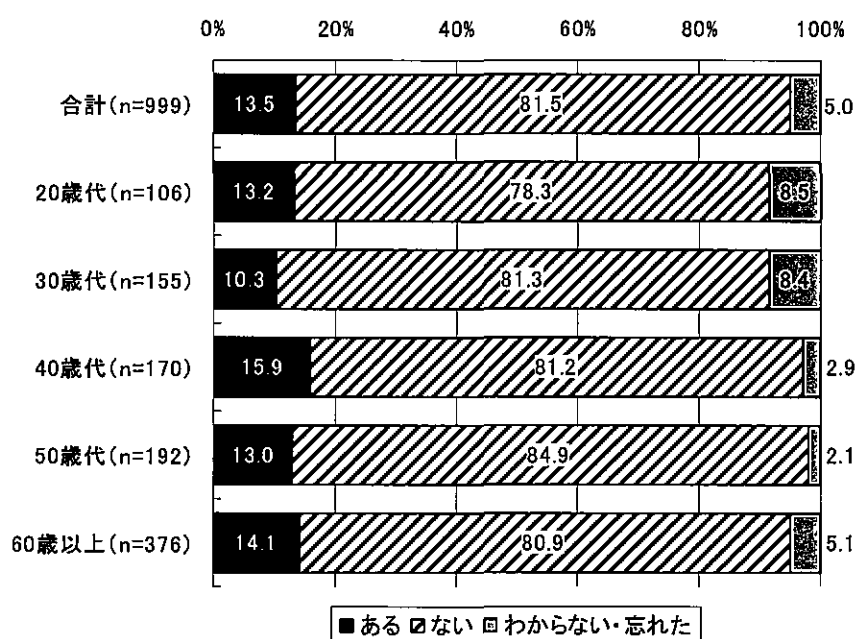
性別でみると、女性は男性に比べ「経験がある」と回答した割合が高くなっている。

図表 3-29 ジェネリック医薬品を使用後先発医薬品に戻した経験の有無（性別）



年齢別にみると、年齢との関係は特段見られなかった。

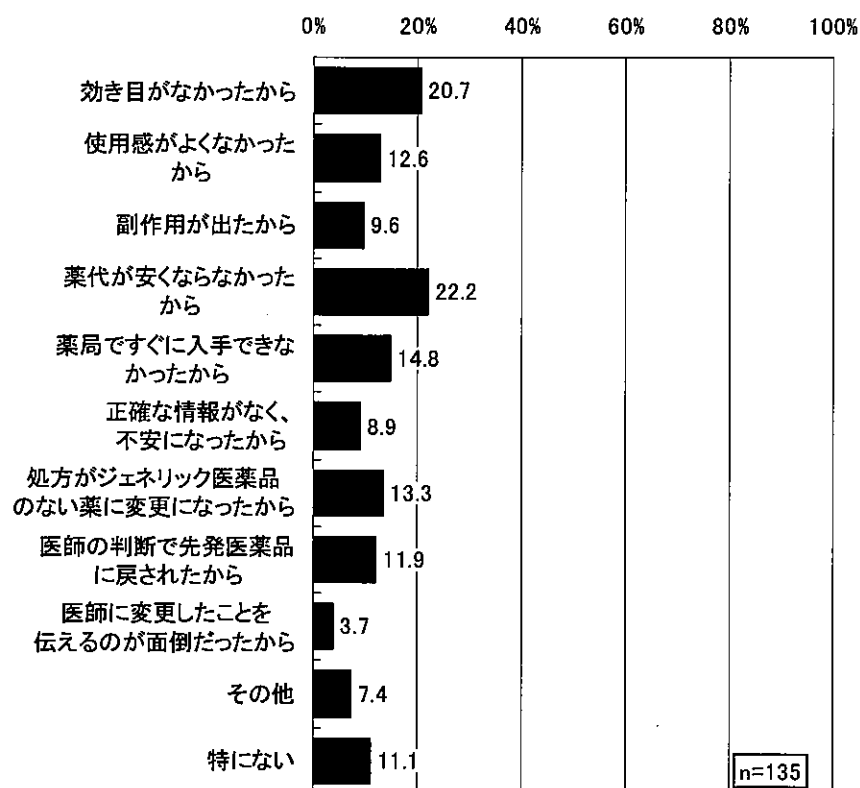
図表 3-30 ジェネリック医薬品を使用後先発医薬品に戻した経験の有無（年齢別）



(11) ジェネリック医薬品の使用をやめた理由

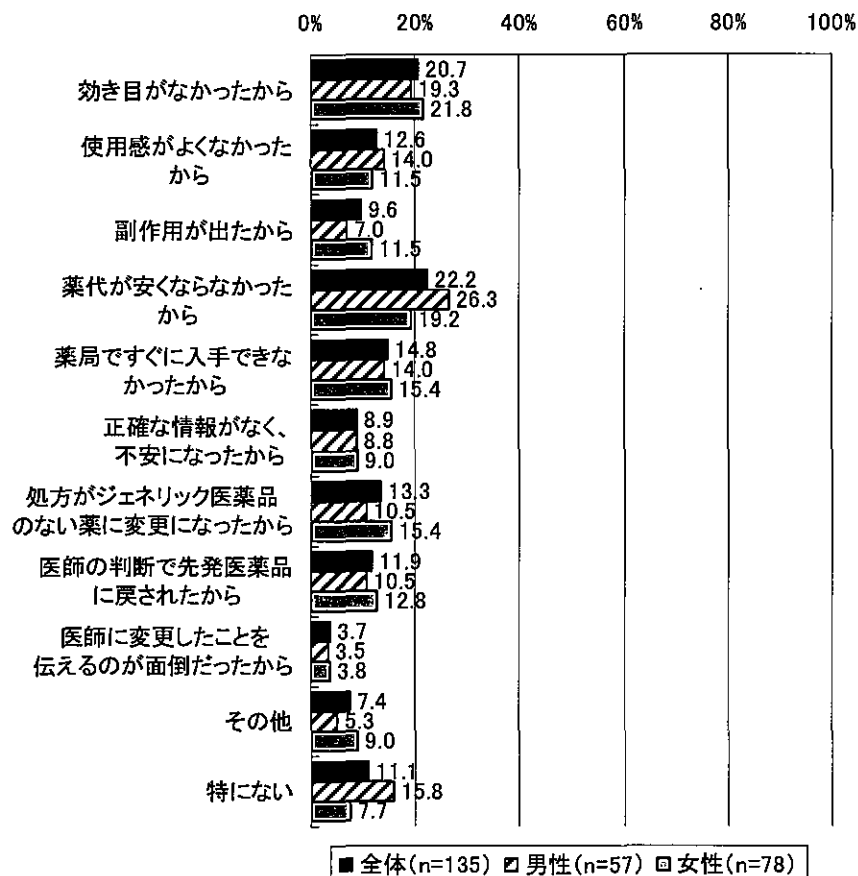
ジェネリック医薬品の使用後、先発医薬品に戻した経験がある人にその理由を尋ねたところ、「薬代が思ったよりも安くならなかったから」(22.2%)が最も多く、次いで、「効き目がなかったから」(20.7%)の順となった。

図表 3-31 ジェネリック医薬品の使用をやめた理由(複数回答)



性別でみると、男性は「薬代が安くならなかったから」、女性は「副作用が出たから」「処方がジェネリック医薬品のない薬に変更になったから」が高くなっている。

図表 3-32 ジェネリック医薬品の使用をやめた理由（性別、複数回答）



年齢別にみると30歳代では「医師の判断で先発品に戻されたから」が、40歳代では「薬局ですぐに入手できなかったから」及び「使用感がよくなかったから」が、50歳代では「効き目がなかったから」が高くなっている。

図表 3-33 ジェネリック医薬品の使用をやめた理由（年齢別、複数回答）

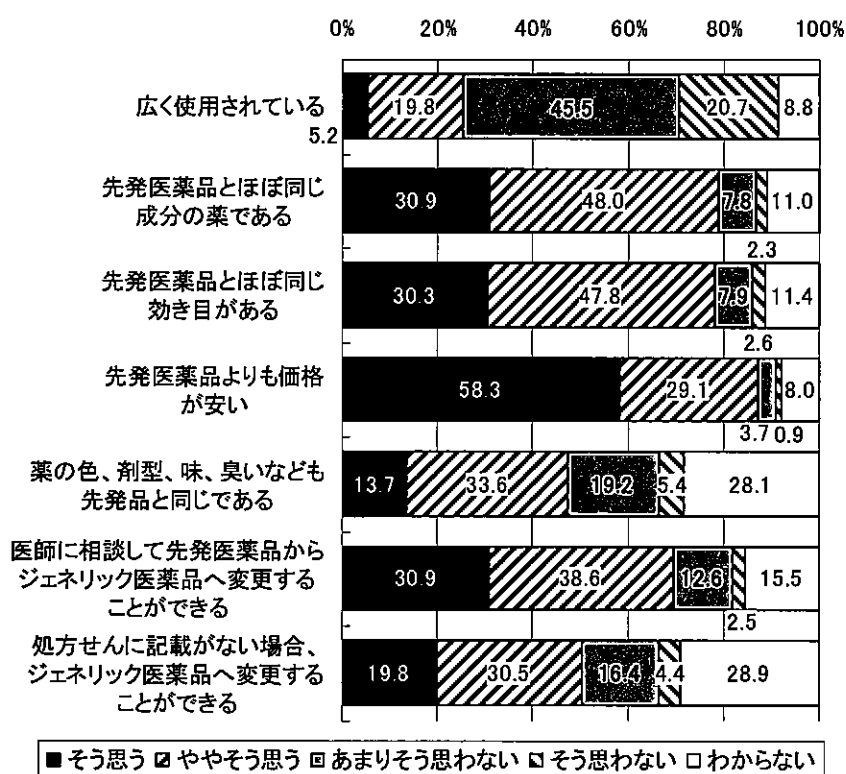


(12) ジェネリック医薬品に対するイメージ

ジェネリック医薬品に対するイメージについてみると、「先発医薬品（新薬）よりも価格が安い」で約9割が「そう思う（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）」と回答する結果となった。また、約8割が「先発医薬品（新薬）とほぼ同じ成分の薬である」「先発医薬品（新薬）とほぼ同じ効き目がある」というイメージを持っている結果となった。

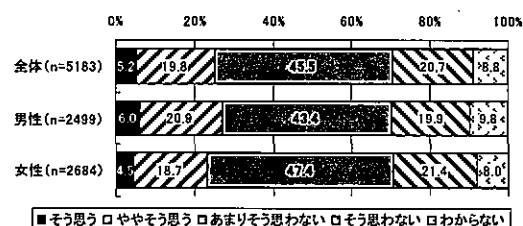
その反面「一般に広く使用されている」では、約7割が「そう思わない（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計）」と回答する結果となった。

図表 3-34 ジェネリック医薬品に対するイメージ (n=5,183)

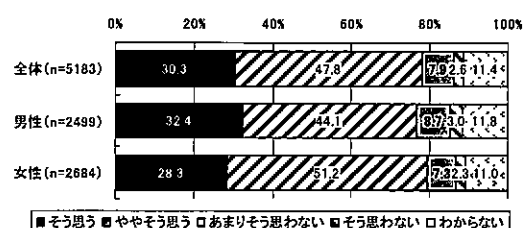


性別でみると、「医師に相談して先発医薬品からジェネリック医薬品へ変更することができる」が女性より男性の方が低くなっている。

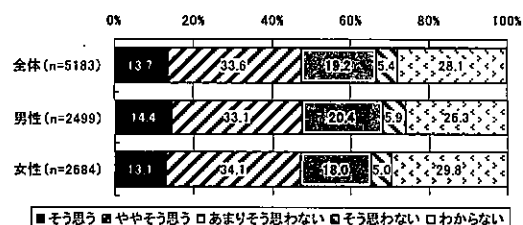
図表 3-35 ジェネリック医薬品に対するイメージ (性別)
【広く使用されている】 【先発医薬品とほぼ同じ成分である】



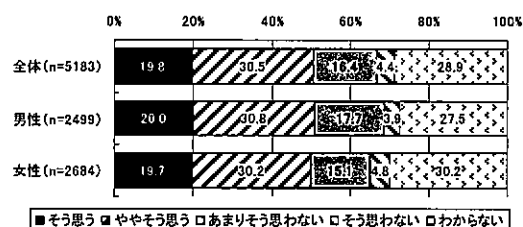
【先発医薬品とほぼ同じ効き目がある】



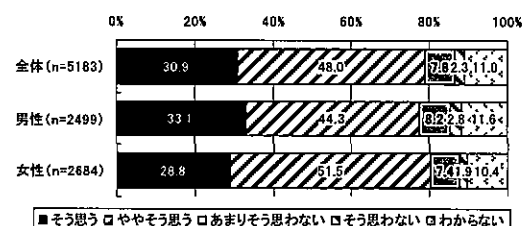
【薬の色、剤型、味、臭いなども先発医薬品と同じである】



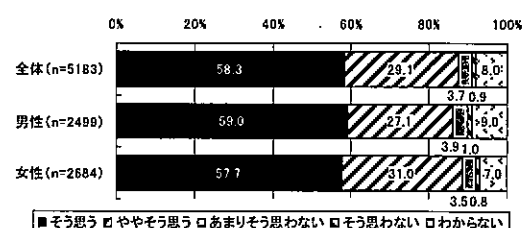
【処方せんに記載がない場合、ジェネリック医薬品へ変更することができる】



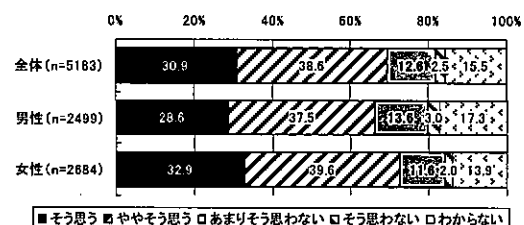
【先発医薬品とほぼ同じ成分である】



【先発医薬品よりも価格が安い】

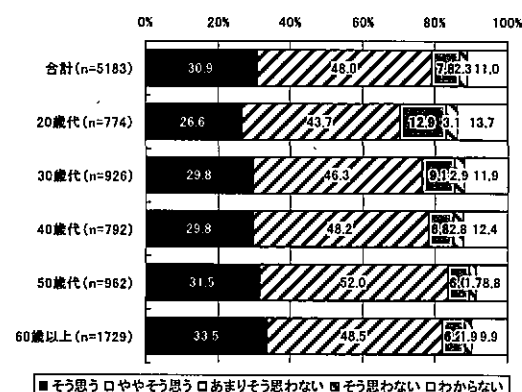
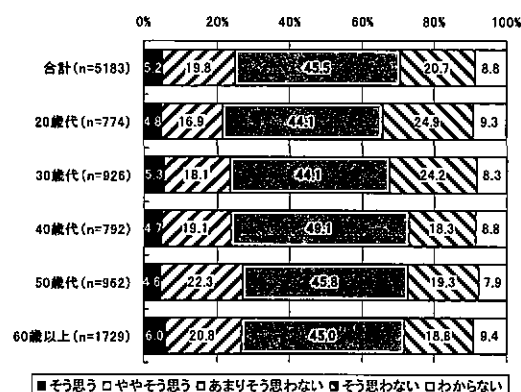


【医師に相談して先発医薬品からジェネリック医薬品へ変更することができる】

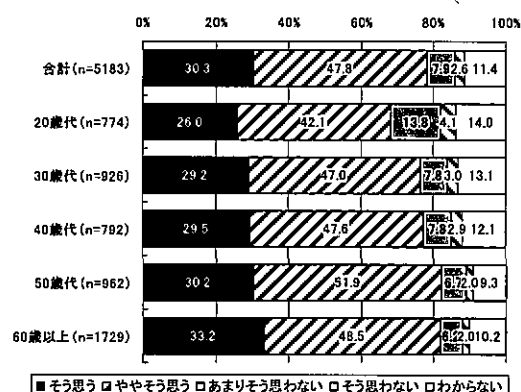


年齢別にみると、いずれの理由においても年齢が上がるにつれ「思う（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）の回答が高くなっている。

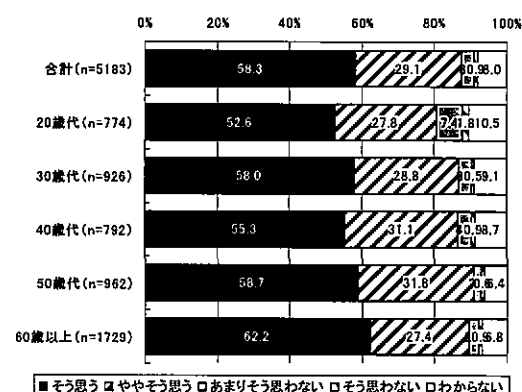
図表 3-36 ジェネリック医薬品に対するイメージ（年齢別）
【広く使用されている】 【先発医薬品とほぼ同じ成分である】



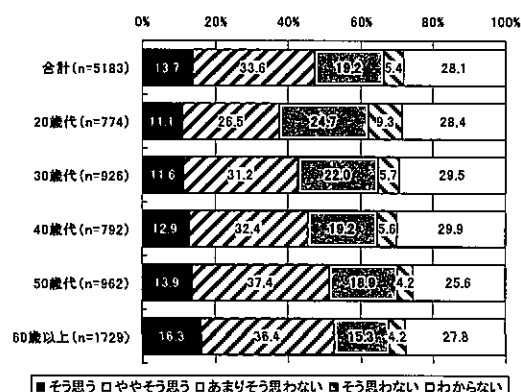
【先発医薬品とほぼ同じ効き目がある】



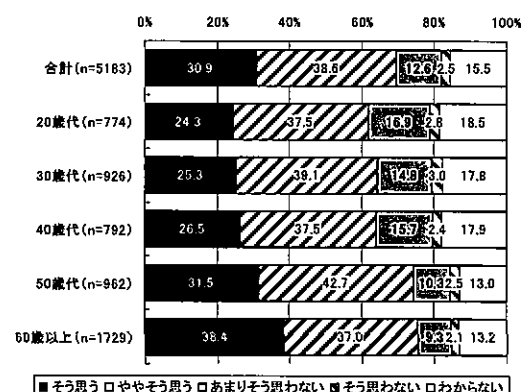
【先発医薬品よりも価格が安い】



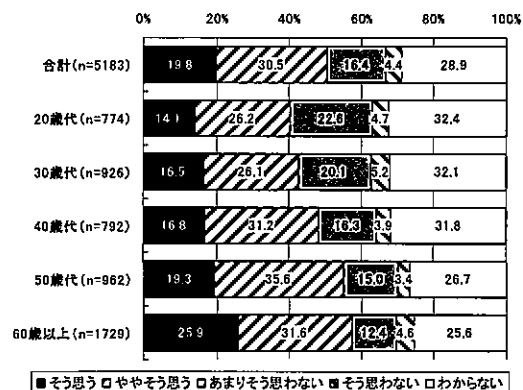
【薬の色、剤型、味、臭いなども先発医薬品と同じである】



【医師に相談して先発医薬品からジェネリック医薬品へ変更することができる】



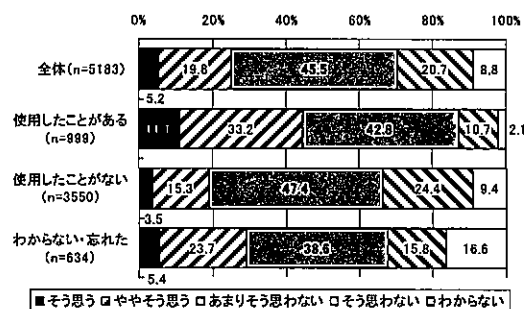
【処方せんに記載がない場合、ジェネリック医薬品へ変更することができる】



■ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない □ わからない

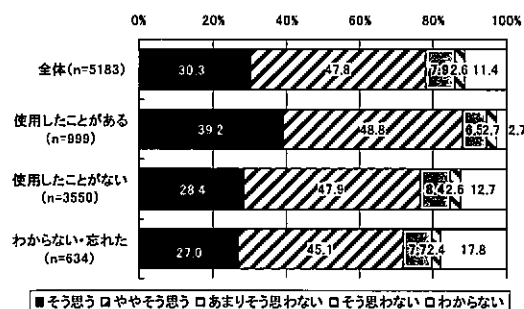
後発医薬品の使用経験の有無別にみると、いずれの理由においても、使用したことがある人の方が「思う（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）の回答が高くなっている。

図表 3-37 ジェネリック医薬品に対するイメージ（使用経験の有無別）
【広く使用されている】 【先発医薬品とほぼ同じ成分である】

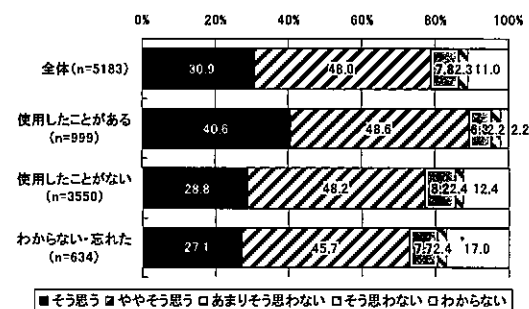


■ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない □ わからない

【先発医薬品とほぼ同じ効き目がある】

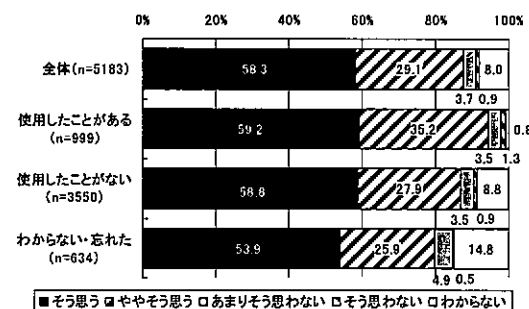


■ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない □ わからない



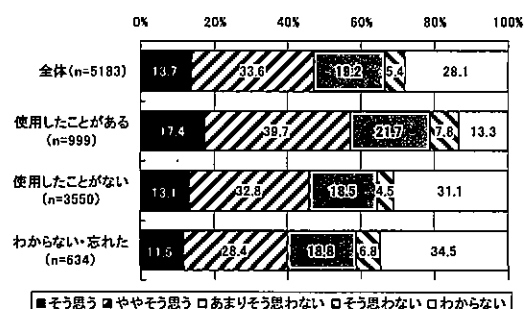
■ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない □ わからない

【先発医薬品よりも価格が安い】

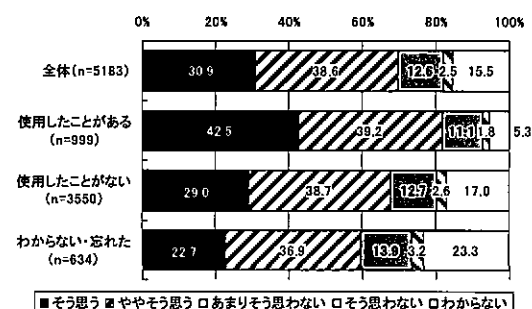


■ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない □ わからない

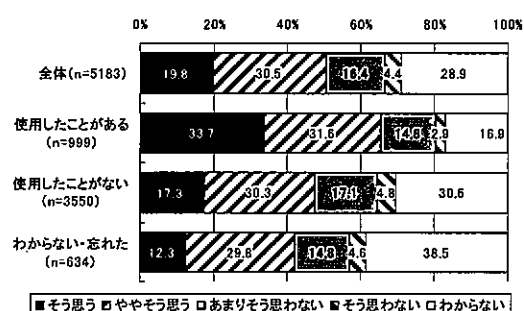
【薬の色、剤型、味、臭いなども先発医薬品と同じである】



【医師に相談して先発医薬品からジェネリック医薬品へ変更することができる】



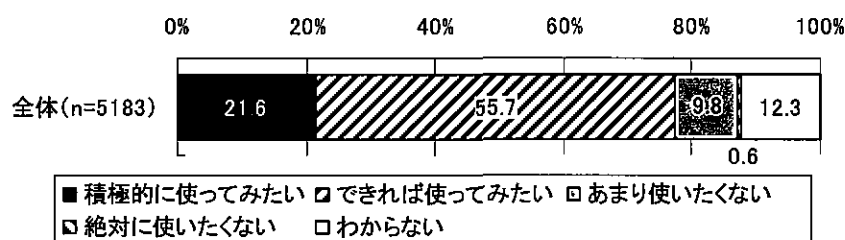
【処方せんに記載がない場合、ジェネリック医薬品へ変更することができる】



(13) ジェネリック医薬品の使用意向

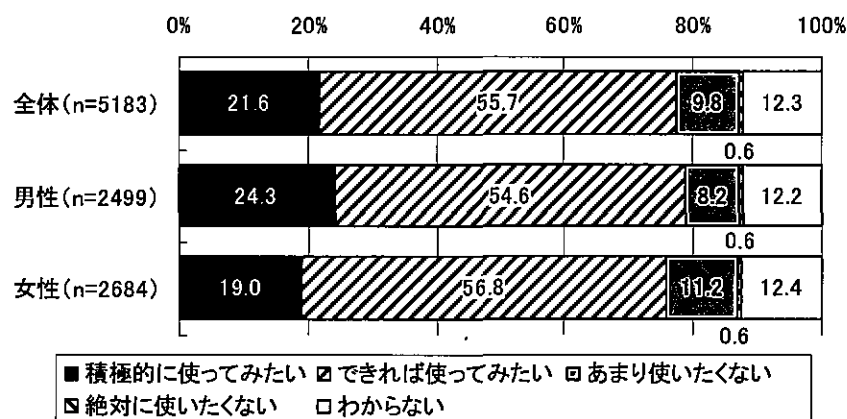
今後のジェネリック医薬品の使用意向について尋ねたところ、「積極的に使ってみたい」(21.6%)と「できれば使ってみたい」(55.7%)を合わせると、約8割が「使ってみたい」と回答する結果となった。

図表 3-38 ジェネリック医薬品の使用意向



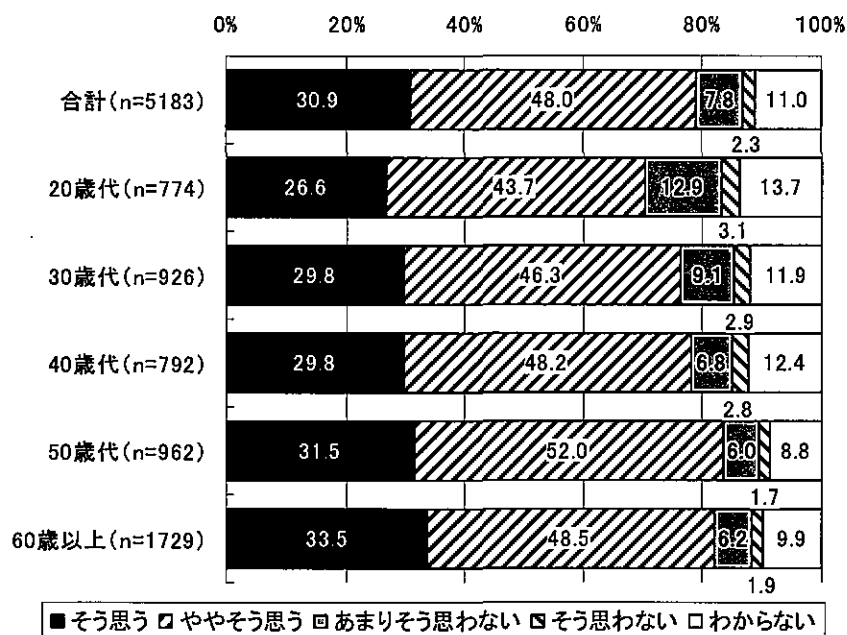
性別でみると、男性に比べ女性の方が「使いたくない」の回答が高くなっている。

図表 3-39 ジェネリック医薬品の使用意向（性別）



年齢別にみると、他の年代に比べ 20 歳代で「使いたくない」の回答が高くなっている。

図表 3-40 ジェネリック医薬品の使用意向（年齢別別）

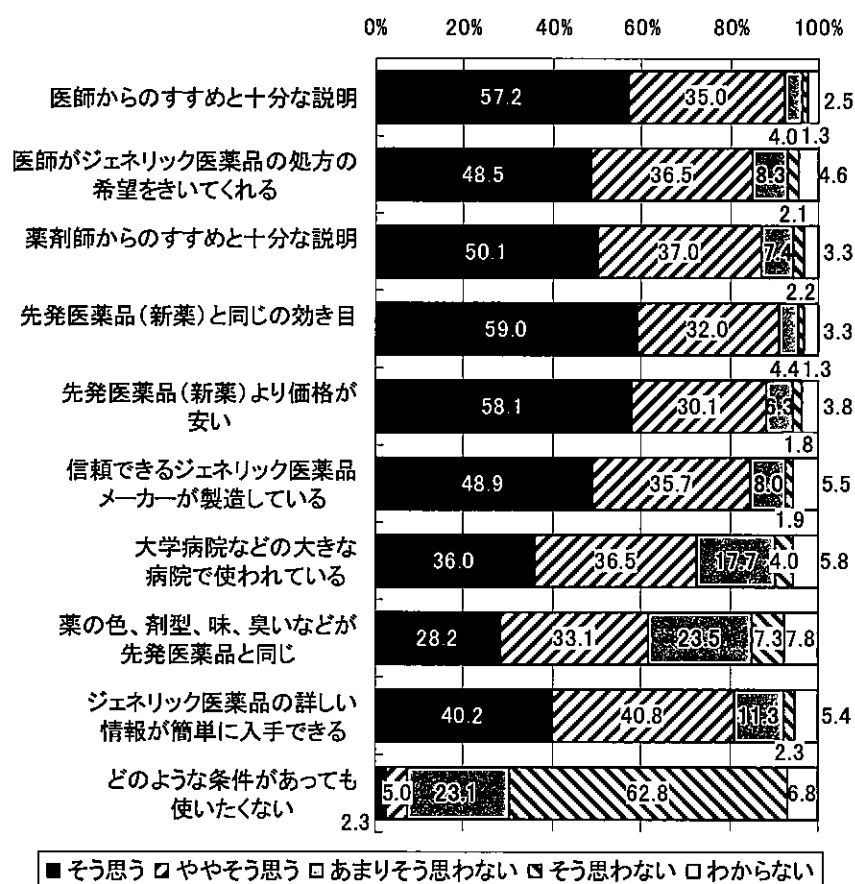


(14) ジェネリック医薬品の今後の使用意向

今後のジェネリック医薬品の使用意向について尋ねたところ、「どのような条件があってもジェネリック医薬品を使いたくない」で「そう思う」と回答した人は2.3%、「ややそう思う」と回答した人は5.0%で合わせても1割に満たない結果となった。条件によっては、ジェネリック医薬品の今後の利用意向は高くなっている。

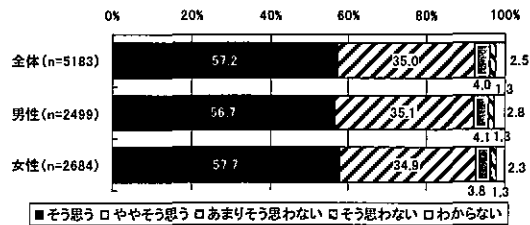
使用するための条件として、「薬の色、剤型（薬の型）、味、臭いなどが先発医薬品（新薬）と同じであれば使ってみたい」以外の項目で「(使ってみたい) 思う（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）」の回答が7割以上となっている。

図表 3-41 ジェネリック医薬品の今後の使用意向

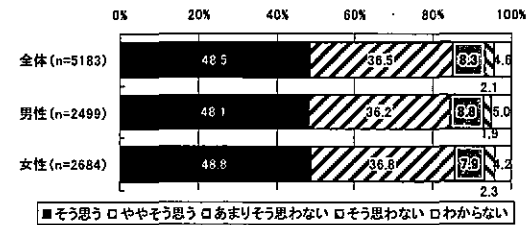


図表 3-42 ジェネリック医薬品の今後の使用意向（性別）

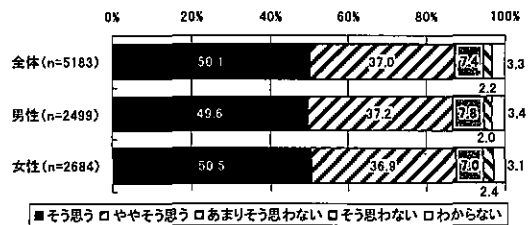
【医師からのすすめと十分な説明があれば使ってみたい】



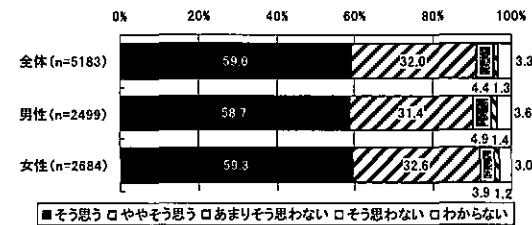
【医師がジェネリック医薬品処方の希望をきいてくれば使ってみたい】



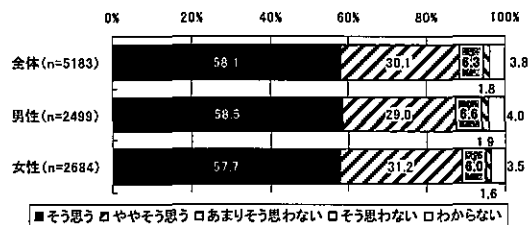
【薬剤師からのすすめと十分な説明があれば使ってみたい】



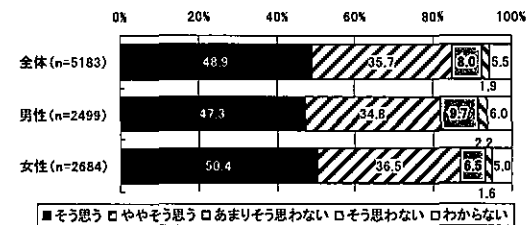
【先発医薬品（新薬）と同じ効き目があれば使ってみたい】



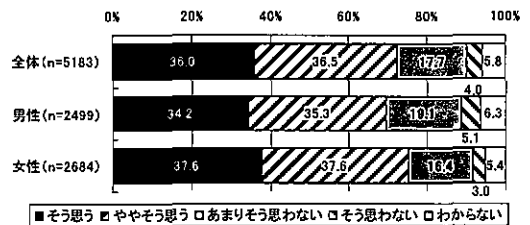
【先発医薬品（新薬）より価格が安ければ使ってみたい】



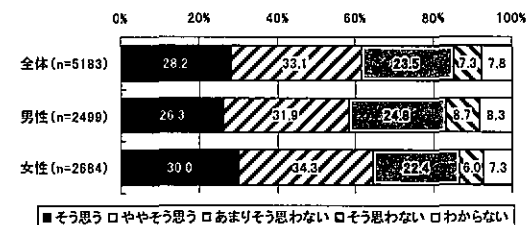
【信頼できるジェネリック医薬品メーカーが製造していれば使ってみたい】



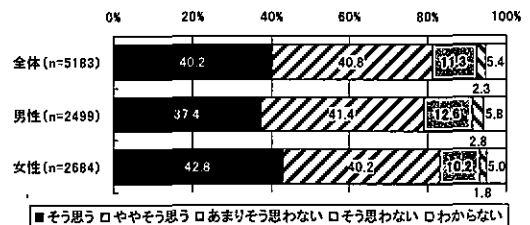
【大学病院や国立病院などの大きな病院で使われていれば使ってみたい】



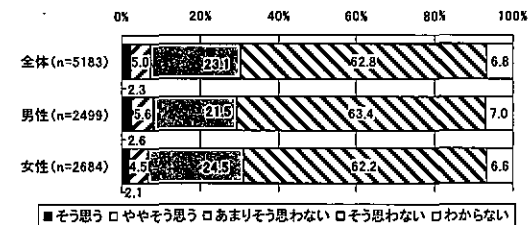
【薬の色、剤型（薬の型）、味、臭いなどが先発医薬品（新薬）と同じであれば使ってみたい】



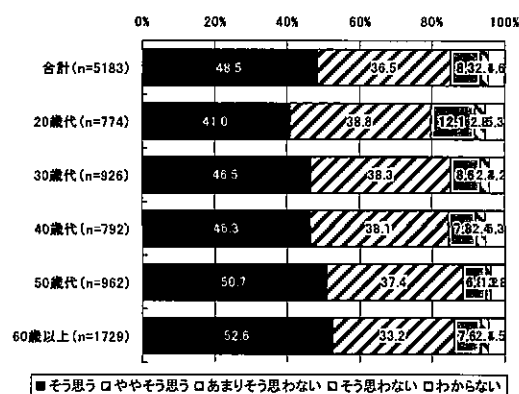
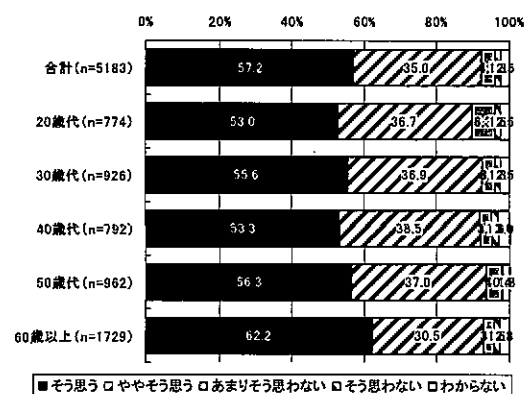
【ジェネリック医薬品の詳しい情報が簡単に入手できれば使ってみたい】



【どのような条件があってもジェネリック医薬品を使いたくない】

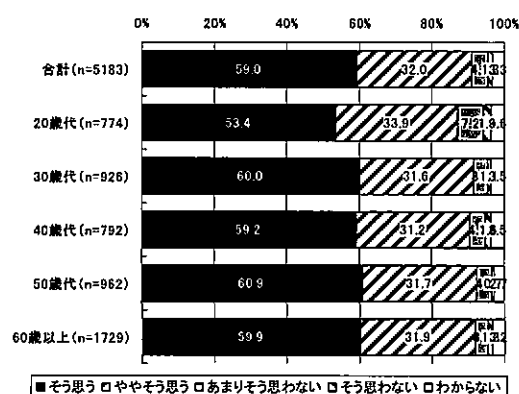
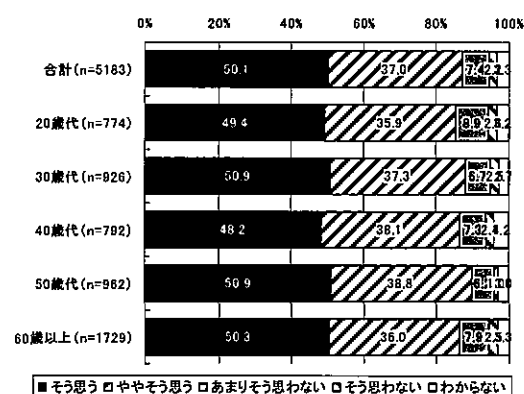


図表 3-43 ジェネリック医薬品の今後の使用意向（年齢別）
 【医師からのすすめと十分な説明があれば 使ってみたい】
 【医師がジェネリック医薬品処方の希望をきいてくれば使ってみたい】



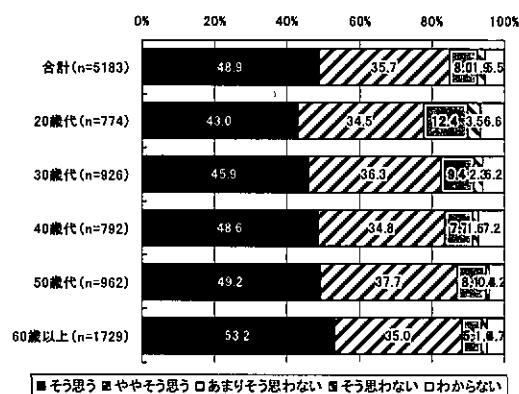
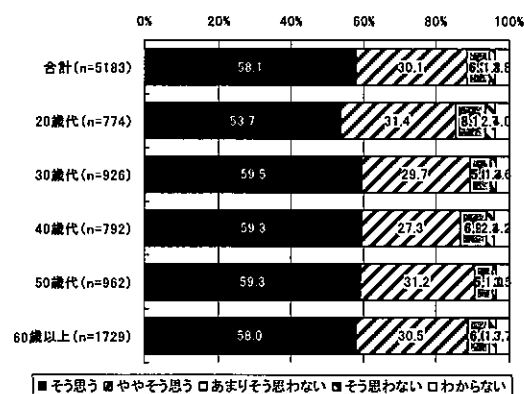
【薬剤師からのすすめと十分な説明があれば 使ってみたい】

【先発医薬品（新薬）と同じ効き目があれば 使ってみたい】

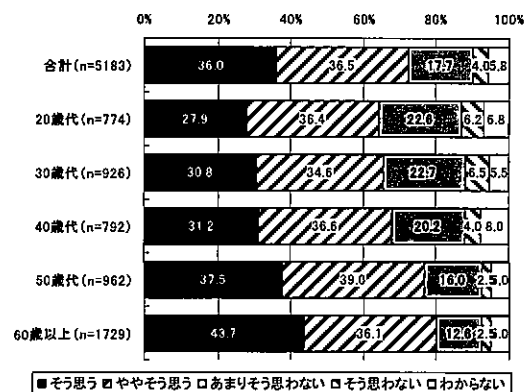


【先発医薬品（新薬）より価格が安ければ 使ってみたい】

【信頼できるジェネリック医薬品メーカーが製造していれば使ってみたい】

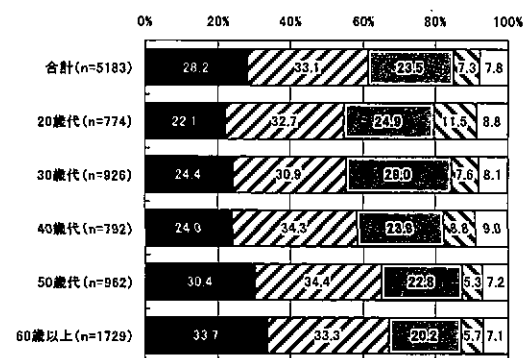


【大学病院や国立病院などの大きな病院で
使われていれば使ってみたい】



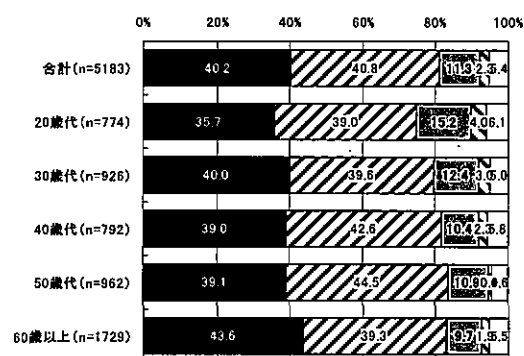
■ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない □ わからない

【薬の色、剤型（薬の型）、味、臭いなどが
先発医薬品（新薬）と同じであれば使っ
てみたい】



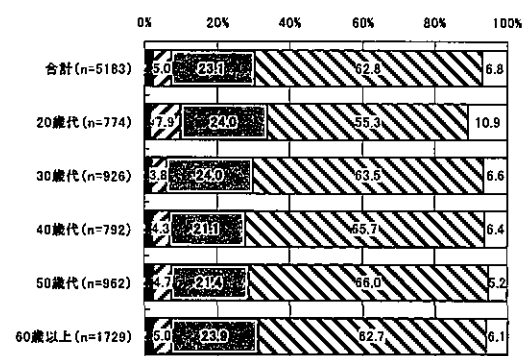
■ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない □ わからない

【ジェネリック医薬品の詳しい情報が簡単
に入手できれば使ってみたい】



■ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない □ わからない

【どのような条件があってもジェネリック
医薬品を使いたくない】

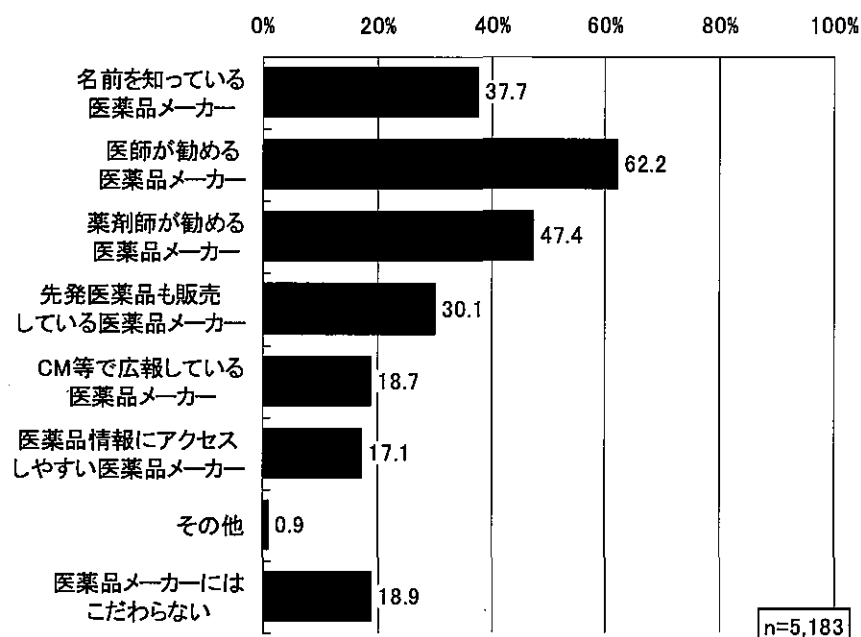


■ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない □ わからない

(15) ジェネリック医薬品を選ぶ際にメーカーに関して重視すること

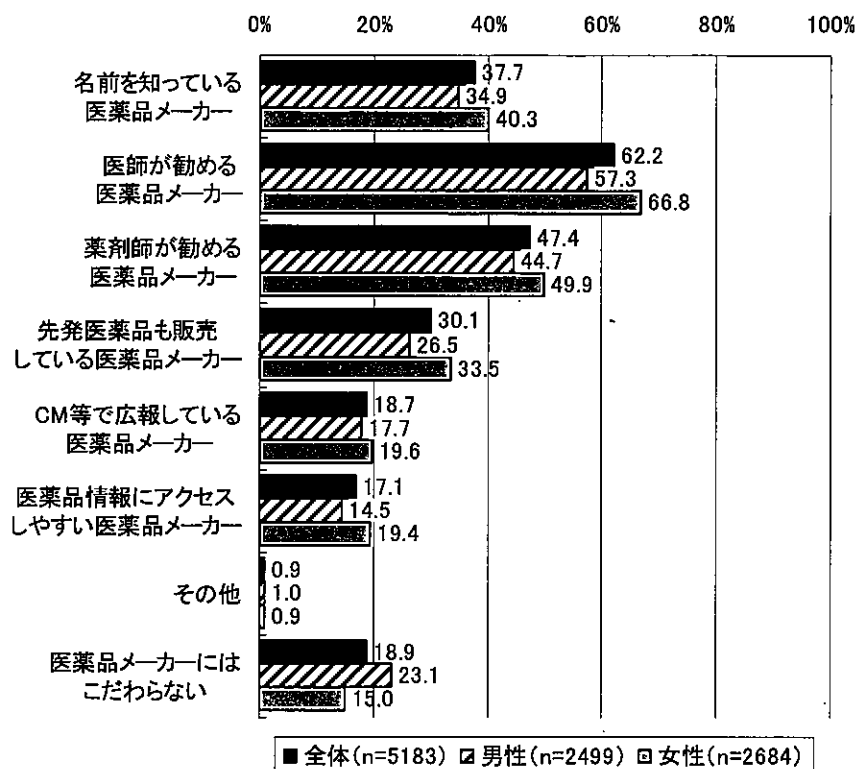
ジェネリック医薬品を選ぶ際に医薬品メーカーに関して重視することについてみると、「医師が勧める医薬品メーカー」(62.2%)が最も多く、次いで、「薬剤師が勧める医薬品メーカー」(47.4%)、「自分が名前を知っている医薬品メーカー」(37.7%)、「先発医薬品も販売している医薬品メーカー」(30.1%)の順となった。

図表 3-44 ジェネリック医薬品を選ぶ際にメーカーとして重視すること(複数回答)

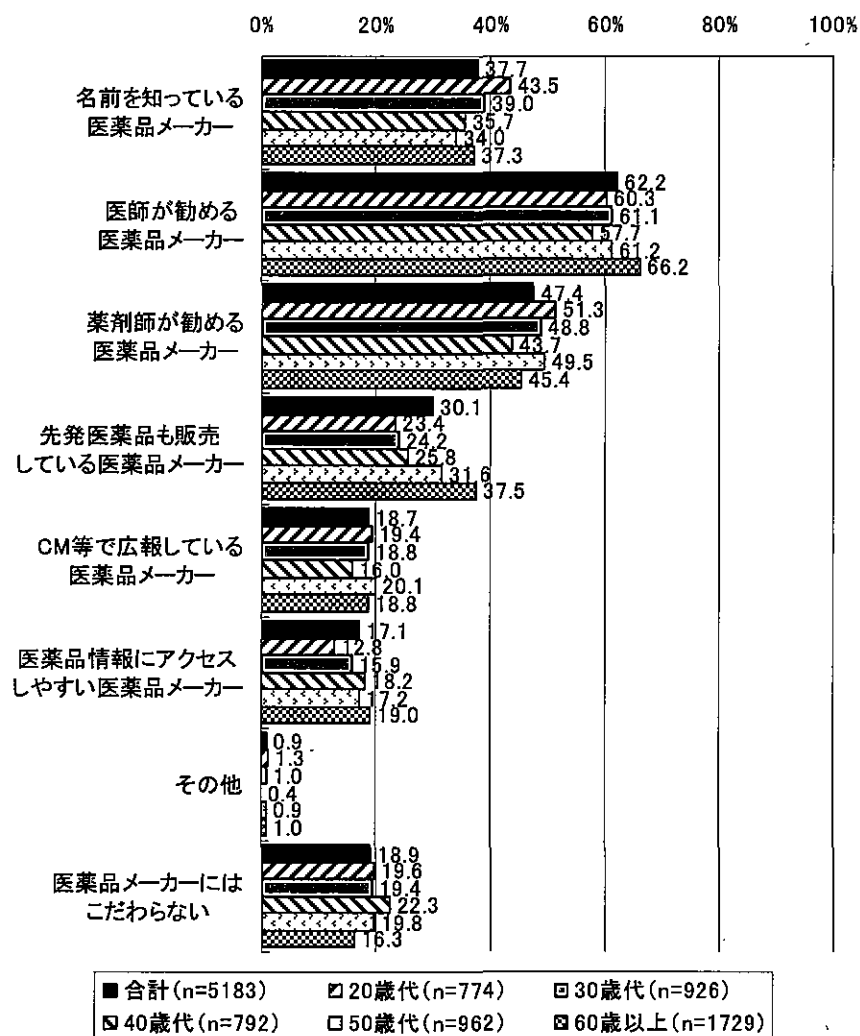


性別でみると、「医薬品メーカーにはこだわらない」で男性の回答が高く、その他の回答では女性の方が回答割合が高くなっている。

図表 3-45 ジェネリック医薬品を選ぶ際にメーカーとして重視すること（性別）



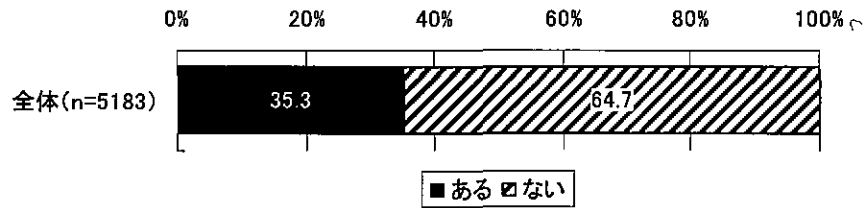
図表 3-46 ジェネリック医薬品を選ぶ際にメーカーとして重視すること（年齢別）



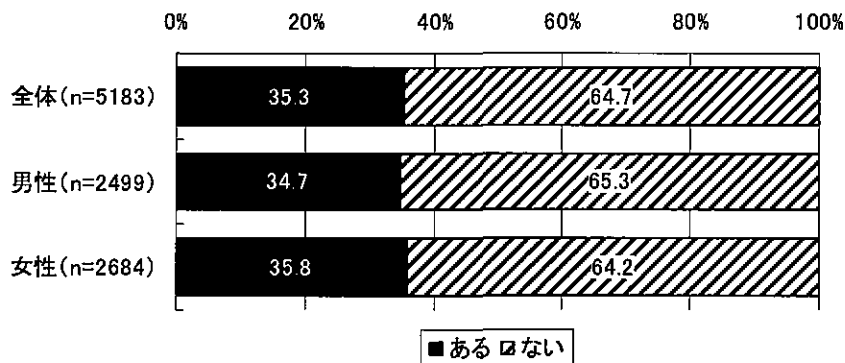
(16) 常用薬の有無

日常的に服用している薬（常用薬）について尋ねたところ、「（常用薬は）ある」が35.3%、「（常用薬は）ない」が64.7%となった。

図表 3-47 常用薬の有無

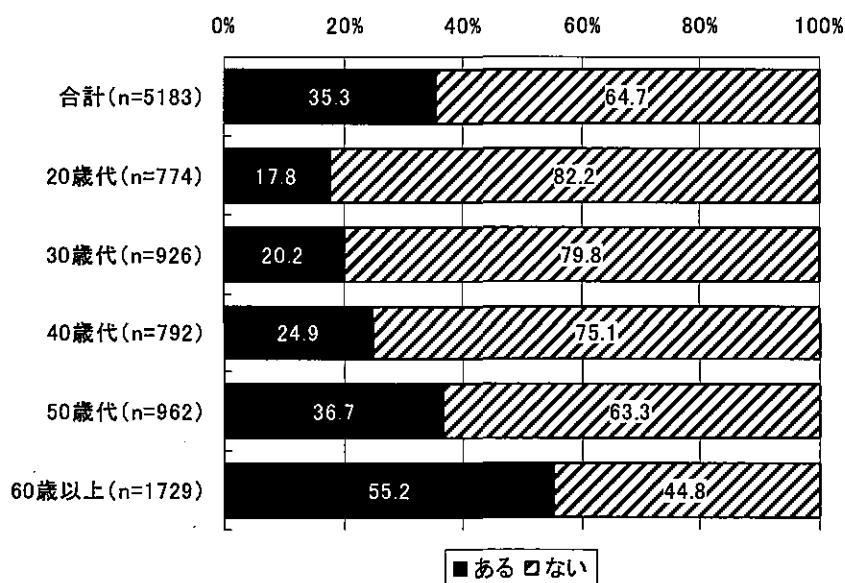


図表 3-48 常用薬の有無（性別）



年齢別にみると、年齢が上がるにつれ、「（常用薬は）ある」とする人が増えている。特に60歳以上では55.2%が「（常用薬は）ある」としている。

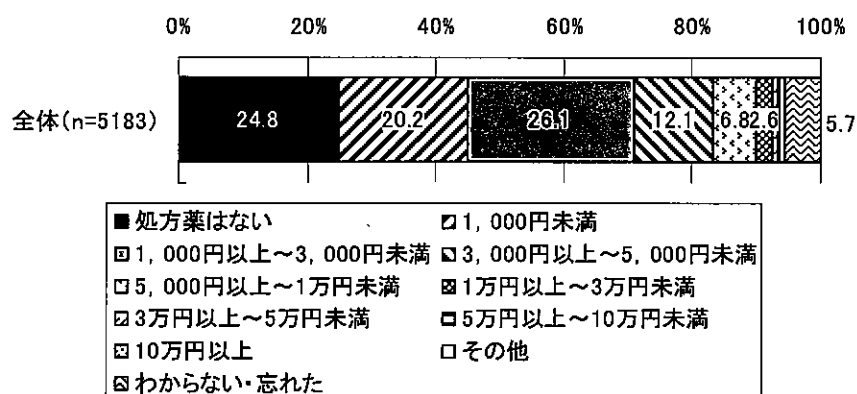
図表 3-49 常用薬の有無（年齢別）



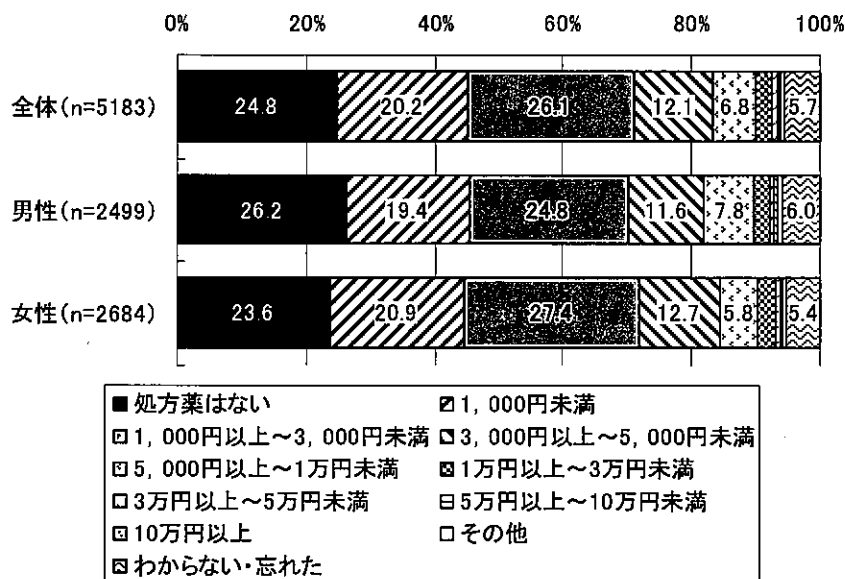
(17) 平成20年4月以降の平均1か月あたりのお薬代

平成20年4月以降の平均1か月あたりのお薬代について尋ねたところ、24.8%が「処方薬はない」との回答となった。処方薬がある人の平均1か月あたりのお薬代では、「1,000円以上～3,000円未満」(26.1%)が最も多く、次いで、「1,000円未満」(20.2%)の順となった。

図表 3-50 平成20年4月以降の平均1か月あたりのお薬代

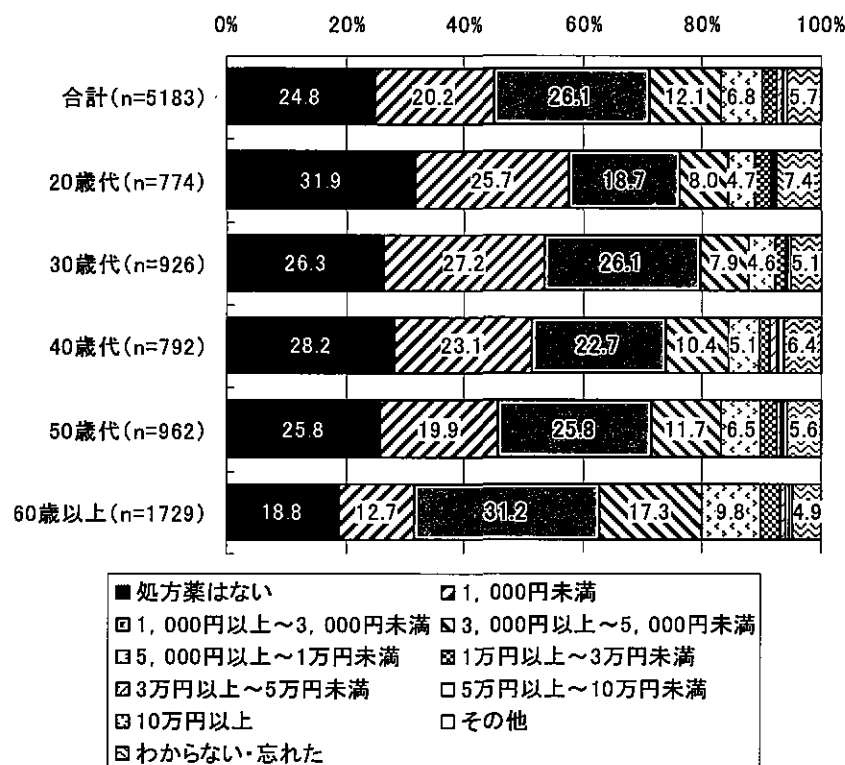


図表 3-51 平成20年4月以降の平均1か月あたりのお薬代(性別)



年齢別にみると、年齢が上がるにつれ平均1か月あたりのお薬代が高くなっている。

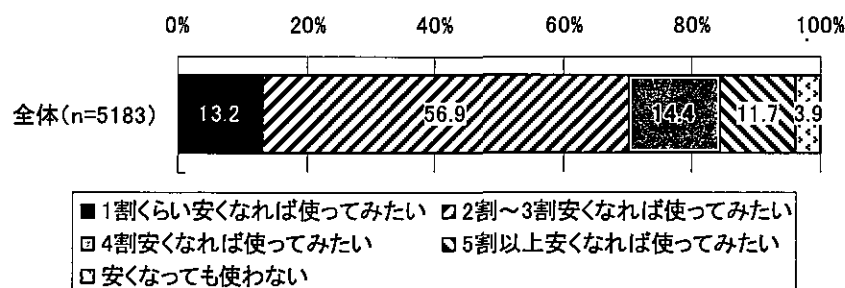
図表 3-52 平成20年4月以降の平均1か月あたりのお薬代（年齢別）



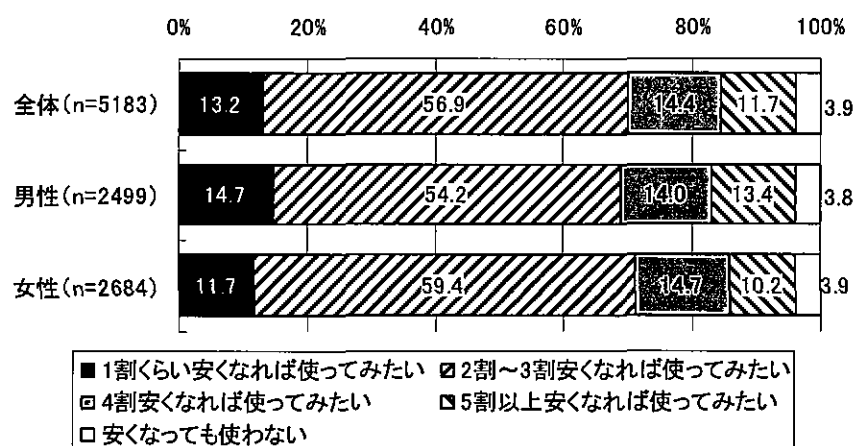
(18) どれだけ安くなればジェネリック医薬品を使用するか

先発医薬品（新薬）と比べ、どれだけお薬代が安くなればジェネリック医薬品を使用するかについて尋ねたところ、「2割～3割安くなれば使ってみたい」（56.9%）が最も多い回答となった。また、その他については、ほぼ同じ割合となった。

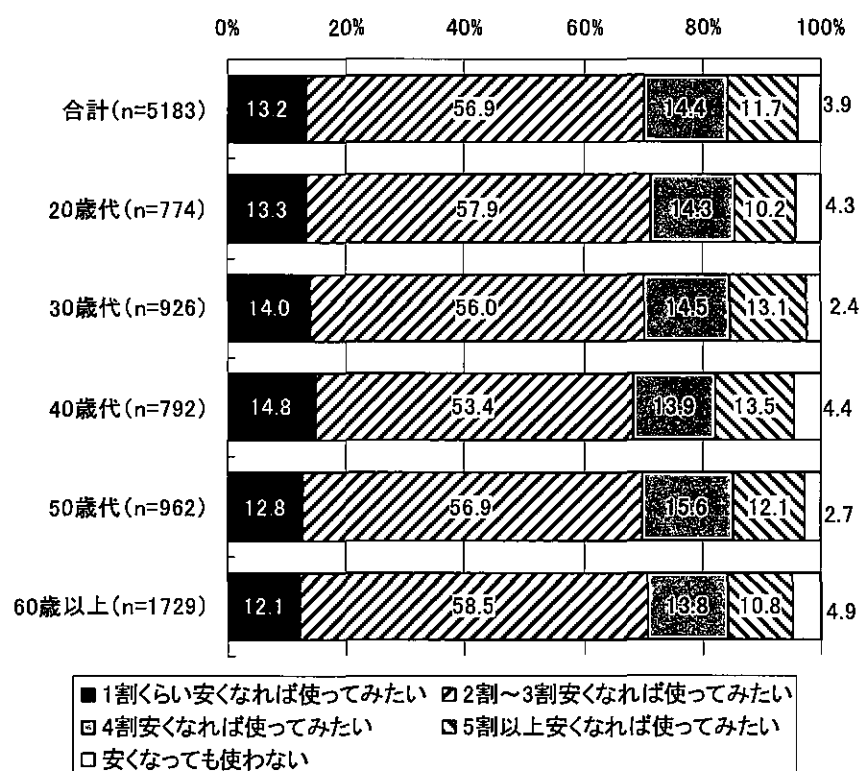
図表 3-53 どれだけ安くなればジェネリック医薬品を使用するか



図表 3-54 どれだけ安くなればジェネリック医薬品を使用するか（性別）



図表 3-55 どれだけ安くなればジェネリック医薬品を使用するか（年齢別）

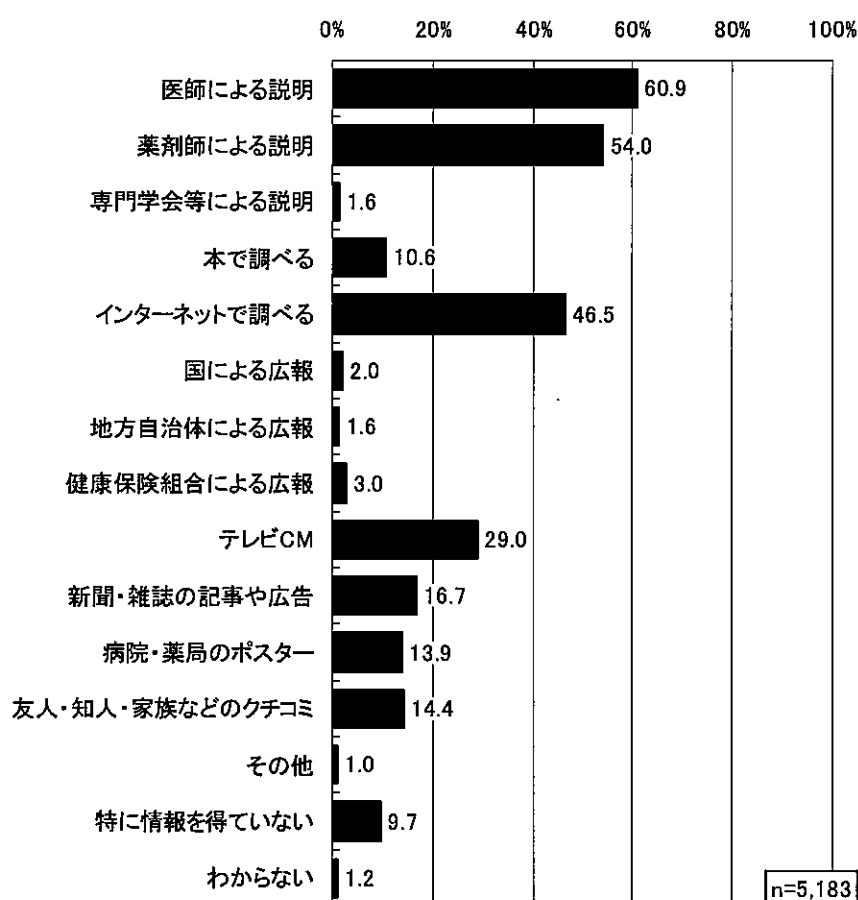


(19) 薬の情報の入手経路

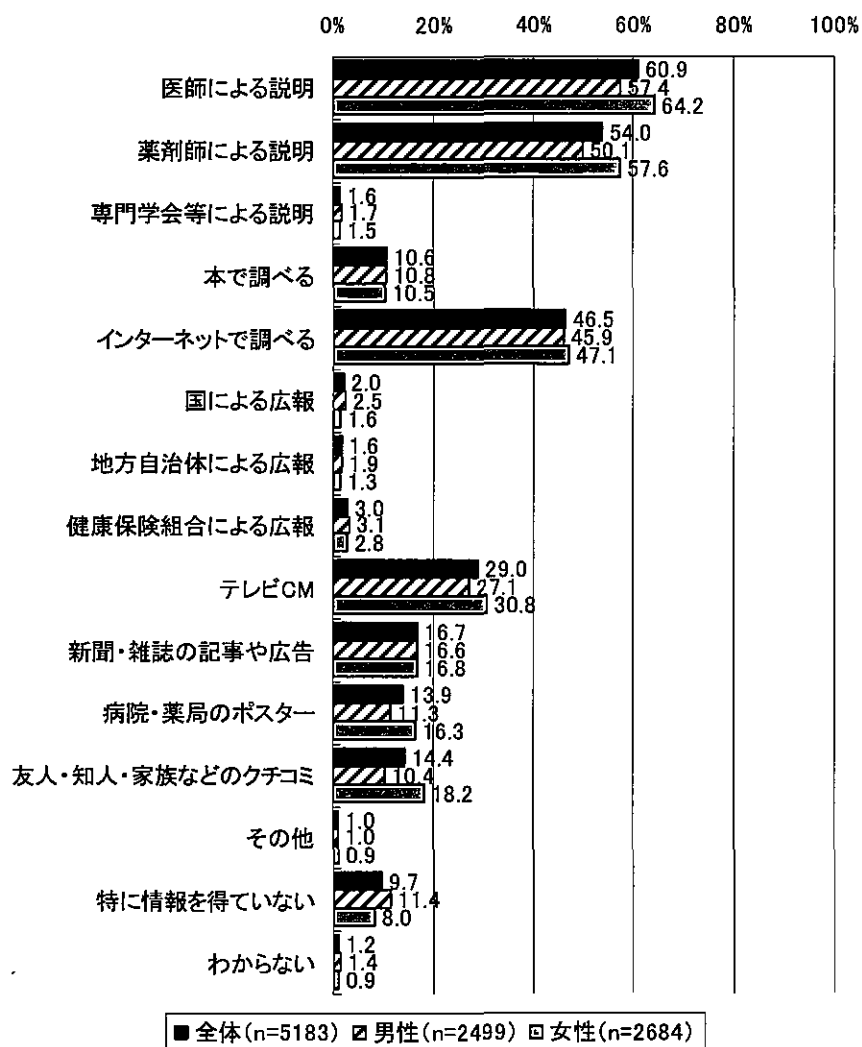
普段どのように薬の情報を得ているかについてみると、「医師による説明」(60.9%)が最も多く、次いで、「薬剤師による説明」(54.0%)、「インターネットで調べる」(46.5%)の順となった。

本調査はインターネットのアンケート会社が所有しているモニターを対象に行ったため、「インターネットで調べる」と回答した割合が比較的高くなっていると思われる。

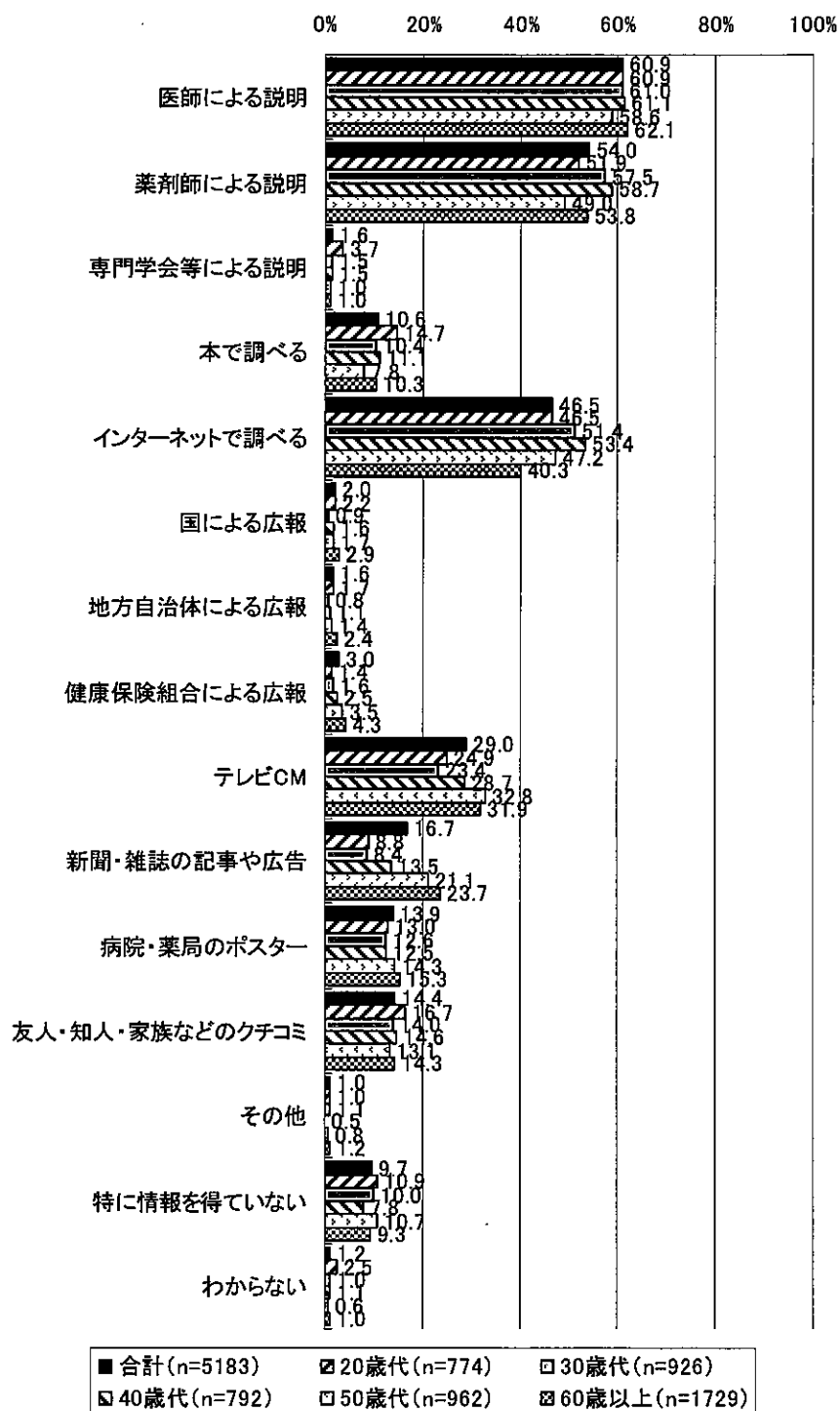
図表 3-56 薬の情報の入手経路 (複数回答)



図表 3-57 薬の情報の入手経路（性別、複数回答）



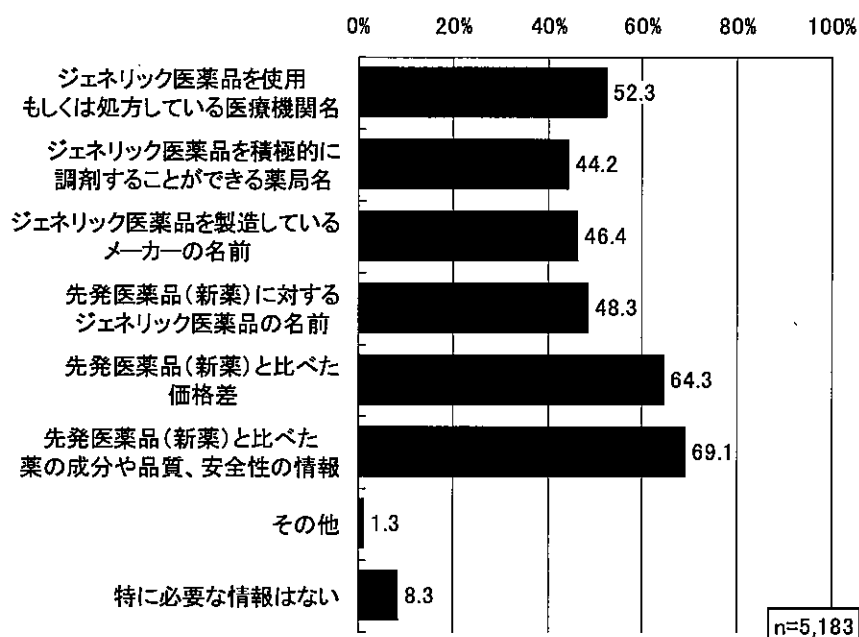
図表 3-58 薬の情報の入手経路（年齢別、複数回答）



(20) ジェネリック医薬品について必要な情報

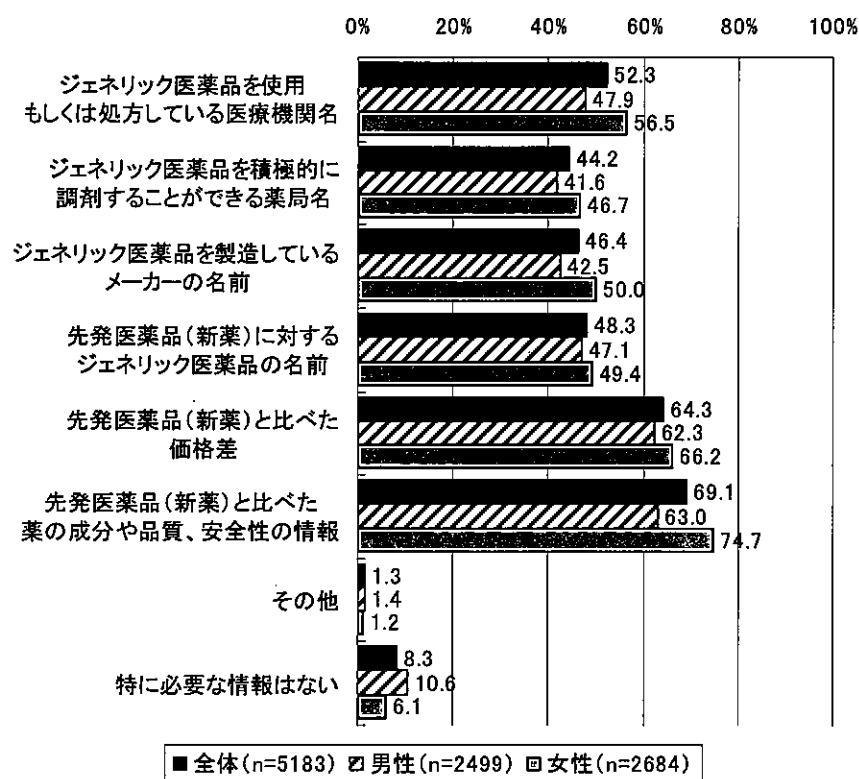
ジェネリック医薬品についてどのような情報が必要かについてみると、「先発医薬品（新薬）と比べた薬の成分や品質、安全性の情報」（69.1%）、「先発医薬品（新薬）と比べた価格差」（64.3%）、「ジェネリック医薬品を使用もしくは処方している医療機関名」（52.3%）の順となった。

図表 3-59 ジェネリック医薬品について必要な情報（複数回答）

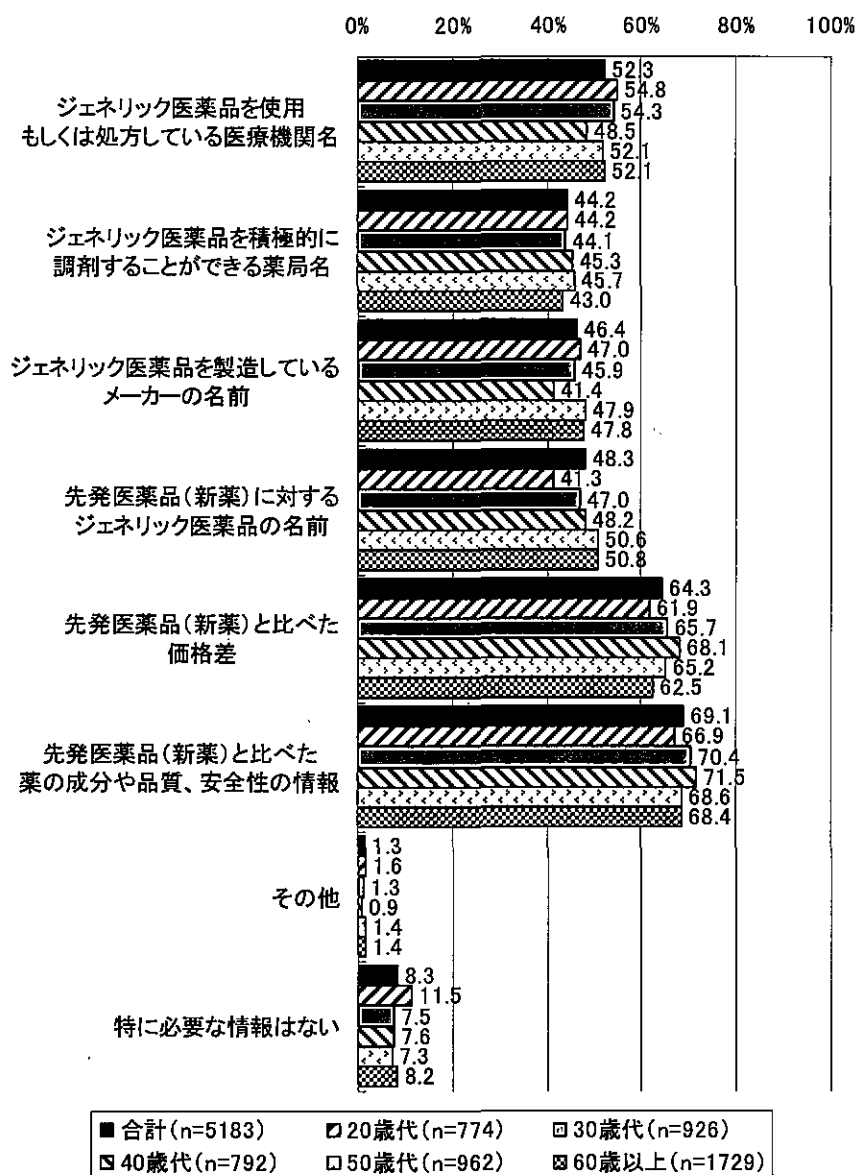


性別にみると、いずれの回答においても女性よりも男性の方が高くなっている。

図表 3-60 ジェネリック医薬品について必要な情報（性別、複数回答）



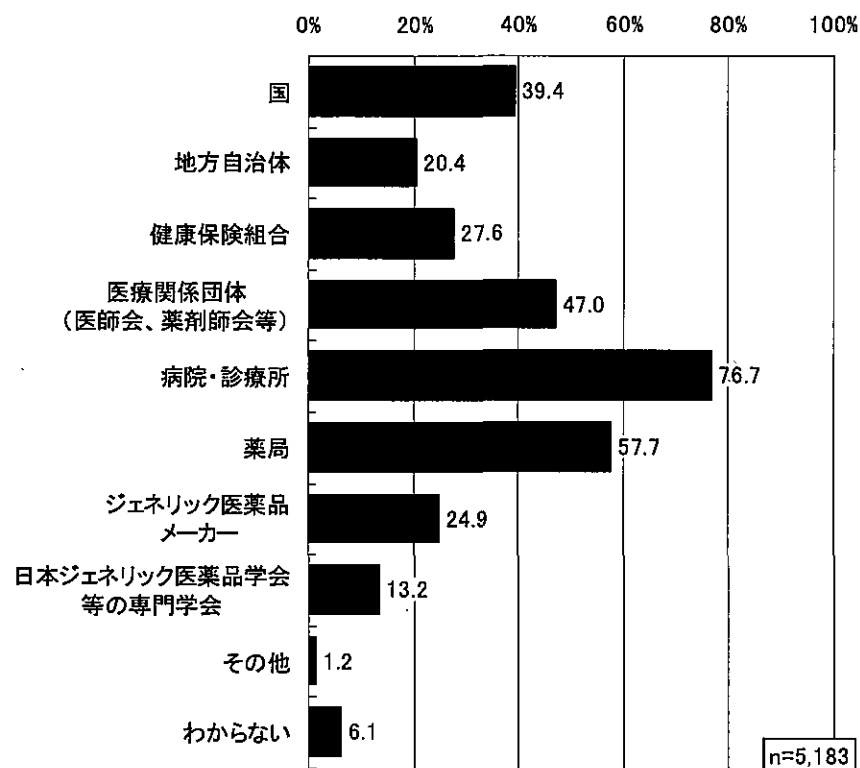
図表 3-61 ジェネリック医薬品について必要な情報（年齢別、複数回答）



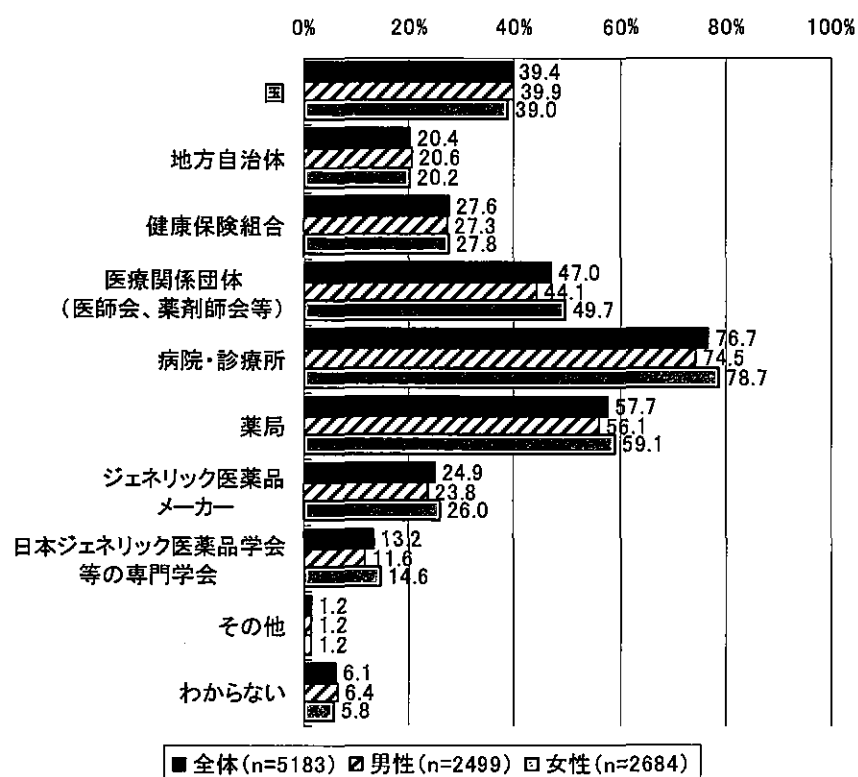
（２１）「どこから」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか

どこから受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるかについて尋ねたところ、「病院・診療所」（76.7%）が最も多く、次いで、「薬局」（57.7%）、「医療関係団体（医師会、薬剤師会等）」（47.0%）の順となった。

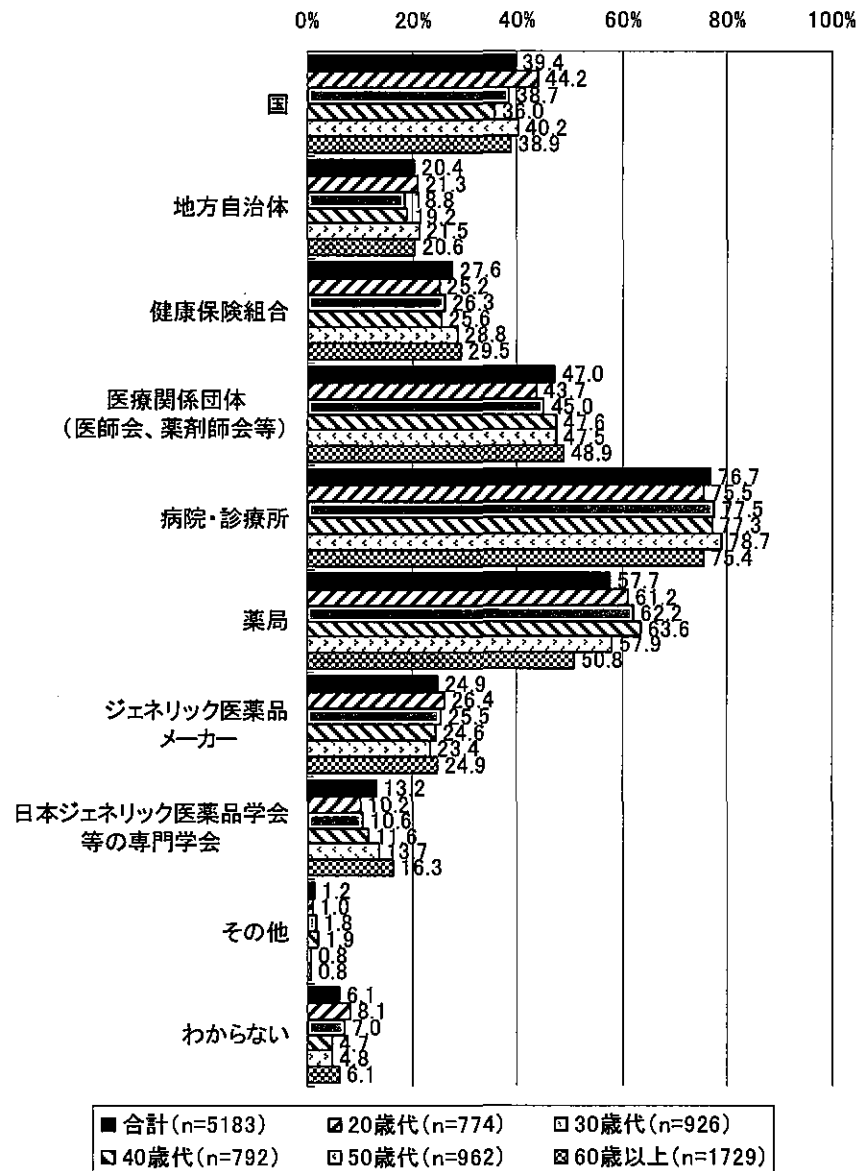
図表 ３－６２ 「どこから」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか（複数回答）



図表 3-63 「どこから」受ける情報がジェネリック医薬品の
使用促進につながるか（性別、複数回答）



図表 3-64 「どこから」受ける情報がジェネリック医薬品の
使用促進につながるか（年齢別、複数回答）



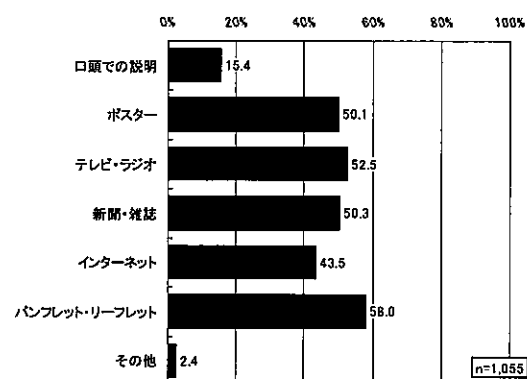
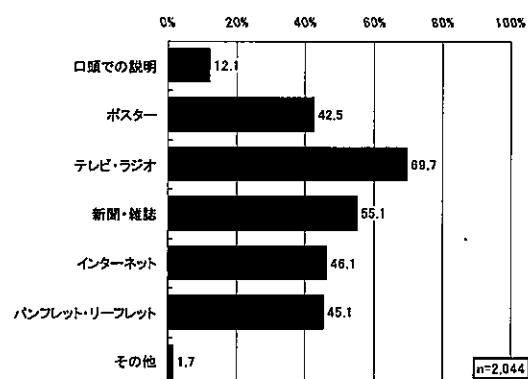
(22) 「どのように」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか

情報源ごとに「どのように」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるかについてみると、「病院・診療所」、「薬局」では「口頭での説明」が多くなっている。

図表 3-65 「どのように」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか

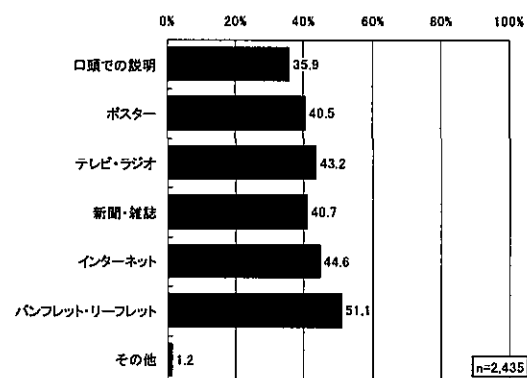
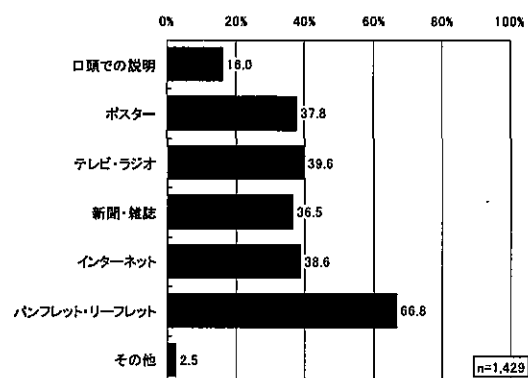
【国】

【地方自治体】



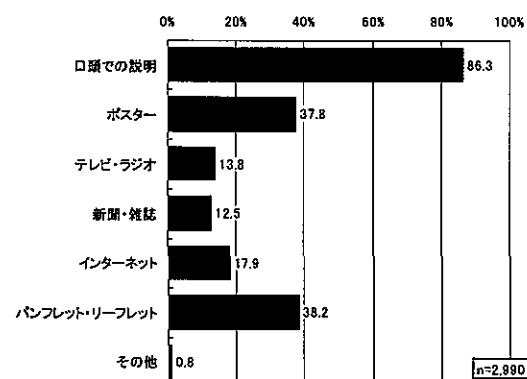
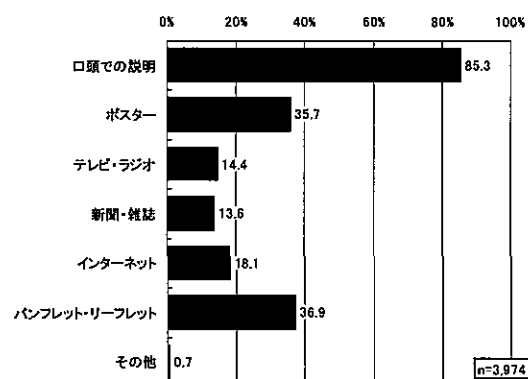
【健康保険組合】

【医療関係団体（医師会、薬剤師会等）】

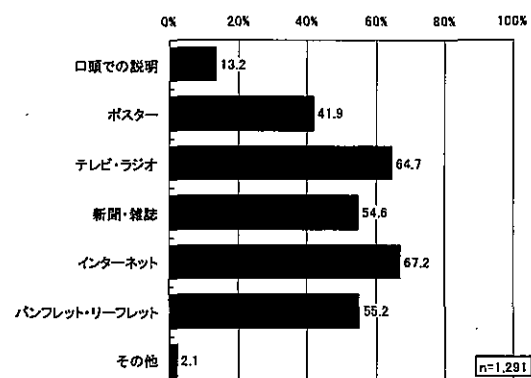


【病院・診療所】

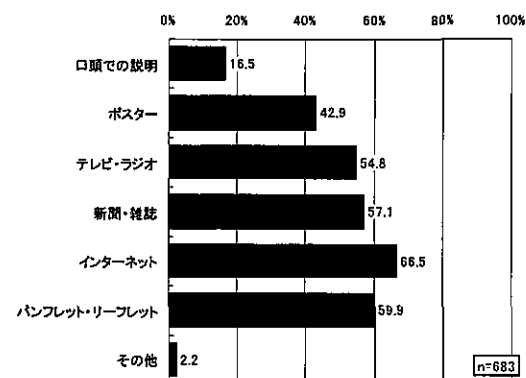
【薬局】



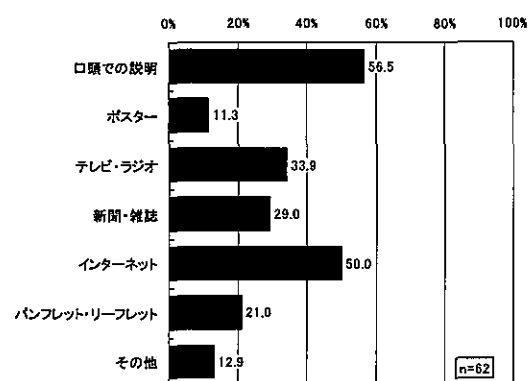
【ジェネリック医薬品メーカー】



【日本ジェネリック医薬品学会等の専門学会】

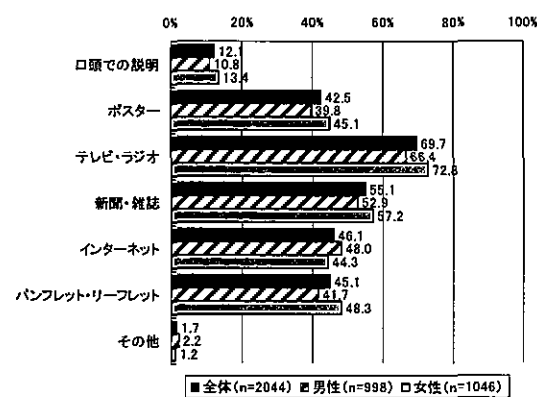


【その他】

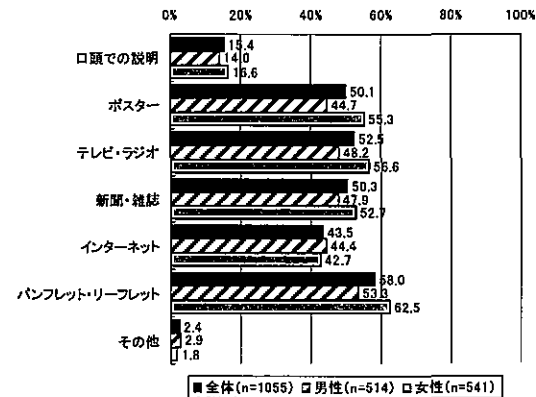


図表 3-66 「どのように」 受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか（性別）

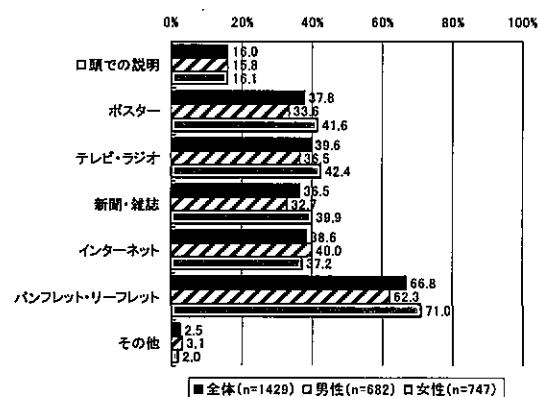
【国】



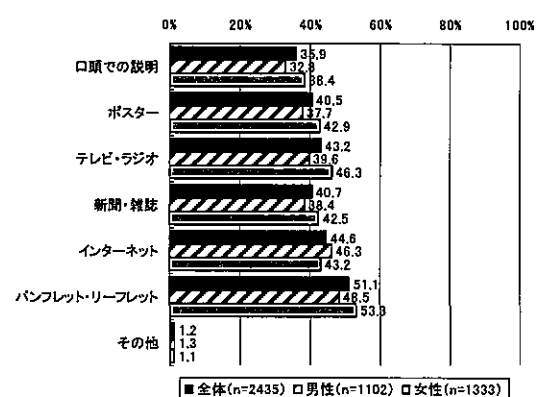
【地方自治体】



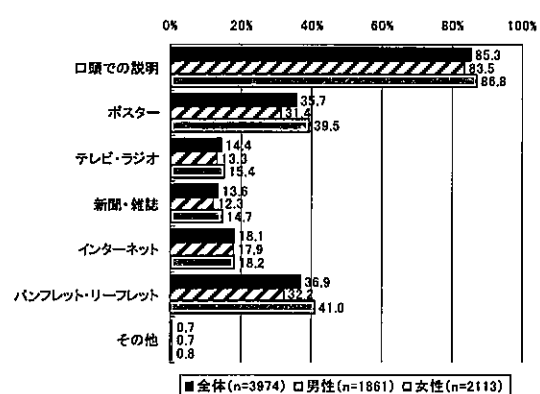
【健康保険組合】



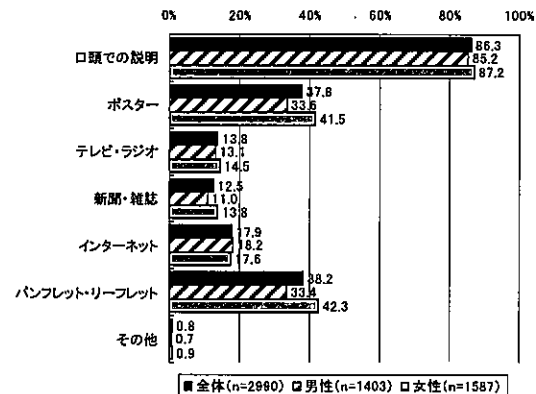
【医療関係団体（医師会、薬剤師会等）】



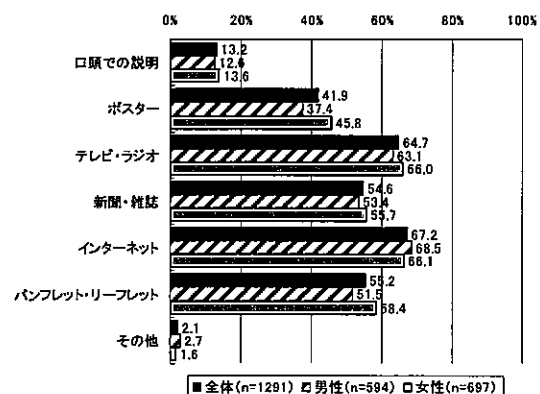
【病院・診療所】



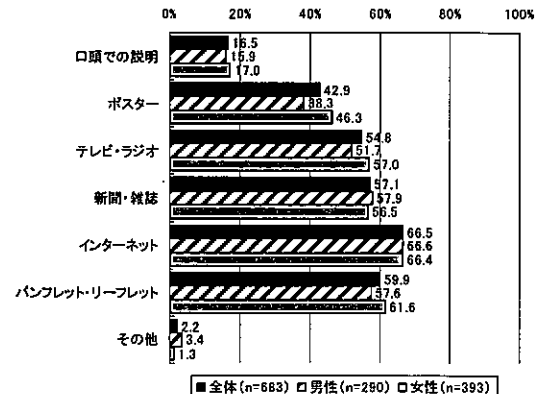
【薬局】



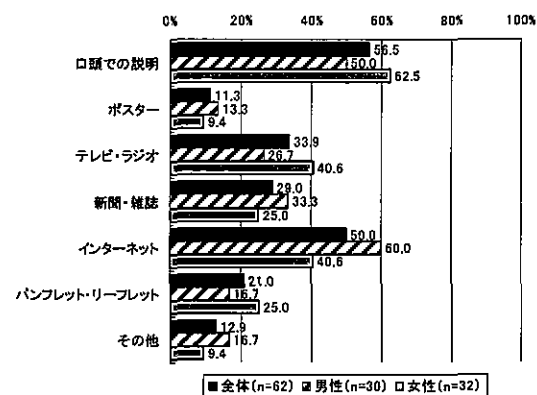
【ジェネリック医薬品メーカー】



【日本ジェネリック医薬品学会等の専門学会】

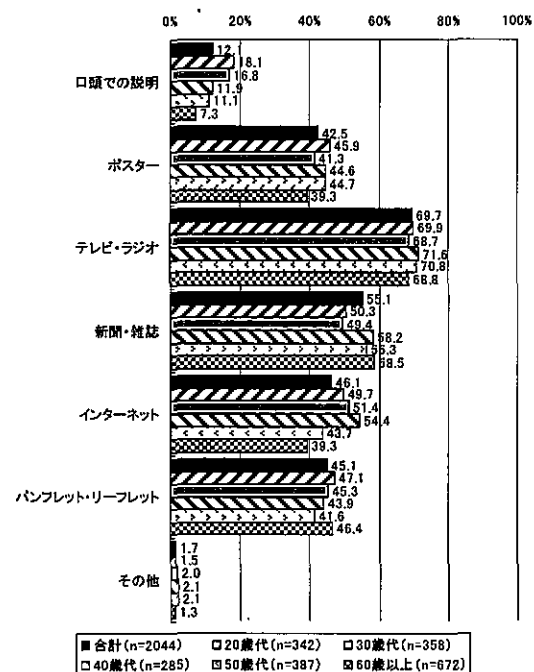


【その他】

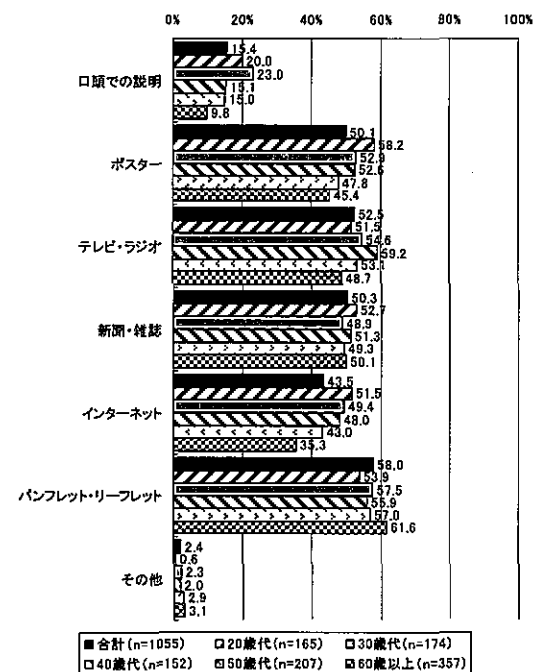


図表 3-67 「どのように」受ける情報がジェネリック医薬品の
使用促進につながるか（年齢別、複数回答）

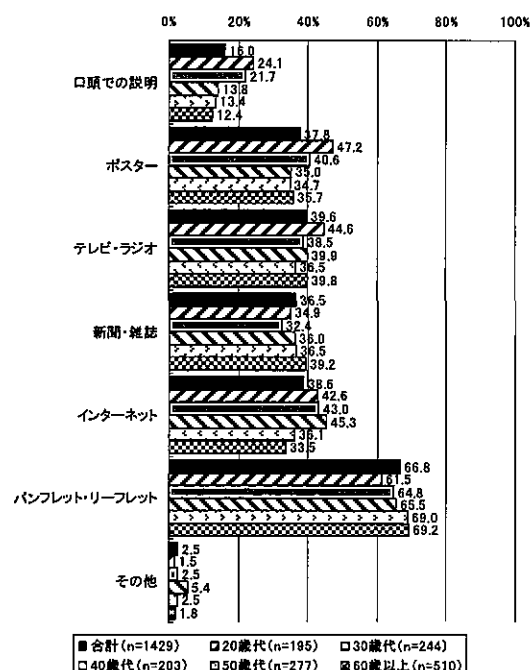
【国】



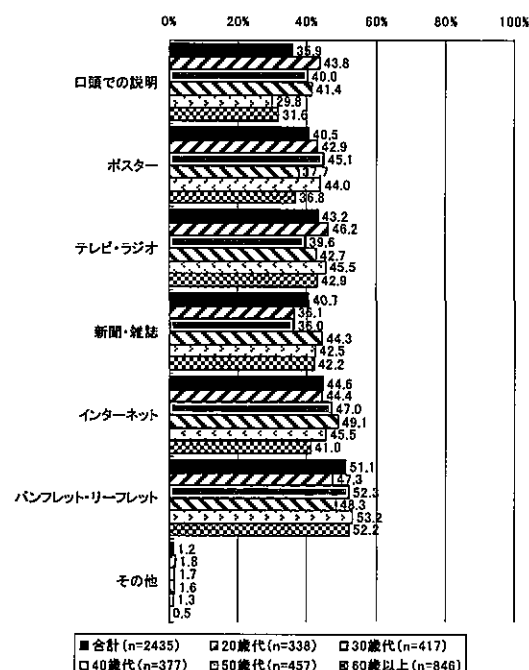
【地方自治体】



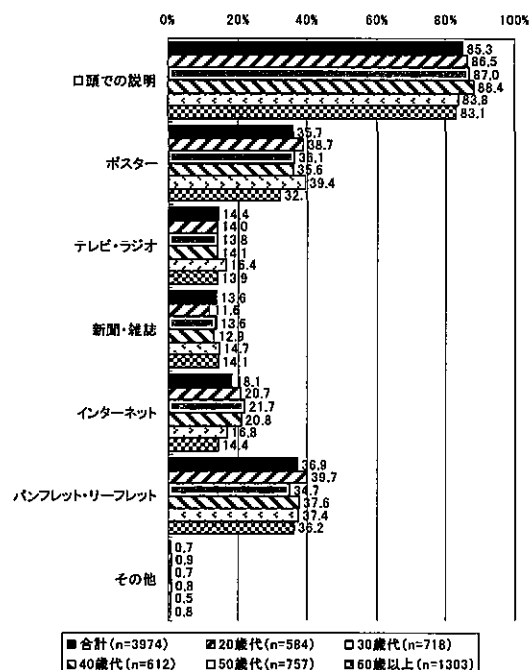
【健康保険組合】



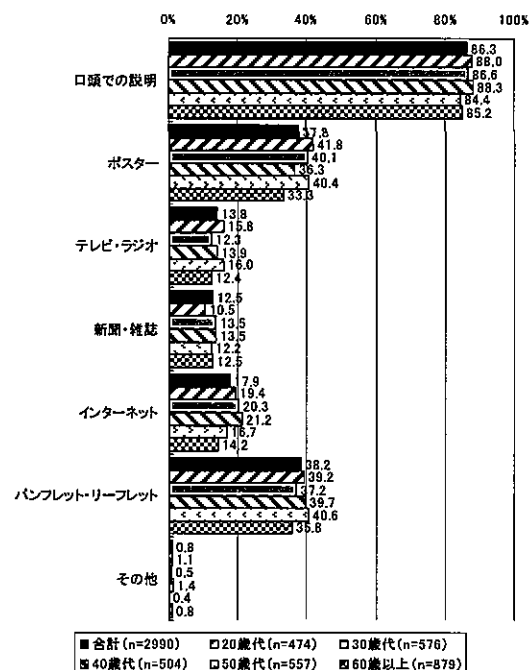
【医療関係団体（医師会、薬剤師会等）】



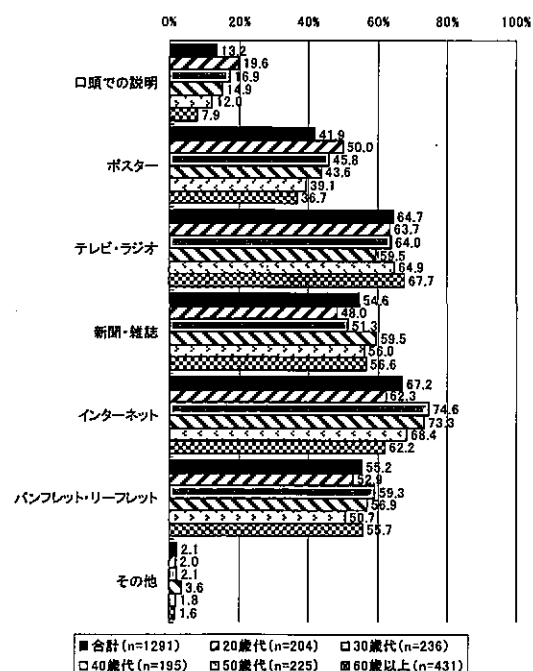
【病院・診療所】



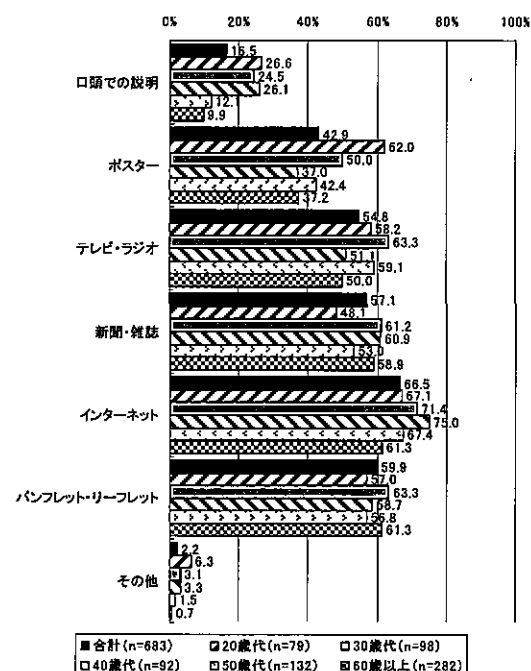
【薬局】



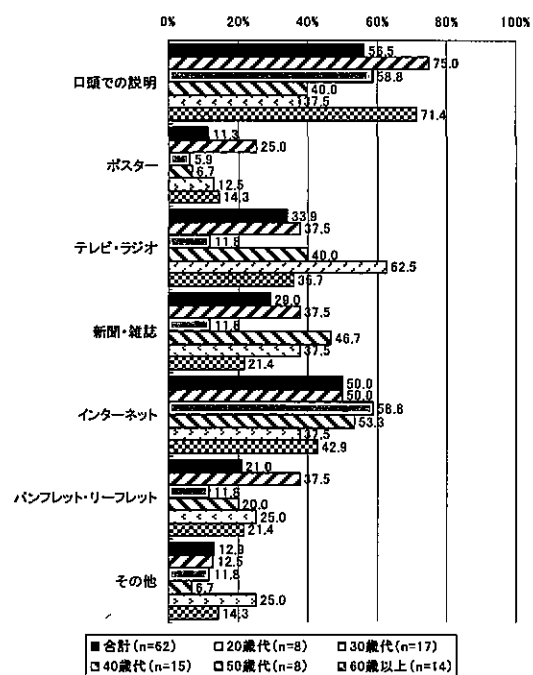
【ジェネリック医薬品メーカー】



【日本ジェネリック医薬品学会等の専門学会】



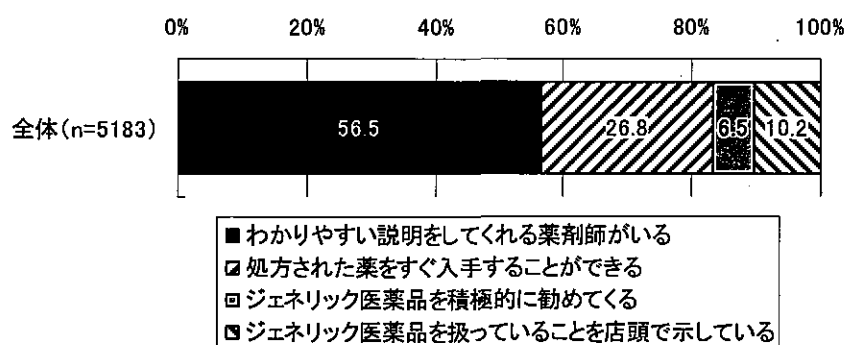
【その他】



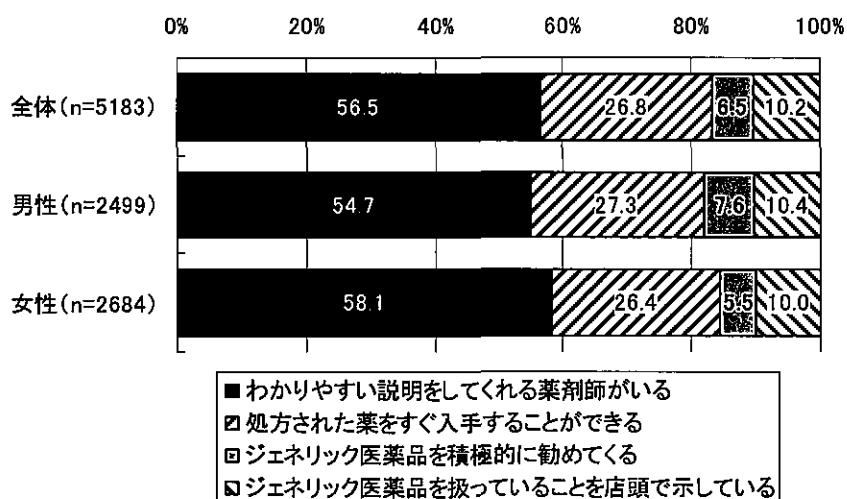
(23) 薬局を選ぶ際に重視する項目

物理的条件以外で薬局を選ぶ際に重視する項目についてみると、「薬について丁寧で、わかりやすい説明をしてくれる薬剤師がいる」(56.5%)、「処方された薬をすぐ入手することができる」(26.8%)の順となった。

図表 3-68 薬局を選ぶ際に重視する項目

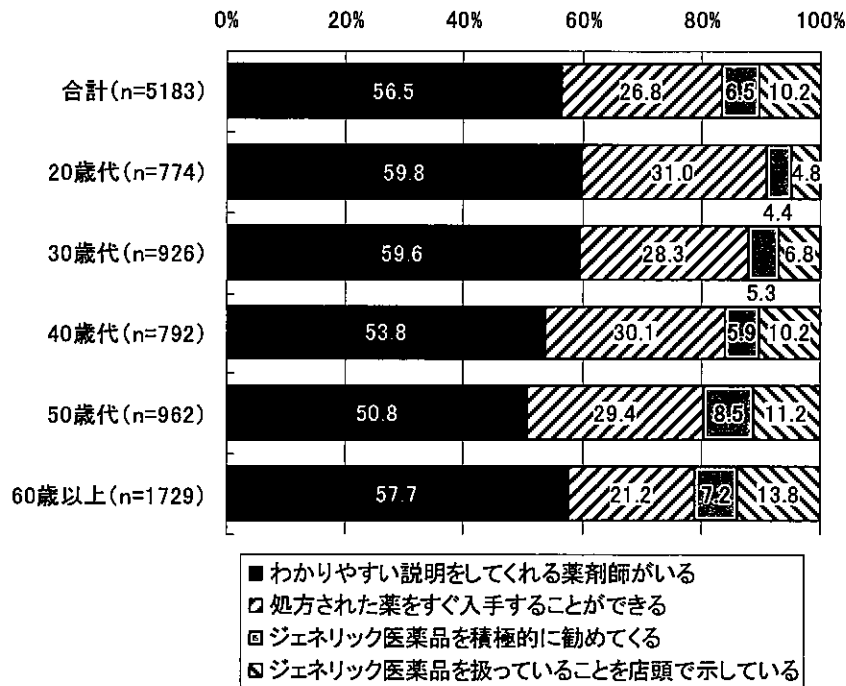


図表 3-69 薬局を選ぶ際に重視する項目 (性別)



年齢別にみると、「ジェネリック医薬品を積極的に勧めてくる」「ジェネリック医薬品を扱っていることを店頭で示している」については、年齢が上がるにつれ回答割合が高くなる傾向がみられた。

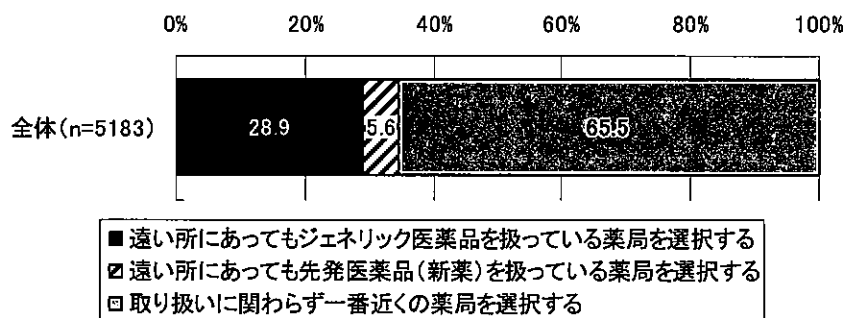
図表 3-70 薬局を選ぶ際に重視する項目（年齢別）



（24）医薬品の取り扱い状況による薬局の選択

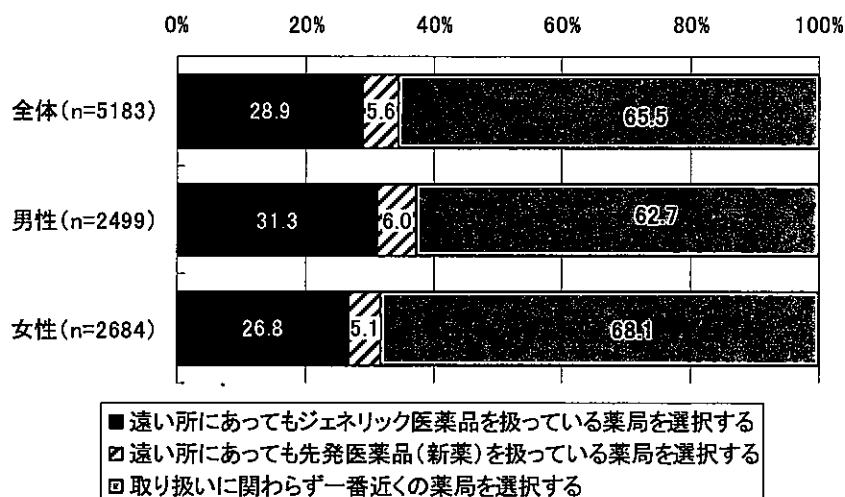
ジェネリック医薬品、先発医薬品（新薬）のいずれも選択できる場合、いずれの薬局を選択するかについて尋ねたところ、「ジェネリック医薬品、先発医薬品（新薬）の取り扱いに関わらず、一番近くの薬局を選択する」（65.5%）、「ジェネリック医薬品を積極的に扱っている薬局の方が遠い所にある場合でもジェネリック医薬品を扱っている薬局を選択する」（28.9%）の順となった。

図表 3-71 医薬品の取り扱い状況による薬局の選択



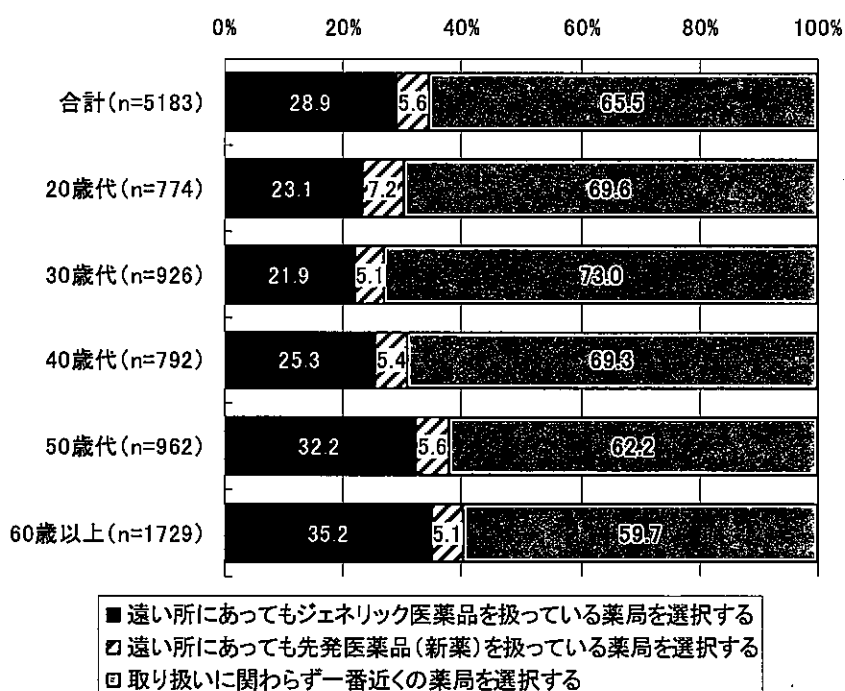
性別でみると、女性に比べ男性の方が「ジェネリック医薬品を積極的扱っている薬局の方が遠い所にあってもジェネリック医薬品を扱っている薬局を選択する」と回答した割合が高くなっている。

図表 3-72 医薬品の取り扱い状況による薬局の選択（性別）



年齢別にみると、年齢が上がるにつれ「ジェネリック医薬品を積極的扱っている薬局の方が遠い所にあってもジェネリック医薬品を扱っている薬局を選択する」と回答した割合が高くなっている。

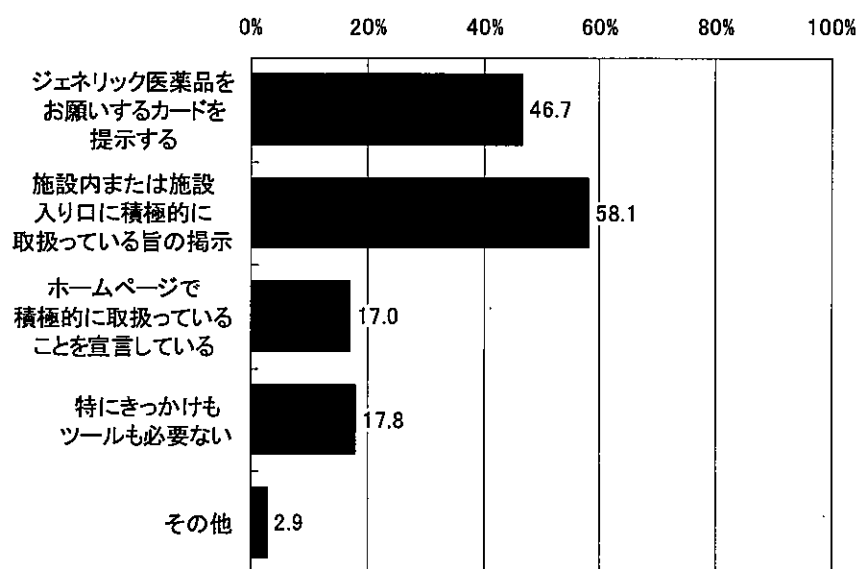
図表 3-73 医薬品の取り扱い状況による薬局の選択（年齢別）



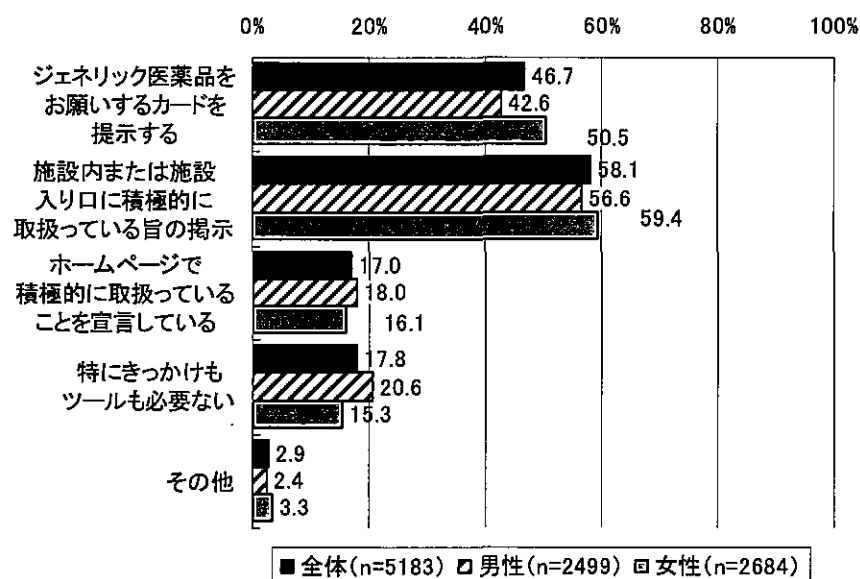
（２５）どのようなツールがあればジェネリック医薬品を依頼しやすいか

医療機関（病院や診療所など）や薬局で、どのようなきっかけがあればジェネリック医薬品を依頼しやすいかについて尋ねたところ、「施設内または施設入り口にジェネリック医薬品を積極的に取り扱っている旨の掲示または宣言がされている」（58.1%）が最も多く、次いで「ジェネリック医薬品をお願いするカードを提示する」（46.7%）の順となった。

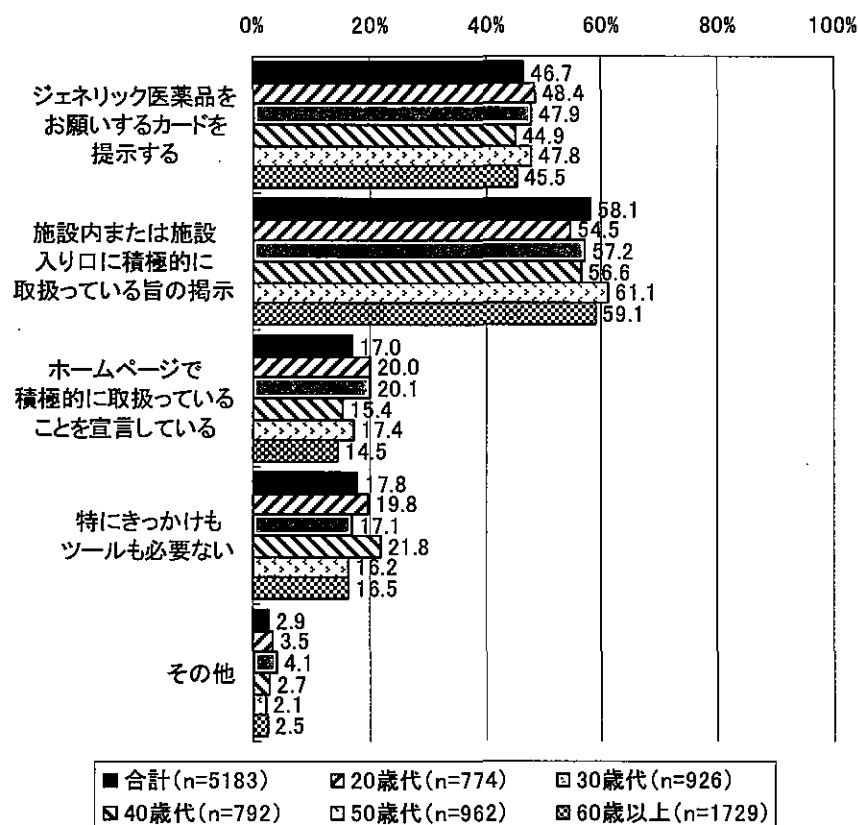
図表 ３－７４ どのようなツールがあればジェネリック医薬品を依頼しやすいか
（複数回答）



図表 3-75 どのようなツールがあればジェネリック医薬品を依頼しやすいか
(性別、複数回答)



図表 3-76 どのようなツールがあればジェネリック医薬品を依頼しやすいか
(年齢別、複数回答)



III. まとめ

本調査研究では、医療機関については文献で、一般国民についてはインターネットによるアンケート調査によって把握した。

医療機関における後発医薬品使用の現状について「社会医療診療行為別調査」をもとに分析した結果、後発医薬品明細書出現率、薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合ともに、病院よりも診療所の方が高くなっている。また、病院の施設類型別にみると特に特定機能病院でその割合が低くなっている。また、診療科別では、特に「耳鼻咽喉科」においてその割合が高くなっている。

また、日本ジェネリック製薬協会の調査では、平成 19 年度の後発医薬品のシェアは数量ベースで 17.2%となっており、政府目標である「平成 24 年度までに、後発品の数量シェアを 30%以上」に対しては、6 割程度となっている。

医療機関における後発医薬品使用に関する病院の施設としての対応は、個々の医師の判断に委ねるのではなく、施設として積極的に使用していこうという病院の割合もわずかながら増えていた。また、平成 20 年 4 月の処方せん様式の変更を受け、「後発医薬品への変更不可」欄に署名した理由を「品質が不安だから」「先発医薬品を長く使用し信頼しているから」「効果や副作用の違いを経験したから」となっている。

後発医薬品の処方に対しては、特にこだわりはなく、また、患者からの要望があっても後発医薬品は基本的に処方しないと考えている医師も減りつつある傾向が見られた。患者から要望があっても後発医薬品を処方しない理由としては、「品質への疑問」「効果への疑問」「情報提供の不備」が理由となっている。これは、後発医薬品を取り扱っている卸売業者の結果からも見ることができる。

一般国民への後発医薬品の認知は進んでいるが、実際に後発医薬品を処方されている人はまだ少ない。一方で、後発医薬品を使用した経験のある人ではその満足感が高く、今後も後発医薬品を使用したいと考えていることが明らかとなった。

平成 20 年 4 月の処方せん様式の変更により、処方せんの変更不可欄に処方医の署名等がない処方せんについては薬局で後発医薬品への変更が可能となっているが、薬局の処方せん窓口でジェネリック医薬品を勧められた経験がない人が多くなっている。しかし、後発医薬品の使用意向については、多くの人が後発医薬品を使ってみたいと考えている結果となった。今後後発医薬品を使用するに際して必要なことは「効果があること」「副作用の不安が少ないこと」「窓口で支払う薬代が安くなること」となっている。

後発医薬品の広報についてみると、求められている情報は、医療機関、一般国民ともに、「先発医薬品（新薬）と比べた薬の成分や品質、安全性の情報」となっている。現状の、「安くなる」、「（効果は）同等である」といった内容だけでなく、副作用も含めて広く安全性について周知することが必要である。広く周知するためには、医療機関、薬局での口頭による説明、メディアの利用などさまざまな方法を使えばよいが、一般国民が初めて後発医薬品を使用するきっかけは、医師・薬剤師の勧めが多く、自分から医師・

薬剤師に願い出る人はまだ少ない。一般国民が自ら後発医薬品を使用するためには、患者から、後発医薬品を希望することを医療機関や薬局に伝えることができるツールを用意することも有効と思われる。患者が後発医薬品使用の希望を伝えるツールとして、平成21年4月から「ジェネリック医薬品希望カード」を保険者などが配布を始めている。

これらの結果から、後発医薬品の安心使用を進めるためには、後発医薬品の使用を促進するためには、患者が後発医薬品を利用しやすくする環境を整えていくとともに、国や医療機関、保険薬局、製薬企業、卸売業者等関係者が、一般国民が抱いている後発医薬品の品質や副作用に対する不安感を払拭することが重要と考えられる。

參 考 資 料

1. アンケート票

Q1 あなたは【ジェネリック医薬品】を知っていますか。あてはまるものを1つお選びください。
【必須入力】

- ☐ 1. 知っている
☐ 2. 名前は聞いたことがある
☐ 3. 知らない

Q2 あなたは【ジェネリック医薬品】をどのように知りましたか。
知るきっかけとなったものすべてをお選びください。
【必須入力】

- ☐ 1. 医師による説明
☐ 2. 薬剤師による説明
☐ 3. 専門学会等による説明
☐ 4. 本で調べた
☐ 5. インターネットで調べた
☐ 6. 国による広報
☐ 7. 地方自治体による広報
☐ 8. 健康保険組合による広報
☐ 9. テレビCM
☐ 10. 新聞・雑誌の記事や広告
☐ 11. 病院・薬局のポスター
☐ 12. 友人・知人・家族などのクチコミ
☐ 13. その他(具体的に)

Q3 引き続きお伺いします。前問でお答えの、その「知るきっかけとなったもの」は、あなたにとって役に立ちましたか。
それぞれあてはまるものを1つお選びください。
【必須入力】

	1 役に立った	2 どちらともいえない	3 役に立たなかった
1. 医師による説明 →	☐	☐	☐
2. 薬剤師による説明 →	☐	☐	☐
3. 専門学会等による説明 →	☐	☐	☐
4. 本で調べた →	☐	☐	☐
5. インターネットで調べた →	☐	☐	☐
6. 国による広報 →	☐	☐	☐
7. 地方自治体による広報 →	☐	☐	☐
8. 健康保険組合による広報 →	☐	☐	☐
9. テレビCM →	☐	☐	☐
10. 新聞・雑誌の記事や広告 →	☐	☐	☐
11. 病院・薬局のポスター →	☐	☐	☐
12. 友人・知人・家族などのクチコミ →	☐	☐	☐
13. 【Q2_13FAの選択内容】 →	☐	☐	☐

【後発医薬品(ジェネリック医薬品)】とは

【先発医薬品(新薬)】の特許が切れた後に発売される医薬品で、【先発医薬品(新薬)】と同等であること(例えば、品質、安定性、服用後の血中濃度の推移など)を厚生労働省が認めたものですが、【先発医薬品(新薬)】と比べて価格が安くなっています。

Q4 あなたは薬局の処方せんの窓口で「【ジェネリック医薬品】を試してみませんか」と勧められたことがありますか。あてはまるものを1つお選びください。
【必須入力】

- ☐ 1. 勧められたことがある
- ☐ 2. 勧められたことはない
- ☐ 3. わからない/忘れた

Q5 あなたが病院や診療所などの医療機関から受け取る処方せんには「後発医薬品への変更不可」の欄があります。ここに医師のサインがなければ、薬局で【先発医薬品(新薬)】から【ジェネリック医薬品】に変更できることを知っていましたか。あてはまるものを1つお選びください。
【必須入力】

- ☐ 1. 知っていた
- ☐ 2. 知らなかった
- ☐ 3. わからない/忘れた

Q6 あなたは【ジェネリック医薬品】を使用したことがありますか。あてはまるものを1つお選びください。
【必須入力】

- ☐ 1. 使用したことがある
- ☐ 2. 使用したことがない
- ☐ 3. わからない/忘れた

Q7 あなたが初めて【ジェネリック医薬品】を使用したときのきっかけはなんですか。最もあてはまるものを1つをお選びください。
【必須入力】

- ☐ 1. 医師の処方
- ☐ 2. 薬剤師のすすめ
- ☐ 3. 自分から医師に願いでた
- ☐ 4. 自分から薬剤師に願いでた
- ☐ 5. その他(具体的に)
- ☐ 6. わからない/忘れた

Q8 あなたが今までに使用した【先発医薬品(新薬)】と比較して【ジェネリック医薬品】の効き目はどうでしたか。
あてはまるもの1つお選びください。

【必須入力】

- ☐ 1. 満足している
- ☐ 2. どちらかという満足している
- ☐ 3. どちらかという不満である
- ☐ 4. 不満である
- ☐ 5. 薬によって違う
- ☐ 6. どちらともいえない
- ☐ 7. その他(具体的に)
- ☐ 8. わからない・忘れた

Q9 あなたが【ジェネリック医薬品】を処方してもらった際に、薬局や医療機関の窓口で支払ったお薬代はどうでしたか。
あてはまるもの1つお選びください。

【必須入力】

- ☐ 1. とても安くなった
- ☐ 2. 安くなった
- ☐ 3. それほど変わらなかった
- ☐ 4. その他(具体的に)
- ☐ 5. わからない・忘れた

Q10 この1年間で、【ジェネリック医薬品】を使用したものの、
【先発医薬品(新薬)】にもどした経験はありますか。

【必須入力】

- ☐ 1. ある
- ☐ 2. ない
- ☐ 3. わからない・忘れた

Q11 【ジェネリック医薬品】の使用をやめた理由はなんですか。
あてはまるものすべてお選びください。

【必須入力】

- ☐ 1. 効き目がなかったから
- ☐ 2. 使用感(飲みやすさ等)がよくなかったから
- ☐ 3. 副作用が出たから
- ☐ 4. 薬代が思ったよりも安くならなかったから
- ☐ 5. 薬局でジェネリック医薬品がすぐに入手できなかったから
- ☐ 6. ジェネリック医薬品の正確な情報がなく、不安になったから
- ☐ 7. 医師からの処方がジェネリック医薬品のない薬に変更になったから
- ☐ 8. 医師の判断で先発医薬品(新薬)に戻されたから
- ☐ 9. 医師にジェネリック医薬品に変更したことを伝えるのが面倒だったから
- ☐ 10. その他(具体的に)
- ☐ 11. 特になし

Q12 あなたは【ジェネリック医薬品】にどのようなイメージを持っていますか。
それぞれあてはまるもの1つをお選びください。
【必須入力】

	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	5 わからない
1. 一般に広く使用されている	☐	☐	☐	☐	☐
2. 先発医薬品(新薬)とほぼ同じ成分の薬である	☐	☐	☐	☐	☐
3. 先発医薬品(新薬)とほぼ同じ効き目がある	☐	☐	☐	☐	☐
4. 先発医薬品(新薬)よりも価格が安い	☐	☐	☐	☐	☐
5. 薬の色、剤型(薬の型)、味、臭いなども先発品と同じである	☐	☐	☐	☐	☐
6. 医師に相談して先発医薬品(新薬)からジェネリック医薬品へ変更することができる	☐	☐	☐	☐	☐
7. 処方せん(「すべて変更不可」と記載がない場合、薬局で先発医薬品(新薬)からジェネリック医薬品へ変更することができる	☐	☐	☐	☐	☐

Q13 あなたは今後、積極的に【ジェネリック医薬品】を使ってみたいと思いますか。
あてはまるものを1つお選びください。
【必須入力】

- ☐ 1. 積極的に使ってみたい
☐ 2. できれば使ってみたい
☐ 3. あまり使いたくない
☐ 4. 絶対に使いたくない
☐ 5. わからない

Q14 あなたは次の1)～10)のようなそれぞれの条件の場合、【ジェネリック医薬品】を使ってみたいと思いますか。
それぞれあてはまるもの1つをお選びください。
【必須入力】

	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	5 わからない
1. 医師からのすすめと十分な説明があれば使ってみたい	☐	☐	☐	☐	☐
2. 医師がジェネリック医薬品処方希望をきいてくれれば使ってみたい	☐	☐	☐	☐	☐
3. 薬剤師からのすすめと十分な説明があれば使ってみたい	☐	☐	☐	☐	☐
4. 先発医薬品(新薬)と同じの効き目があれば使ってみたい	☐	☐	☐	☐	☐
5. 先発医薬品(新薬)より価格が安ければ使ってみたい	☐	☐	☐	☐	☐
6. 信頼できるジェネリック医薬品メーカーが製造していれば使ってみたい	☐	☐	☐	☐	☐
7. 大学病院や国立病院などの大きな病院で使われていれば使ってみたい	☐	☐	☐	☐	☐
8. 薬の色、剤型(薬の型)、味、臭いなどが先発医薬品(新薬)と同じであれば使ってみたい	☐	☐	☐	☐	☐
9. ジェネリック医薬品の詳しい情報が簡単に入手できれば使ってみたい	☐	☐	☐	☐	☐
10. どのような条件があってもジェネリック医薬品を使いたくない	☐	☐	☐	☐	☐

Q15 あなたが、【ジェネリック医薬品】を選ぶ際に、【ジェネリック医薬品】を製造している医薬品メーカーについてどの点を重視しますか。
重視する項目を全てお選びください。(複数回答可)

【必須入力】

- ☐ 1. 自分が名前を知っている医薬品メーカー
- ☐ 2. 医師が勧める医薬品メーカー
- ☐ 3. 薬剤師が勧める医薬品メーカー
- ☐ 4. 先発医薬品も販売している医薬品メーカー
- ☐ 5. CM等で広報している医薬品メーカー
- ☐ 6. 医薬品情報にアクセスしやすい医薬品メーカー
- ☐ 7. その他
- ☐ 8. 医薬品メーカーにはこだわらない

Q16 あなたには、医師から処方されて、日常的に飲んでいる薬(常用薬)はありますか。
※【先発医薬品(新薬)】・【ジェネリック医薬品】の別は問いません。

【必須入力】

- ☐ 1. ある
- ☐ 2. ない

Q17 平成20年4月以降、あなたに処方されたお薬代(医療機関や薬局の窓口で支払ったお薬代)は平均1か月当たりだいたいどのくらいですか。あてはまるもの1つお選びください。

【必須入力】

- ☐ 1. 処方薬はない
- ☐ 2. 1,000円未満
- ☐ 3. 1,000円以上～3,000円未満
- ☐ 4. 3,000円以上～5,000円未満
- ☐ 5. 5,000円以上～1万円未満
- ☐ 6. 1万円以上～3万円未満
- ☐ 7. 3万円以上～5万円未満
- ☐ 8. 5万円以上～10万円未満
- ☐ 9. 10万円以上
- ☐ 10. その他(具体的に)
- ☐ 11. わからない・忘れた

Q18 あなたは【ジェネリック医薬品】を使用する場合、【先発医薬品(新薬)】と比べて、お薬代(医療機関や薬局の窓口で支払ったお薬代)がどれくらい安くなれば【ジェネリック医薬品】にしてもいいと考えますか。お考えに最も近いもの1つお選びください。

【必須入力】

- ☐ 1. 1割くらい安くなれば使ってみたい
- ☐ 2. 2割～3割安くなれば使ってみたい
- ☐ 3. 4割安くなれば使ってみたい
- ☐ 4. 5割以上安くなれば使ってみたい
- ☐ 5. 安くなっても使わない

Q19 【ジェネリック医薬品】に限らず、あなたは普段どのように薬の情報を得ていますか。
あてはまるものをすべてお選びください。

【必須入力】

- ☐ 1. 医師による説明
- ☐ 2. 薬剤師による説明
- ☐ 3. 専門学会等による説明
- ☐ 4. 本で調べる
- ☐ 5. インターネットで調べる
- ☐ 6. 国による広報
- ☐ 7. 地方自治体による広報
- ☐ 8. 健康保険組合による広報
- ☐ 9. テレビCM
- ☐ 10. 新聞・雑誌の記事や広告
- ☐ 11. 病院・薬局のポスター
- ☐ 12. 友人・知人・家族などのクチコミ
- ☐ 13. その他(具体的に)
- ☐ 14. 特に情報を得ていない
- ☐ 15. わからない

Q20 【ジェネリック医薬品】についてどのような情報が必要ですか。
あてはまるものをすべてお選びください。

【必須入力】

- ☐ 1. ジェネリック医薬品を使用もしくは処方している医療機関名
- ☐ 2. ジェネリック医薬品を積極的に調剤することができる薬局名
- ☐ 3. ジェネリック医薬品を製造しているメーカーの名称
- ☐ 4. 先発医薬品(新薬)に対するジェネリック医薬品の名称
- ☐ 5. 先発医薬品(新薬)と比べた価格差
- ☐ 6. 先発医薬品(新薬)と比べた薬の成分や品質、安全性の情報
- ☐ 7. その他(具体的に)
- ☐ 8. 特に必要な情報はない

Q21 「どこから」受ける情報が、【ジェネリック医薬品】の使用につながるとお考えですか。
あてはまるものをすべてをお選びください。

【必須入力】

【どこから】

- ☐ 1. 国
- ☐ 2. 地方自治体
- ☐ 3. 健康保険組合
- ☐ 4. 医療関係団体(医師会、薬剤師会等)
- ☐ 5. 病院・診療所
- ☐ 6. 薬局
- ☐ 7. ジェネリック医薬品メーカー
- ☐ 8. 日本ジェネリック医薬品学会等の専門学会
- ☐ 9. その他(具体的に)
- ☐ 10. わからない

- Q22 「どのように」受ける情報が、【ジェネリック医薬品】の使用につながるといいますか。
前問の【どこから】でお選びになったそれぞれについて、あてはまるものすべてをお選びください。
【必須入力】

		【どのように】						
		1 □頭での説明	2 ポスター	3 テレビ・ラジオ	4 新聞・雑誌	5 インターネット	6 パンフレット・リーフレット	7 その他
1. 国	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. 地方自治体	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 健康保険組合	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. 医療関係団体(医師会、薬剤師会等)	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. 病院・診療所	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6. 薬局	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7. ジェネリック医薬品メーカー	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8. 日本ジェネリック医薬品学会等の専門学会	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
9. 【Q21_9FAの選択内容】	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

- Q23 前問の【どのように】でお選びの「その他」について、具体的な内容をご記入ください。
【全て必須】

国

地方自治体

健康保険組合

医療関係団体(医師会、薬剤師会等)

病院・診療所

薬局

ジェネリック医薬品メーカー

日本ジェネリック医薬品学会等の専門学会

【Q21_9FAの選択内容】

Q24

あなたが薬局を選ぶとすると、家や医療機関(病院や診療所)からの距離や営業時間といった物理的条件以外で、優先する条件は何ですか。以下の選択肢の中でもっともあてはまるものを1つお選びください。

【必須入力】

- ☐ 1. 薬について丁寧に、わかりやすい説明してくれる薬剤師がいる
- ☐ 2. 処方された薬をすぐ入手することができる
- ☐ 3. ジェネリック医薬品を積極的に勧めてくる
- ☐ 4. ジェネリック医薬品を扱っていることを店頭で示している(例えば、ジェネリック医薬品推奨マーク 等)

Q25

あなたは、医師からは【ジェネリック医薬品】、【先発医薬品(新薬)】どちらの薬を選択しても良いと説明を受けています。あなたはどの薬局を選びますか。

以下の選択肢の中でもっともあてはまるもの1つお選びください。

【必須入力】

- ☐ 1. ジェネリック医薬品を積極的に扱っている薬局の方が遠い所にある場合でもジェネリック医薬品を扱っている薬局を選択する
- ☐ 2. 先発医薬品(新薬)を積極的に扱っている薬局のほうが遠い所にある場合でも先発医薬品(新薬)を扱っている薬局を選択する
- ☐ 3. ジェネリック医薬品、先発医薬品(新薬)の取り扱いに関わらず一番近くの薬局を選択する

Q26

医療機関(病院や診療所など)や薬局で、【ジェネリック医薬品】の処方または調剤を依頼する場合、あなたはどのようなきっかけがあれば、【ジェネリック医薬品】を依頼しやすいですか。あてはまるものすべてお選びください。

※「ジェネリック医薬品をお願いするカード」とは、ジェネリック医薬品の利用を医師や薬剤師にお願いしにくい場合に、保険証とともに医療機関や薬局に提示することによって、ジェネリック医薬品を希望することをお伝えするものです。

【必須入力】

- ☐ 1. ジェネリック医薬品をお願いするカード※を提示する
- ☐ 2. 施設内または施設入り口にジェネリック医薬品を積極的に取扱っている旨の掲示または宣言がされている
- ☐ 3. ホームページでジェネリック医薬品を積極的に取扱っていることを宣言している
- ☐ 4. 特にきっかけもツールも必要ない
- ☐ 5. その他

Q27

あなたがお住まいの市(区)・郡名をご記入ください。

【必須入力】

(市・23区・郡)

2. 参考文献リスト

○厚生労働省「社会医療診療行為別調査」各年版

○日本ジェネリック製薬協会 平成 21 年 3 月 23 日公表資料

○厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成 19 年度調査）」

- ・診療所調査：全国の一般診療所の中から無作為に抽出した 2,000 施設。
- ・病院調査：全国の病院の中から無作為に抽出した 1,000 施設。
- ・医師調査：上記「病院調査」の対象施設に勤務する、診療科の異なる 2 名の医師。
- ・調査実施時期：平成 19 年 7 月～8 月
- ・回収数
診療所調査（施設数）：688 件（回収率 34.4%）
病院調査（施設数）：408 件（回収率 40.8%）
医師調査（有効回答人数）：651 人

○厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成 20 年度調査）」

- ・診療所調査：全国の一般診療所の中から無作為に抽出した 2,000 施設。
- ・病院調査：全国の病院の中から無作為に抽出した 1,000 施設。
- ・医師調査：上記「病院調査」の対象施設に勤務する、診療科の異なる 2 名の医師。
- ・患者調査：「保険薬局調査」の対象施設に調査日に処方せんを持って来局した患者。ただし、1 施設につき最大 4 名の患者を対象とした。（4 名の内訳は、65 歳以上の男性・女性 各 1 名、65 歳未満の男性・女性 各 1 名）
- ・調査実施時期：平成 20 年 11 月～平成 21 年 2 月
- ・回収数
診療所調査（施設数）：733 件（回収率 36.7%）
病院調査（施設数）：326 件（回収率 32.6%）
医師調査（有効回答人数）：431 人
患者調査（有効回答人数）：1,717 人

○公正取引委員会「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書」

- ・調査実施時期：平成 18 年 1 月～9 月
- ・回収数
医薬品メーカー：発送 113 件 回収 98 社（回収率 86.7%）
卸売業者：発送 134 件 回収 109 社（回収率 81.3%）
医療機関：発送 500 件 回収 355 社（回収率 71.0%）
消費者モニター：発送 1084 名 回収 1056 名（回収率 97.4%）

○健康保険組合連合会「医療に関する国民意識調査」

・調査対象：

アンケート会社が保有するモニターから、地域・都市規模等の母集団比率に応じて層化し、2,000 人を抽出

・調査方法

アンケート法（自記式：郵送発送・郵送回収）

実施時期：平成 19 年 9 月

回収数 1,263 人（回収率 63.2%）